

下妻市国民健康保険
第2期データヘルス計画
第3期特定健康診査等実施計画



下妻市イメージキャラクター「シモンちゃん」

平成30年3月
下妻市

第1章 下妻市の特性把握と分析結果	
1. 下妻市の特性把握	5
(1) 基本情報	5
(2) 医療費等の状況	7
(3) 特定健康診査受診状況及び特定保健指導実施状況	8
(4) 介護保険の状況	17
(5) 主たる死因の状況	19
(6) 死亡数及び標準化死亡比	20
2. 医療情報分析結果	21
(1) 基礎統計	21
(2) 高額レセプトの件数及び医療費	23
(3) 疾病別医療費	29
第2章 第2期データヘルス計画	
1. 計画策定について	45
(1) 背景	45
(2) 基本方針	46
(3) データヘルス計画の位置づけ	47
(4) 計画期間	47
2. 過去の取り組みの振り返りと評価	49
3. 保健事業実施に係る分析結果	57
(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析	57
(2) 特定保健指導に係る分析	58
(3) 健診異常値放置者に係る分析	59
(4) 生活習慣病治療中断者に係る分析	61
(5) 糖尿病性腎症重症化予防に係る分析	63
(6) 受診行動適正化に係る分析	67
(7) ジェネリック医薬品普及率に係る分析	70
(8) 服薬情報に係る分析	73
(9) COPD患者の実態と潜在患者分析	75
(10) ロコモティブシンドロームの実態と潜在患者分析	77
4. 分析結果に基づく健康課題の把握	80
(1) 分析結果	80
(2) 下妻市国民健康保険被保険者の健康課題	87
(3) 対策の方向性	88
5. 保健事業実施計画	89
(1) 各事業の目的と概要一覧	89
(2) 全体スケジュール	93
(3) 各事業の実施内容と評価方法	94

第3章 第3期特定健康診査等実施計画	
1. 計画の基本的な考え方	105
(1) 計画策定の主旨	105
(2) 特定健康診査・特定保健指導の定義と対象	105
(3) 計画の期間	105
2. これまでの取り組みと評価	106
(1) 基本的な評価の考え方	106
(2) 具体的な評価内容	106
(3) 第2期計画期間内の評価	106
3. 目標の設定	108
(1) 特定健康診査及び特定保健指導の目標値	108
4. 特定健康診査及び特定保健指導の実施方法	109
(1) 特定健康診査	109
(2) 特定保健指導	110
(3) 年間の実施スケジュール	112
5. 計画の評価と見直し	112
第4章 その他	
1. データヘルス計画の評価	115
(1) 評価	115
(2) 評価時期	115
2. 特定健康診査等実施計画の評価	115
(1) 評価	115
(2) 評価時期	115
3. 計画の公表・周知	116
4. データヘルス計画における事業運営上の留意事項	116
5. 特定健康診査等実施計画における事業運営上の留意事項	116
(1) 各種検(健)診等との連携	116
(2) 健康づくり事業との連携	116
6. 地域包括ケアに係る取り組み	116
7. 個人情報の保護	116
参考資料	
地区分析	
1. 大分類による疾病別医療費地区別統計	
2. 中分類による疾病別医療費地区別統計	
巻末資料	
1. 「指導対象者群分析」のグループ分けの見方	
2. 用語解説集	
3. 疾病分類表	

第1章 下妻市の特性把握と分析結果

1. 下妻市の特性把握

(1) 基本情報

本市の平成29年度における、人口構成概要を以下に示す。高齢化率(65歳以上)は25.5%で県・同規模・国より低い割合である、国民健康保険被保険者数は12,685人で、市の人口に占める国民健康保険加入率は29.3%である。国民健康保険被保険者平均年齢は49.1歳である。

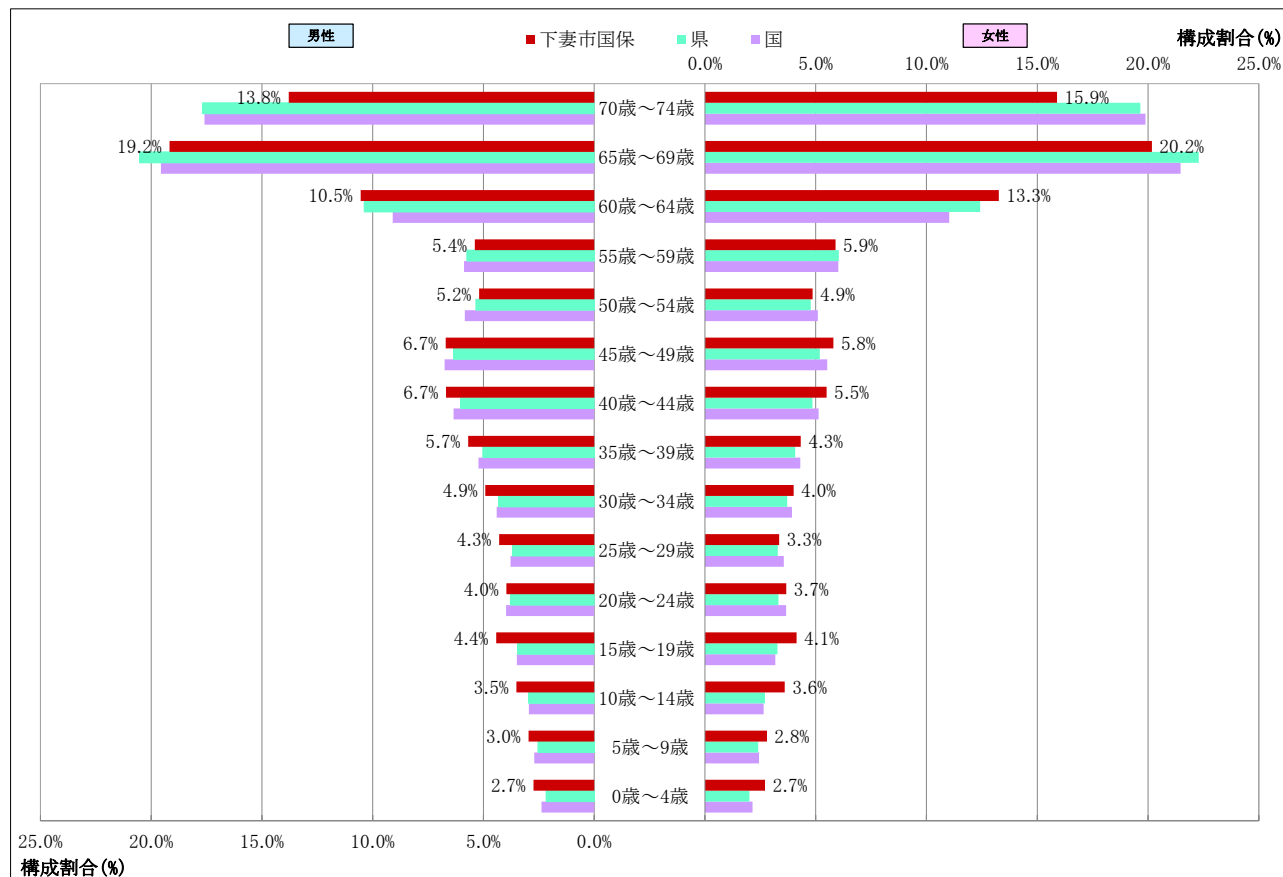
人口構成概要(平成29年度)

	人口総数(人)	高齢化率 (65歳以上)	国保被保険者数 (人)	国保加入率	国保被保険者 平均年齢(歳)	出生率	死亡率
下妻市国保	43,277	25.5%	12,685	29.3%	49.1	7.5%	11.7%
県	2,883,341	26.8%	769,186	26.7%	51.7	7.5%	10.8%
同規模	33,322	32.8%	8,473	25.4%	54.5	6.6%	14.2%
国	125,640,987	26.6%	31,883,050	25.9%	51.2	8.0%	10.3%

※「県」は茨城県を指す。以下すべての表において同様である。

出典: 国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

男女・年齢階層別 被保険者数構成割合ピラミッド(平成29年度)



出典: 国保データベース(KDB)システム「人口及び被保険者の状況」

本市の平成26年度と平成29年度における、人口構成概要を以下に示す。平成29年度を平成26年度と比較すると、国民健康保険被保険者数12,685人は平成26年度14,811人より2,126人減少しており、国民健康保険被保険者平均年齢49.1歳は平成26年度47.2歳より1.9歳上昇している。

年度別 人口構成概要

区分		人口総数 (人)	高齢化率 (65歳以上)	国保被保険者数 (人)	国保加入率	国保被保険者 平均年齢(歳)	出生率	死亡率
下妻市	平成26年度	43,613	22.3%	14,811	34.0%	47.2	8.6%	11.1%
	平成29年度	43,277	25.5%	12,685	29.3%	49.1	7.5%	11.7%
県	平成26年度	2,914,135	22.8%	878,261	30.1%	49.8	8.2%	9.8%
	平成29年度	2,883,341	26.8%	769,186	26.7%	51.7	7.5%	10.8%
同規模	平成26年度	34,457	29.1%	9,406	27.3%	52.8	7.2%	13.0%
	平成29年度	33,322	32.8%	8,473	25.4%	54.5	6.6%	14.2%
国	平成26年度	124,852,975	23.2%	32,318,324	28.8%	50.3	8.6%	9.6%
	平成29年度	125,640,987	26.6%	31,883,050	25.9%	51.2	8.0%	10.3%

出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

(2) 医療費等の状況

本市の平成28年度における、医療基礎情報を以下に示す。

千人当たりの病院数は、同規模・国を下回っていて、受診率も県・同規模・国を下回っているが、医療費は、外来の割合が県・同規模・国より高い傾向である。

医療基礎情報(平成28年度)

医療項目	下妻市	県	同規模	国
千人当たり				
病院数	0.2	0.2	0.4	0.3
診療所数	1.8	2.2	2.9	3.0
病床数	17.7	40.2	59.8	46.8
医師数	2.5	6.5	7.5	9.2
外来患者数	651.9	660.4	724.9	696.2
入院患者数	13.5	16.9	24.4	18.8
受診率	665.4	677.3	749.2	715.0
一件当たり医療費(円)	33,070	35,690	39,480	36,130
一般(円)	33,220	35,600	39,480	36,080
退職(円)	27,780	39,770	39,380	38,750
後期(円)	0	0	0	0
外来				
外来費用の割合	65.1%	62.2%	57.1%	60.5%
外来受診率	651.9	660.4	724.9	696.2
一件当たり医療費(円)	21,980	22,760	23,300	22,450
一人当たり医療費(円)	14,330	15,030	16,890	15,630
一日当たり医療費(円)	14,730	15,220	14,810	14,160
一件当たり受診回数	1.5	1.5	1.6	1.6
入院				
入院費用の割合	34.9%	37.8%	42.9%	39.5%
入院率	13.5	16.9	24.4	18.8
一件当たり医療費(円)	566,820	540,820	521,100	542,990
一人当たり医療費(円)	7,680	9,150	12,690	10,200
一日当たり医療費(円)	33,140	35,160	30,260	34,600
一件当たり在院日数	17.1	15.4	17.2	15.7

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

(3) 特定健康診査受診状況及び特定保健指導実施状況

① 特定健康診査

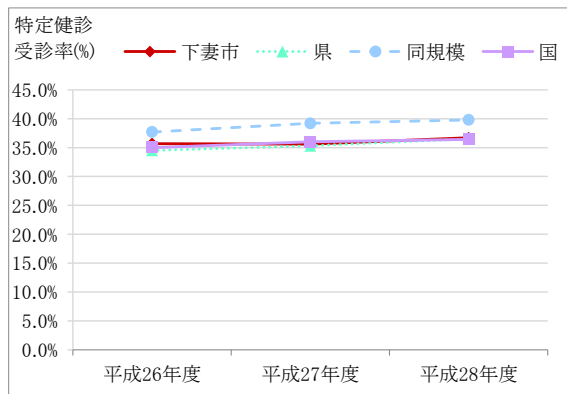
本市の平成26年度から平成28年度における、40歳から74歳の特定健康診査受診率を年度別に示す。平成28年度の特定健康診査受診率36.7%は平成26年度35.7%より1.0ポイント上昇している。受診率は、県・国より高く、同規模より低い状況である。

年度別 特定健康診査受診率

	特定健診受診率		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
下妻市	35.7%	35.6%	36.7%
県	34.5%	35.3%	36.5%
同規模	37.7%	39.2%	39.8%
国	35.0%	36.0%	36.4%

出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

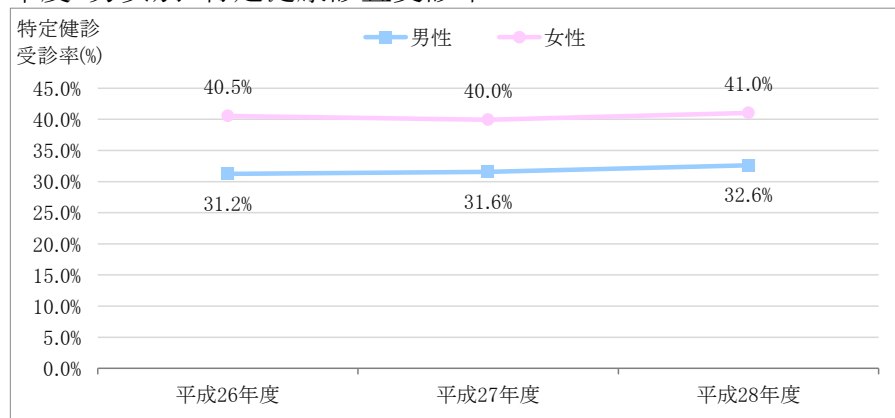
年度別 特定健康診査受診率



出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

男女別の特定健康診査の受診率をみると、男性の平成28年度受診率32.6%は平成26年度31.2%より1.4ポイント上昇し、女性の平成28年度受診率41.0%は平成26年度40.5%より0.5ポイント上昇している。

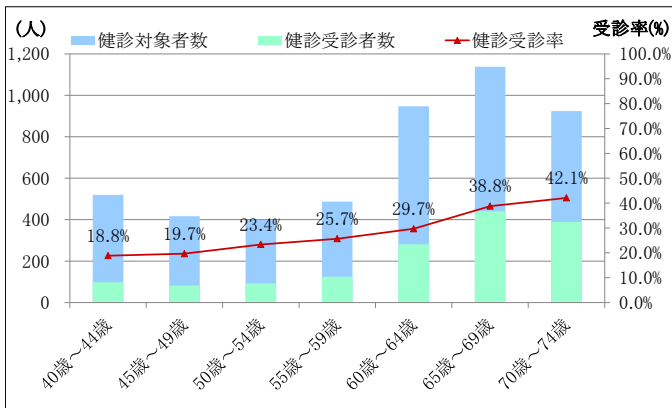
年度・男女別 特定健康診査受診率



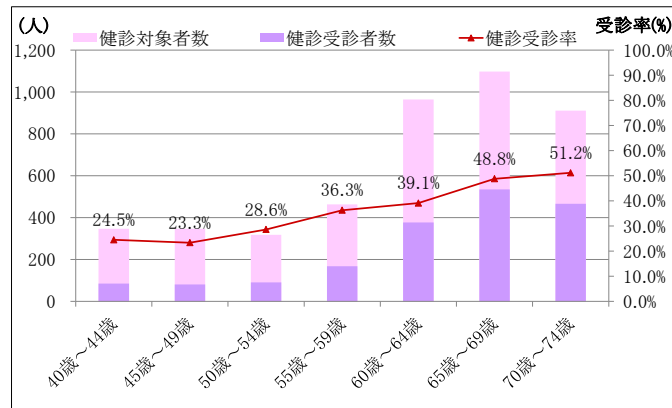
出典: 国保データベース (KDB) システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

平成26年度から28年度における、男女別・年齢階層別特定健康診査受診率を以下に示す。
各年度、男女ともに年代が高いほど受診率が高い傾向である。

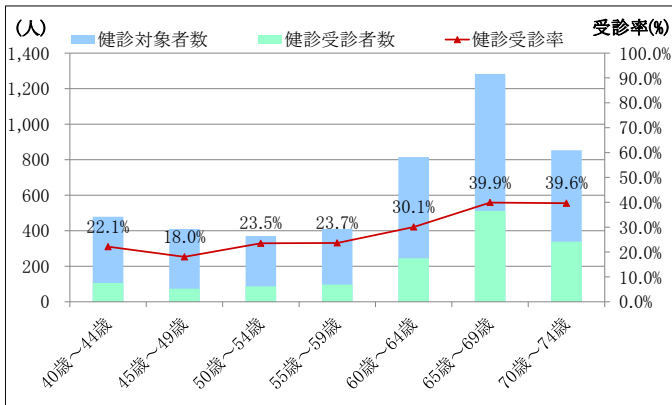
(男性)年齢別特定健康診査受診率(平成26年度)



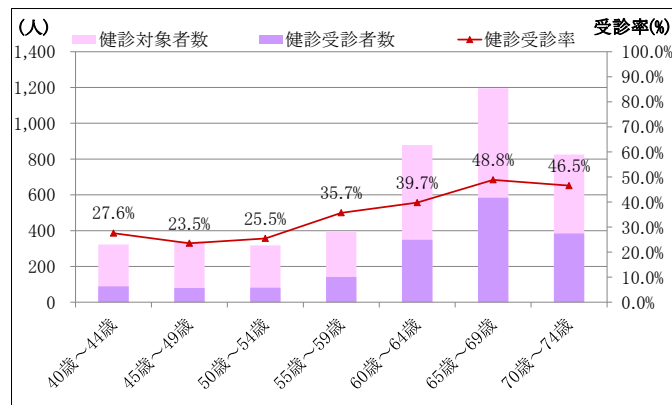
(女性)年齢別特定健康診査受診率(平成26年度)



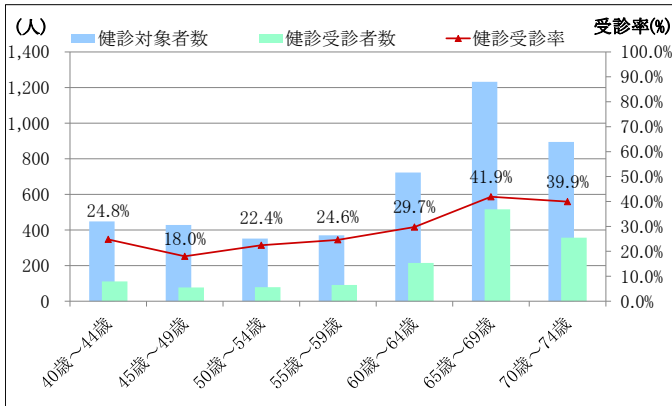
(男性)年齢別特定健康診査受診率(平成27年度)



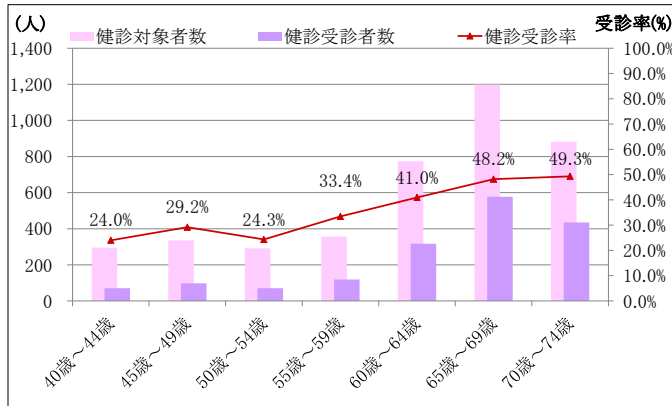
(女性)年齢別特定健康診査受診率(平成27年度)



(男性)年齢別特定健康診査受診率(平成28年度)



(女性)年齢別特定健康診査受診率(平成28年度)



出典: 国保データベース (KDB) システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

②特定保健指導

本市の平成26年度から平成28年度における、特定保健指導の実施状況を年度別に示す。
平成28年度の特定保健指導実施率36.5%は平成26年度44.5%より8.0ポイント低下している。

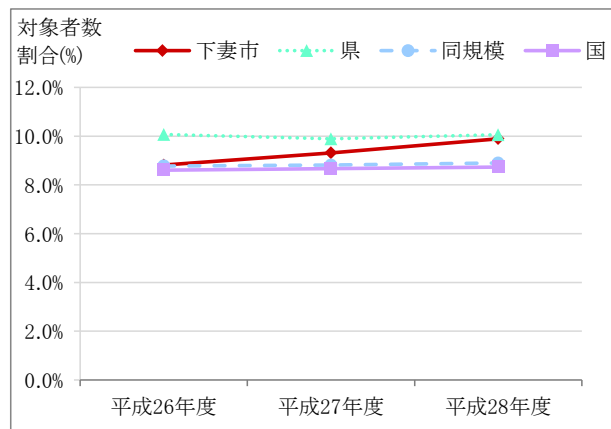
年度別 特定保健指導実施状況

	動機付け支援対象者数割合			積極的支援対象者数割合			支援対象者数割合			特定保健指導実施率		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
下妻市	8.8%	9.3%	9.9%	5.3%	5.1%	4.6%	14.1%	14.4%	14.5%	44.5%	34.5%	36.5%
県	10.1%	9.9%	10.1%	4.3%	4.1%	4.0%	14.4%	14.0%	14.0%	26.7%	26.3%	28.8%
同規模	8.8%	8.8%	8.9%	3.4%	3.3%	3.1%	12.2%	12.1%	12.0%	35.3%	36.5%	38.1%
国	8.6%	8.7%	8.7%	3.4%	3.3%	3.2%	12.0%	12.0%	12.0%	19.9%	20.2%	21.1%

動機付け支援対象者数割合・積極的支援対象者数割合・支援対象者数割合…特定健康診査を受診した人に対する割合。

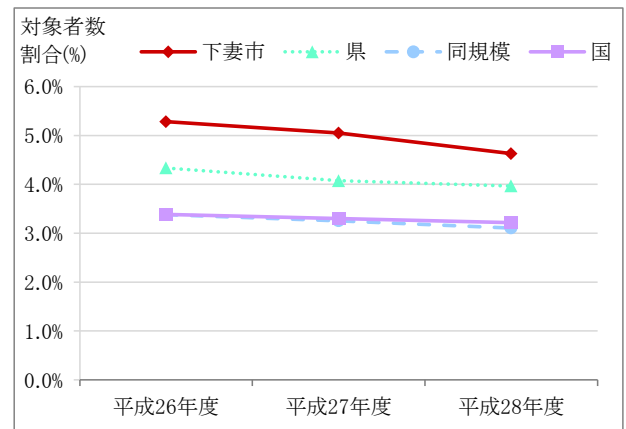
出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 動機付け支援対象者数割合



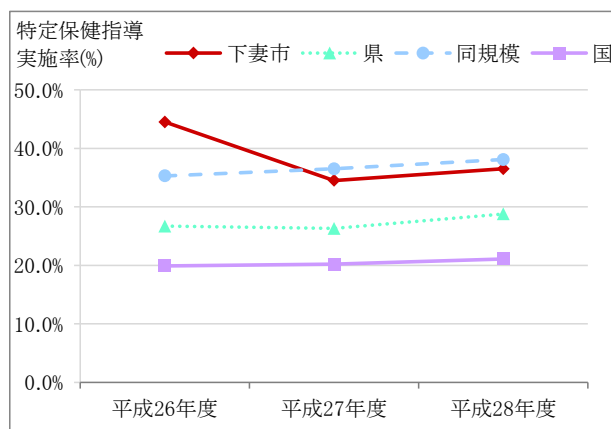
出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 積極的支援対象者数割合



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 特定保健指導実施率



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

③特定健康診査結果別有所見者の状況

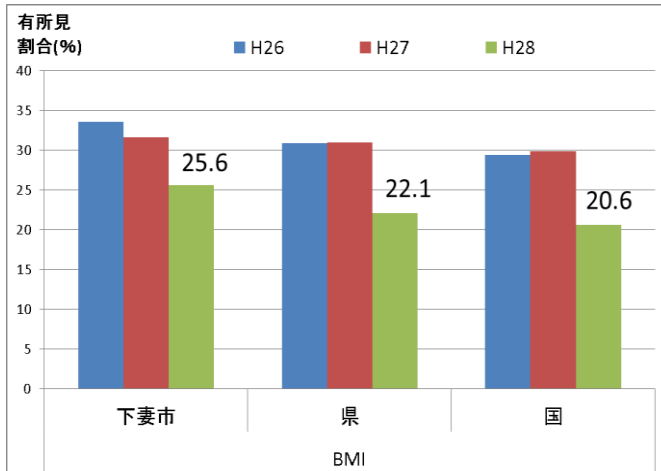
本市の平成26年度～28年度における特定健康診査結果別の有所見者の状況を男女別に示す。

●BMI・腹囲

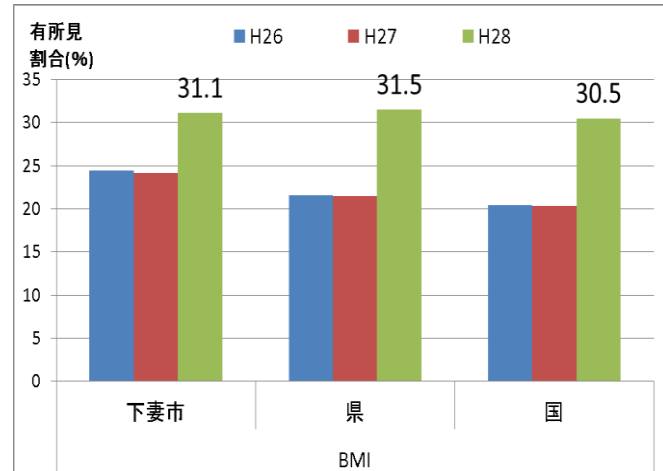
男性で基準値を超えた方の割合、BMIが国、県より高くなっている。平成26年と比べると、改善傾向である。

女性は、BMIが国よりも高く、腹囲は県より高い状態である。平成26年からでは悪化している。

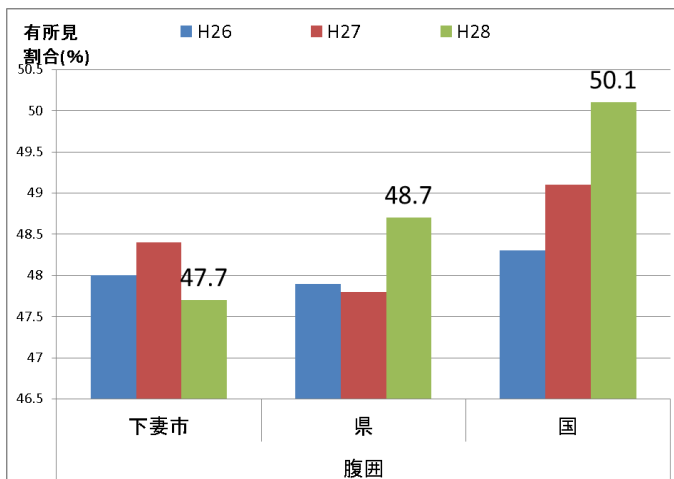
BMI(男性) 25以上



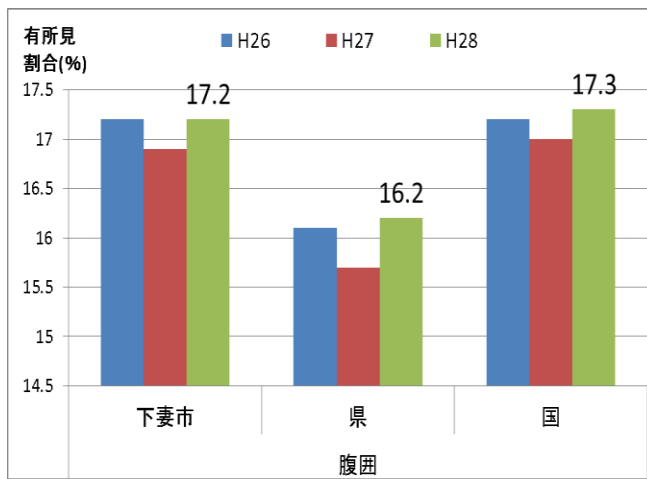
BMI(女性) 25以上



腹囲(男性) 85cm以上



腹囲(女性) 90cm以上



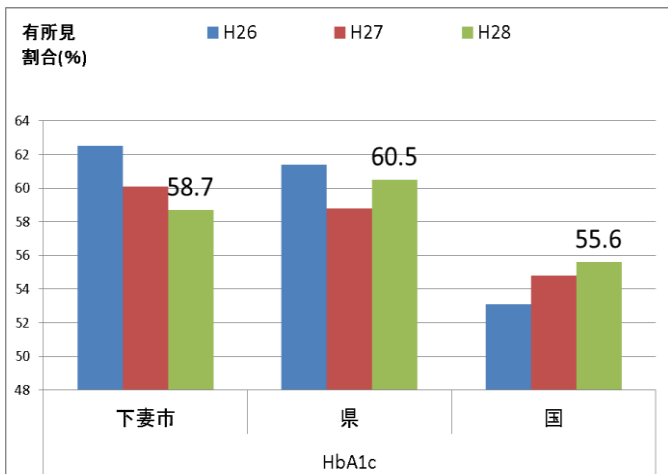
出典:国保データベース(KDB)システム「厚生労働省様式 様式6-2~7」

●HbA1c・中性脂肪

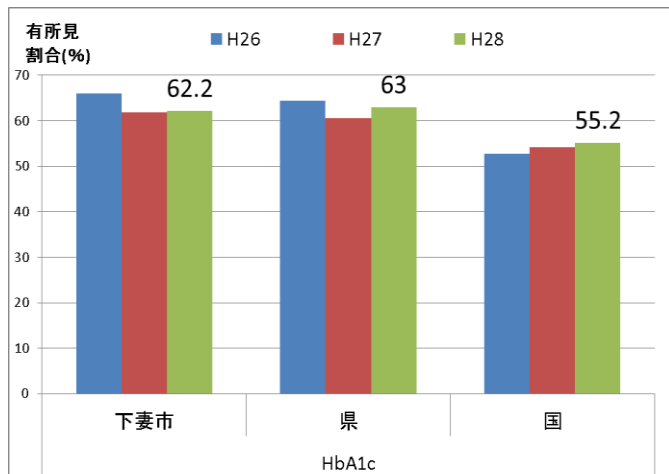
HbA1cは、男女ともに国より高い状況である。男性は平成26年から改善傾向だが、女性は横ばいで6割以上と高い状況である。

中性脂肪は、男女ともに国、県より高い状況で、平成26年と比べると改善傾向である。

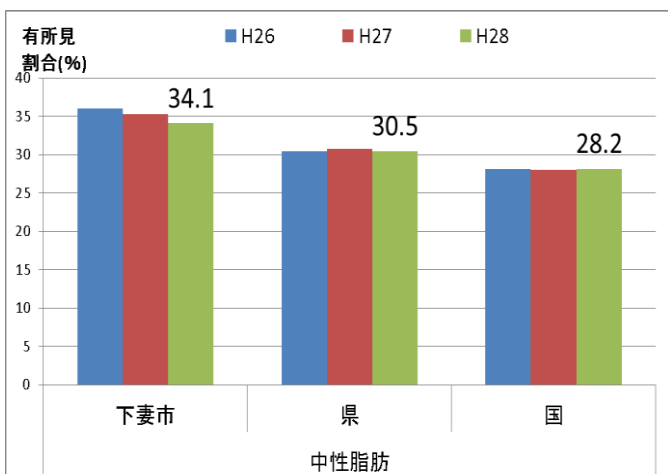
HbA1c(男性) 5.6以上



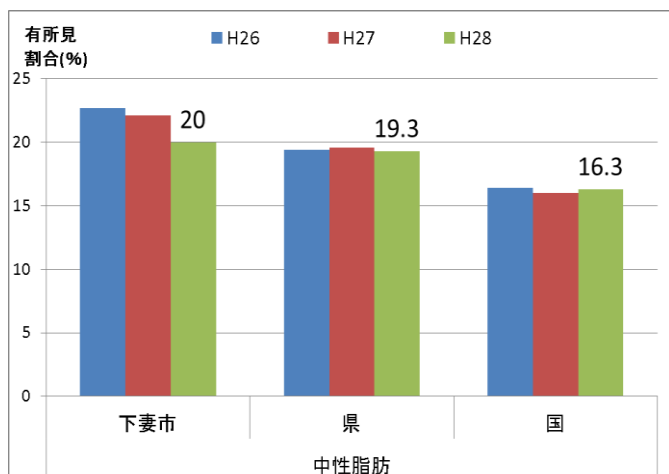
HbA1c(女性) 5.6以上



中性脂肪(男性) 140以上



中性脂肪(女性) 140以上

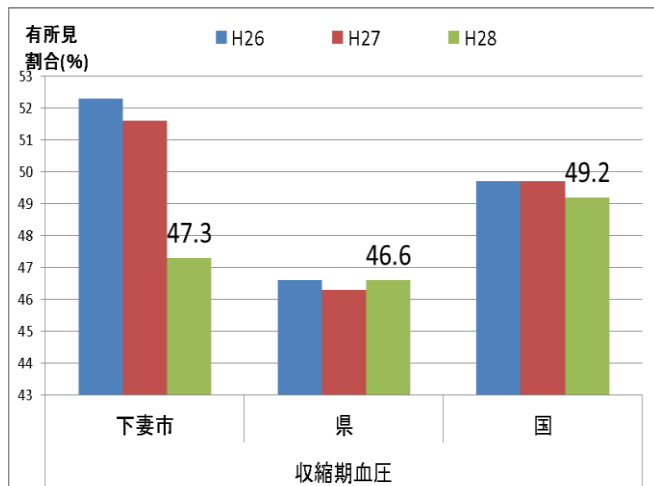


出典:国保データベース(KDB)システム「厚生労働省様式 様式6-2~7」

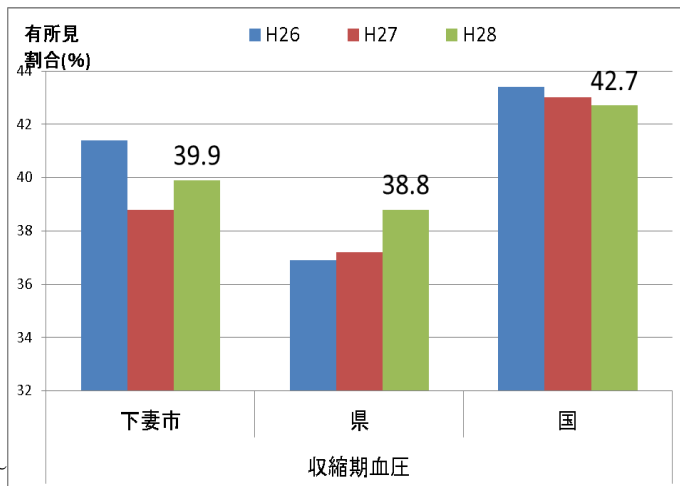
● 血圧

血圧は、収縮期血圧で男女ともに県より高い状況である。

収縮期血圧(男性) 130以上



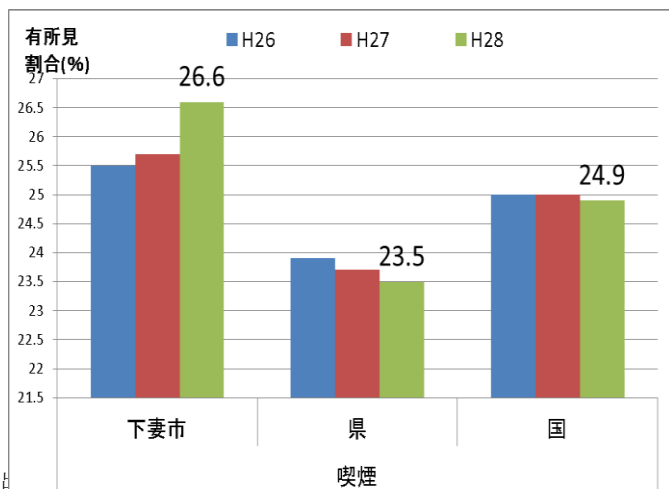
収縮期血圧(女性) 130以上



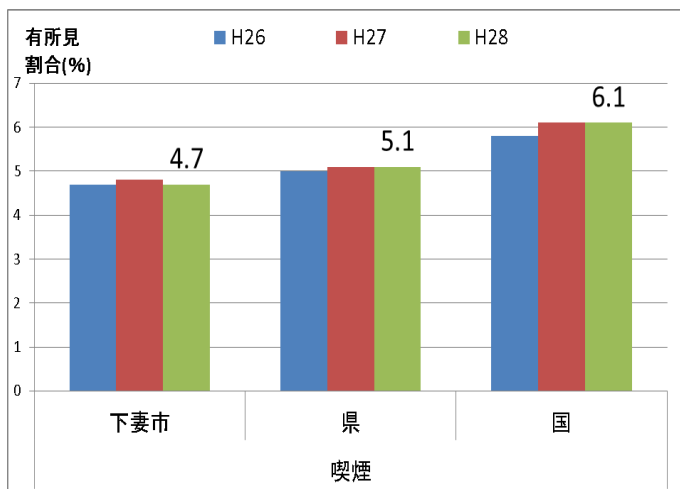
● 特定健康診査問診票の分析

男性では、喫煙の割合が国・県より高くなっている。

喫煙(男性)



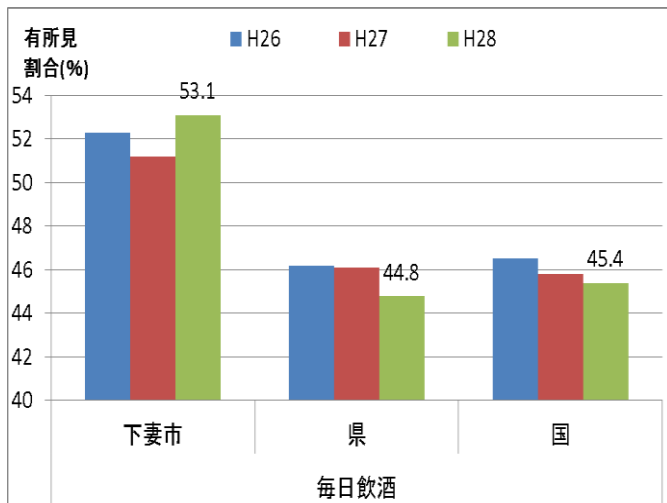
喫煙(女性)



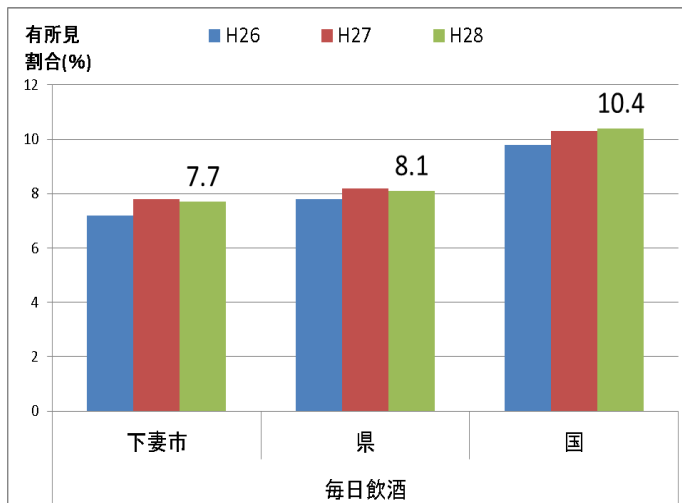
●特定健康診査問診票の分析

男性では、毎日飲酒の割合が国・県より高くなっている。また、男女ともに毎日2～3合飲酒する割合が高く、適量以上に飲酒される方が多いことが分かる。

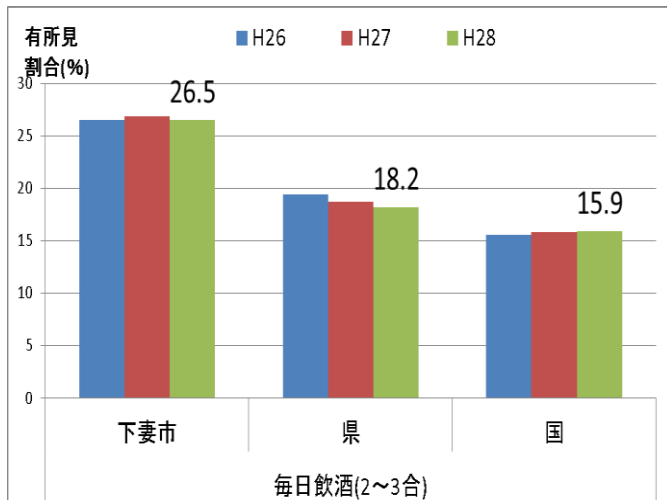
飲酒(男性) 毎日飲酒



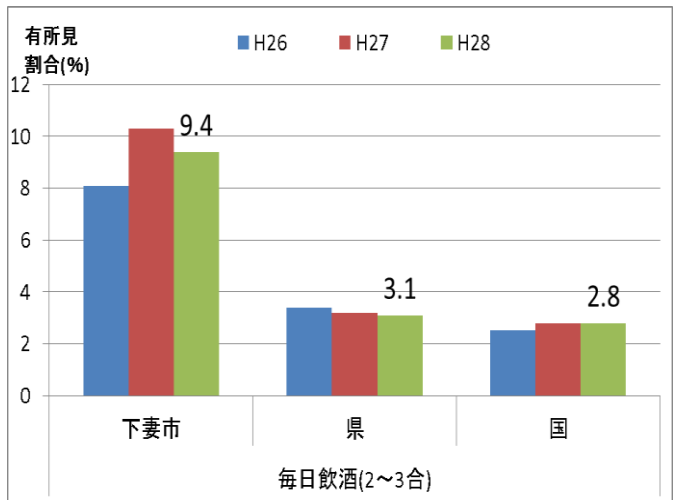
飲酒(女性) 毎日飲酒



飲酒(男性) 毎日2～3合飲酒



飲酒(女性) 毎日2～3合飲酒

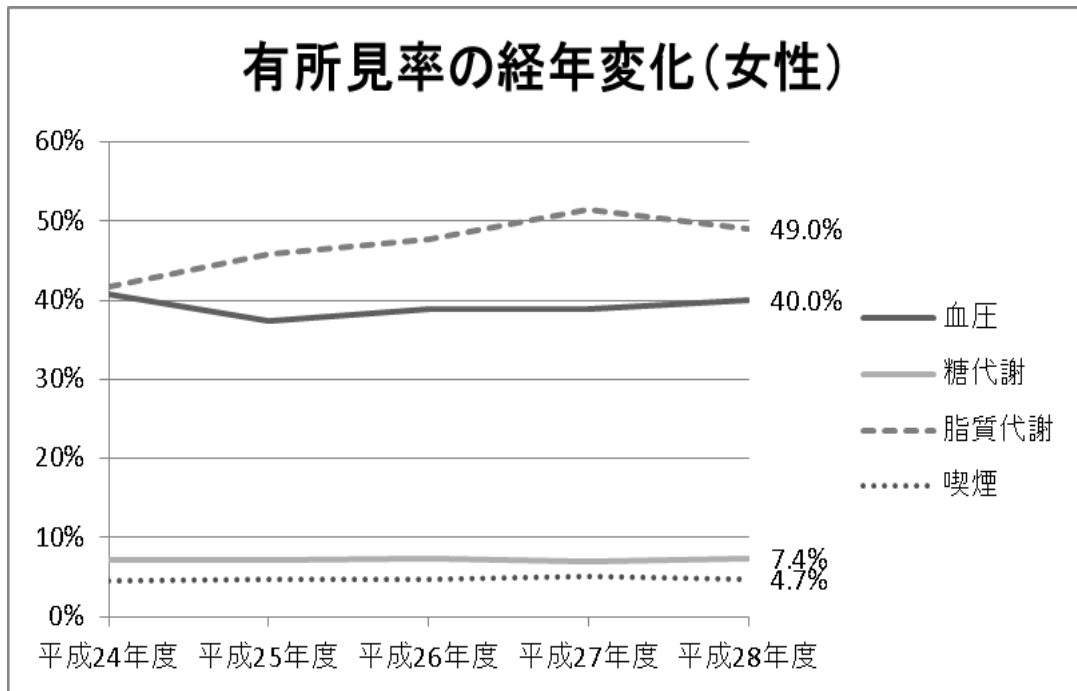
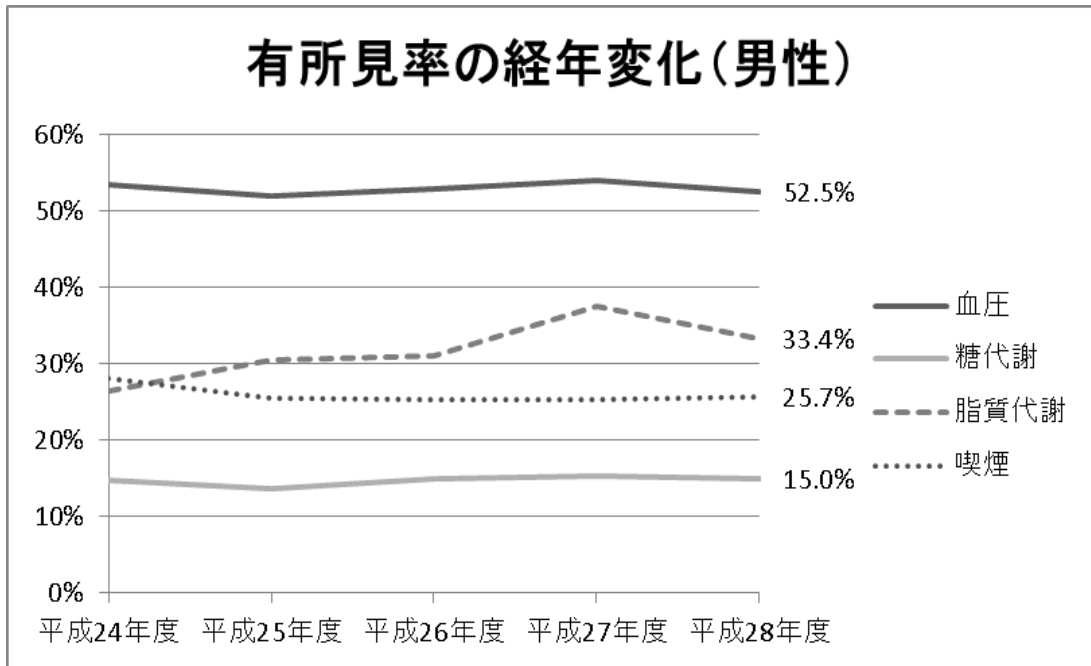


出典:国保データベース(KDB)システム「質問票調査の状況」

●ハイリスク者割合の経年変化

男性では、脂質代謝の有所見者が減少しているが、その他の項目では改善が見られなかった。

女性では、血圧の有所見者が増加傾向である。その他の項目は改善が見られず、生活習慣の改善について情報提供や保健指導に力を入れる必要がある。

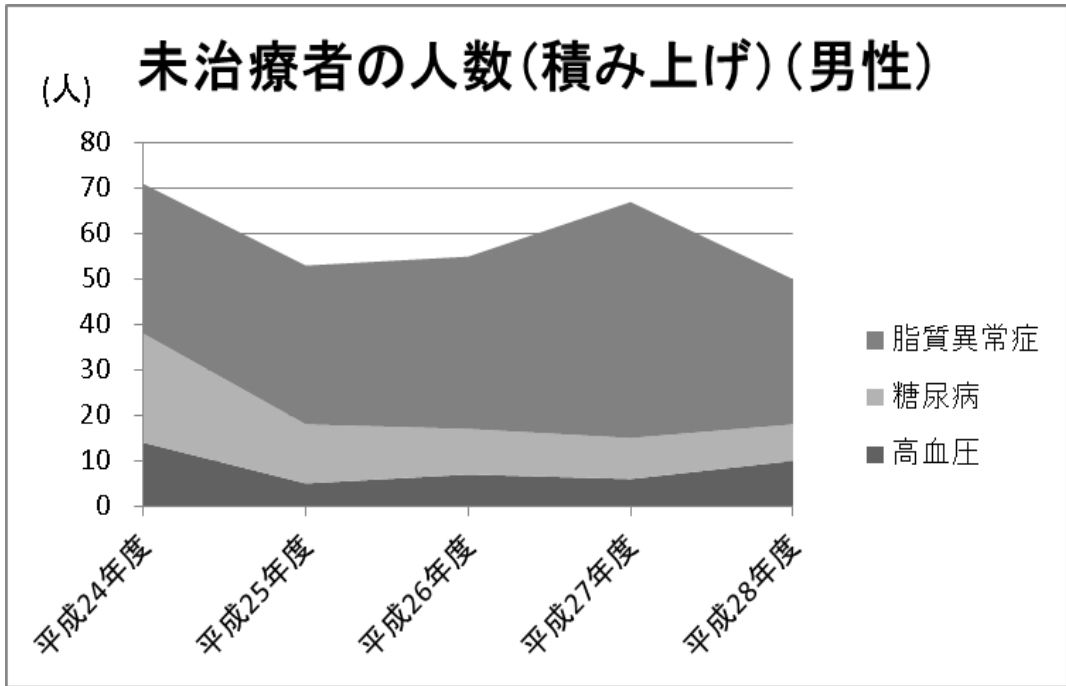


出典：FKAC167を集計。平成29年6月13日作成

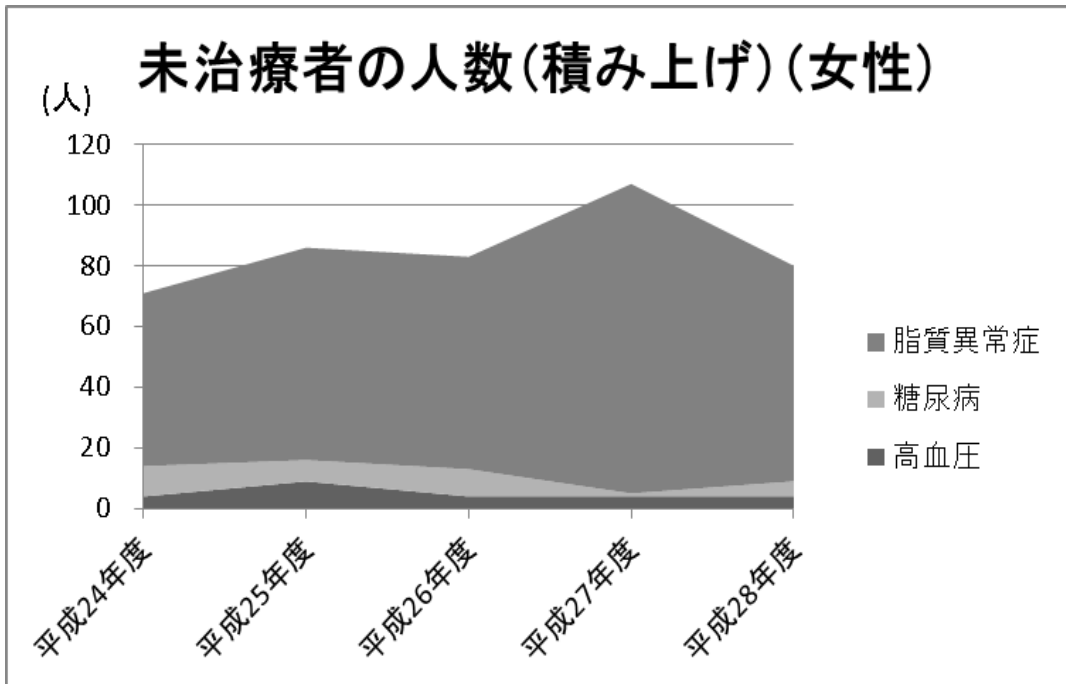
●未治療ハイリスク者数の経年変化

血圧180/110mmHg以上、HbA1c8.0以上、LDL-C180mg/dL以上の人数と、そのうち未治療者の数の割合を示している。

男女とも平成27年に増加し、平成28年には減少している。重症化予防のため訪問等による受診勧奨など強化する必要がある。



出典：FKAC167を集計。平成29年6月13日作成



出典：FKAC167を集計。平成29年6月13日作成

(4) 介護保険の状況

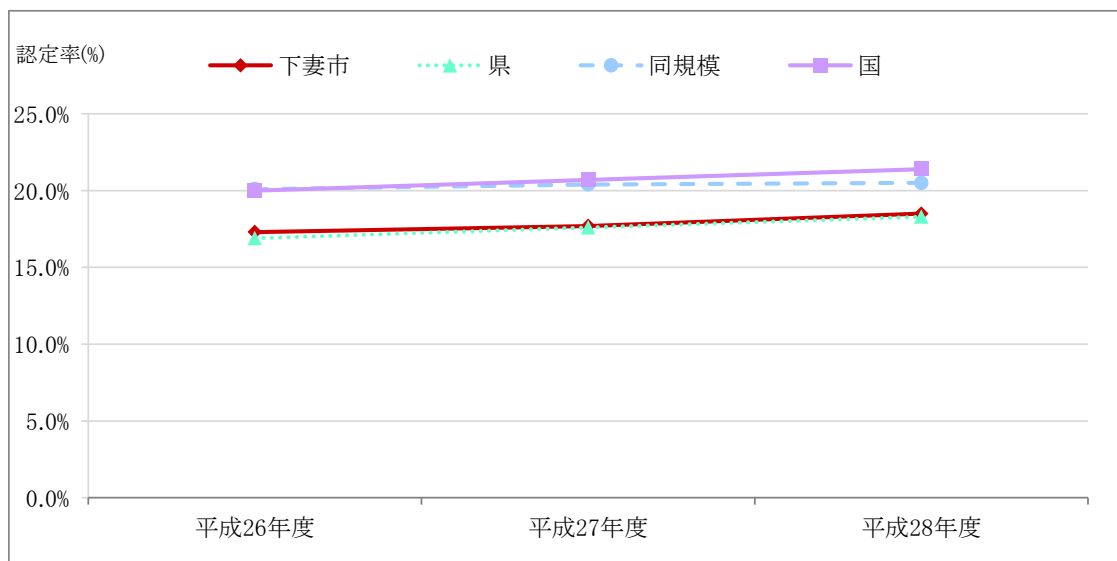
平成26年度から平成28年度における、認定率及び認定者数を年度別に示す。平成28年度認定率18.5%は平成26年度17.3%より1.2ポイント上昇しており、平成28年度の認定者数1,861人は平成26年度1,769人より92人増加している。

年度別 認定率及び認定者数

区分		認定率	認定者数(人)		
			第1号 (65歳以上)	第2号 (40歳～64歳)	
下妻市	平成26年度	17.3%	1,769	1,703	66
	平成27年度	17.7%	1,770	1,704	66
	平成28年度	18.5%	1,861	1,797	64
県	平成26年度	16.9%	118,329	114,417	3,912
	平成27年度	17.6%	122,073	118,207	3,866
	平成28年度	18.3%	125,310	121,496	3,814
同規模	平成26年度	20.1%	523,363	511,692	11,671
	平成27年度	20.4%	529,235	518,066	11,169
	平成28年度	20.5%	550,688	539,524	11,164
国	平成26年度	20.0%	5,324,880	5,178,997	145,883
	平成27年度	20.7%	5,751,982	5,602,383	149,599
	平成28年度	21.4%	6,034,085	5,882,340	151,745

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 認定率



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

本市の平成26年度から平成28年度における、認定者の疾病別有病率を年度別に示す。平成28年度の認定者が有している平均疾病数3.0疾病は平成26年度2.9疾病より増加している。

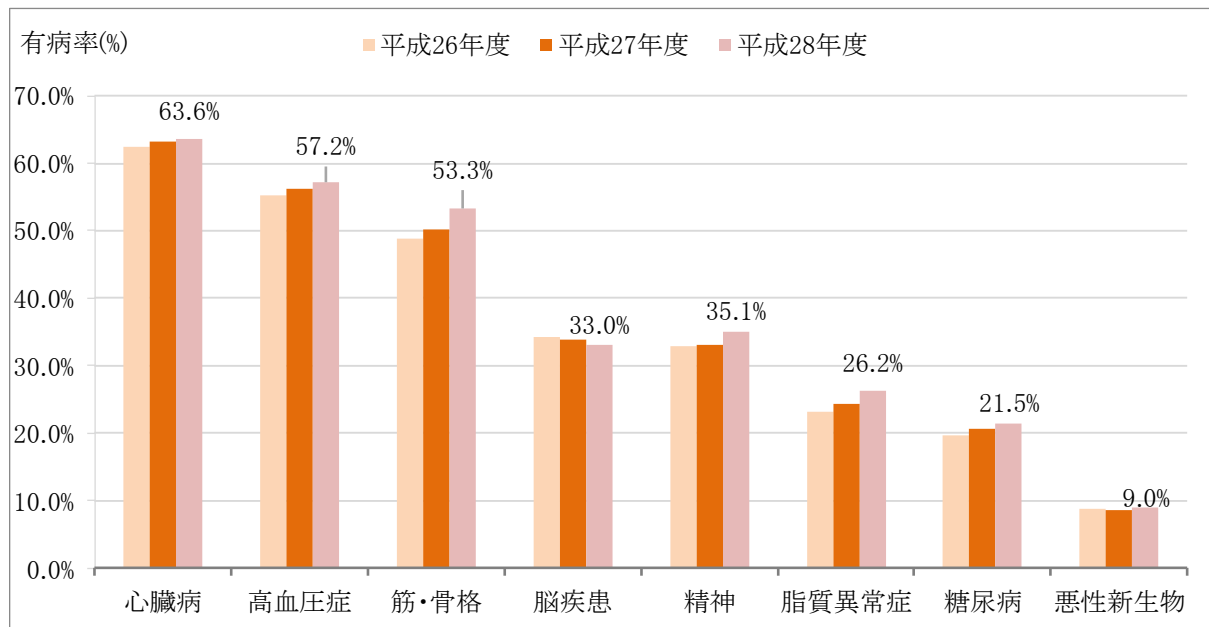
年度別 認定者の疾病別有病状況

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

区分	下妻市				県			同規模			国				
	平成26年度	順位	平成27年度	順位	平成28年度	順位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度			
認定者数(人)	1,769		1,770		1,861		118,329	122,073	125,310	523,363	529,235	550,688	5,324,880	5,751,982	6,034,085
心臓病	実人数(人)	1,109	1,111	1,184	71,637	74,328	75,828	323,192	330,980	349,121	2,914,608	3,261,576	3,511,354		
	有病率(%)	62.5%	63.2%	63.6%	60.2%	60.4%	60.5%	60.7%	61.6%	63.4%	54.8%	56.7%	58.2%		
高血圧症	実人数(人)	992	1,001	1,064	63,832	66,288	67,726	282,596	289,746	305,818	2,551,660	2,865,466	3,085,109		
	有病率(%)	55.2%	56.3%	57.2%	53.5%	53.9%	54.0%	53.0%	53.9%	55.5%	47.9%	49.7%	51.1%		
筋・骨格	実人数(人)	880	903	992	59,387	62,167	64,130	276,932	285,059	303,080	2,505,146	2,813,795	3,051,816		
	有病率(%)	48.8%	50.2%	53.3%	49.9%	50.4%	51.2%	51.9%	53.0%	55.0%	47.1%	48.9%	50.6%		
脳疾患	実人数(人)	608	605	615	33,934	34,505	34,575	149,715	150,762	154,757	1,324,669	1,455,985	1,530,506		
	有病率(%)	34.2%	33.9%	33.0%	28.8%	28.3%	27.6%	28.4%	28.2%	28.1%	25.2%	25.4%	25.4%		
精神	実人数(人)	593	607	653	39,795	41,764	43,367	191,588	199,244	213,249	1,720,172	1,963,213	2,141,880		
	有病率(%)	32.9%	33.1%	35.1%	33.4%	33.8%	34.6%	35.7%	36.8%	38.7%	32.2%	33.8%	35.5%		
脂質異常症	実人数(人)	433	447	487	30,322	31,857	33,503	142,881	149,286	159,712	1,386,541	1,586,963	1,733,323		
	有病率(%)	23.2%	24.4%	26.2%	25.0%	25.8%	26.7%	26.5%	27.5%	29.0%	25.7%	27.3%	28.7%		
糖尿病	実人数(人)	369	360	401	26,068	27,404	28,273	113,710	118,155	125,517	1,089,285	1,241,024	1,343,240		
	有病率(%)	19.6%	20.6%	21.5%	21.9%	22.1%	22.6%	21.2%	21.8%	22.8%	20.3%	21.4%	22.3%		
悪性新生物	実人数(人)	152	160	168	11,498	12,103	12,754	51,472	54,149	58,389	493,808	569,967	629,053		
	有病率(%)	8.7%	8.6%	9.0%	9.5%	9.8%	10.2%	9.6%	9.9%	10.6%	9.2%	9.8%	10.4%		
合計	実人数(人)	5,136	5,194	5,564	336,473	350,416	360,156	1,532,086	1,577,381	1,669,643	13,985,889	15,757,989	17,026,281		
	有病率(%)	2.9	2.9	3.0	2.8	2.9	2.9	2.9	3.0	3.0	2.6	2.7	2.8		

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 認定者の疾病別有病率



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

(5) 主たる死因の状況

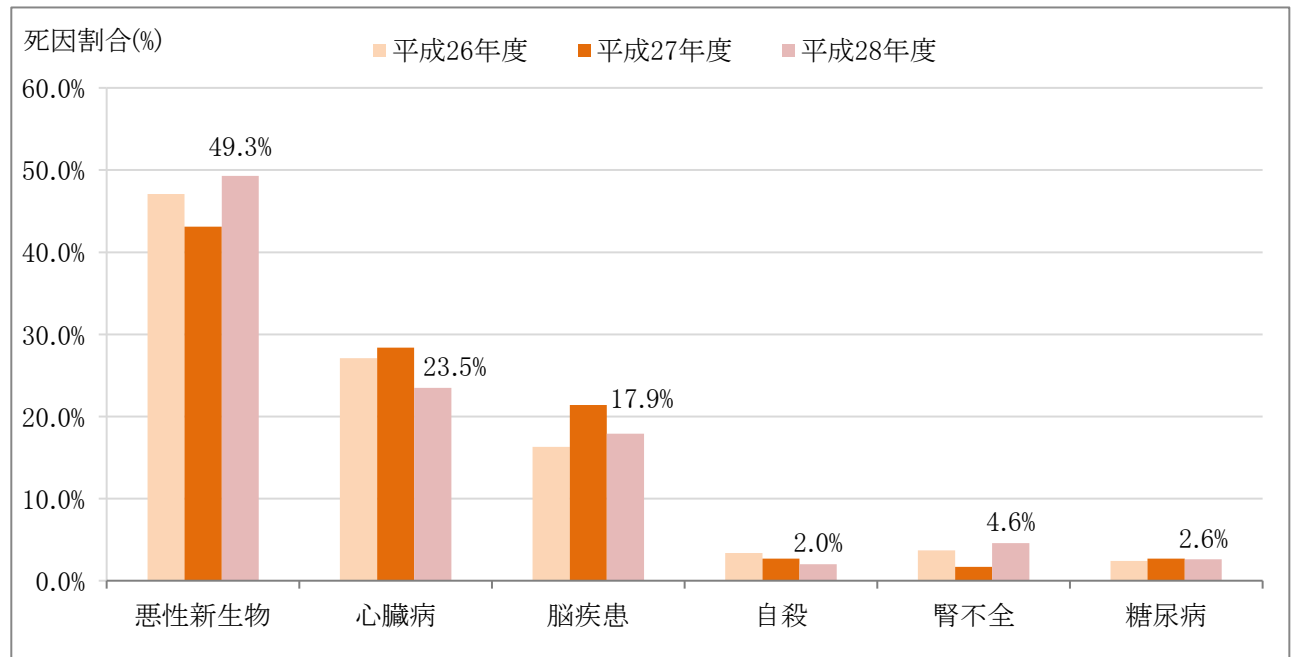
本市の平成26年度から平成28年度における、主たる死因の状況を年度別に示す。平成28年度を平成26年度と比較すると、悪性新生物を死因とする人数149人は平成26年度139人より10人増加しており、心臓病を死因とする人数71人は平成26年度80人より9人減少している。また、脳疾患を死因とする人数54人は平成26年度48人より6人増加している。

年度別 主たる死因の状況

疾病項目	下妻市						県			同規模			国		
	人数(人)			割合(%)			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度									
悪性新生物	139	129	149	47.1%	43.1%	49.3%	45.8%	46.8%	48.1%	45.0%	45.5%	46.4%	48.3%	49.0%	49.6%
心臓病	80	85	71	27.1%	28.4%	23.5%	27.4%	26.4%	26.5%	28.2%	28.3%	28.2%	26.6%	26.4%	26.5%
脳疾患	48	64	54	16.3%	21.4%	17.9%	17.8%	18.1%	17.0%	18.3%	17.7%	17.0%	16.3%	15.9%	15.4%
自殺	10	8	6	3.4%	2.7%	2.0%	3.4%	3.4%	3.2%	3.1%	2.9%	2.7%	3.5%	3.5%	3.3%
腎不全	11	5	14	3.7%	1.7%	4.6%	3.3%	3.1%	3.2%	3.7%	3.6%	3.7%	3.4%	3.4%	3.3%
糖尿病	7	8	8	2.4%	2.7%	2.6%	2.3%	2.1%	2.1%	1.8%	1.9%	1.9%	1.9%	1.9%	1.8%
合計	295	299	302												

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 主たる死因の割合



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

(6) 死亡数及び標準化死亡比

2010年から2014年の本市の標準化死亡比を以下に示す。男女とも脳血管疾患の死亡率が高く、男性では糖尿病、女性では急性心筋梗塞・くも膜下出血の死亡率が有意に高い。

男性の死亡数及び標準化死亡比（2010年～2014年）

	全死因	悪性新生物	胃の悪性新生物	結腸及び直腸の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物	気管、気管支及び肺の悪性新生物	糖尿病	(高血圧性を除く)心疾患	急性心筋梗塞	脳血管疾患	くも膜下出血	脳内出血	脳梗塞	腎不全
標準化死亡比※1	1.14	1.07	1.28	1.32	0.84	1.20	1.80	1.11	1.30	1.32	1.36	1.32	1.34	1.16
死亡数	1317	407	73	59	30	109	24	180	53	136	12	43	79	24
期待死亡数※2	1159	379.9	57.0	44.8	35.9	90.7	13.3	162.6	40.9	103.1	8.8	32.7	59.0	20.7
期待死亡数との差	158.5	27.1	16.0	14.2	-5.9	18.3	10.7	17.4	12.1	32.9	3.2	10.3	20.0	3.3
全国に比べて有意に高い※3	○						○			○			○	
全国に比べて有意に低い※4														

女性の死亡数及び標準化死亡比（2010年～2014年）

	全死因	悪性新生物	胃の悪性新生物	結腸及び直腸の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物	気管、気管支及び肺の悪性新生物	乳房の悪性新生物	子宮の悪性新生物	糖尿病	(高血圧性を除く)心疾患	急性心筋梗塞	脳血管疾患	くも膜下出血	脳内出血	脳梗塞	腎不全
標準化死亡比※1	1.08	0.95	0.77	0.79	0.65	1.05	0.95	1.43	1.49	1.07	1.58	1.39	1.97	1.26	1.33	1.13
死亡数	1166	243	23	30	12	37	21	15	18	205	53	159	28	34	93	27
期待死亡数※2	1082	255.1	29.8	37.8	18.6	35.1	22.0	10.5	12.1	191.5	33.4	114.3	14.2	27.0	70.2	24.0
期待死亡数との差	83.8	-12.1	-6.8	-7.8	-6.6	1.9	-1.0	4.5	5.9	13.5	19.6	44.7	13.8	7.0	22.8	3.0
全国に比べて有意に高い※3	○										○	○	○		○	
全国に比べて有意に低い※4																

出典：茨城県立健康プラザ「平成29年茨城県市町村別健康指標」

※1 標準化死亡比…標準とする集団（全国）に比べ、どのくらい高いかを示す比率。全国を1とし、その比が1より大きい場合は全国平均よりも死亡率が高く、1より小さい場合は全国平均よりも死亡率が低いことを意味する。

※2 期待死亡数…公衆衛生学上の専門用語で、全国と同じ死亡率なら何人死亡するはずか以下の計算式で求めたもの。

(期待死亡数) = (年齢階層別全国死亡率) × (年齢階層別市町村の人口) の総和

※3、4 有意に…統計学上、偶然ではない（何らかの原因が存在する）可能性が高いと推測されるという意味。

2. 医療情報分析結果

(1) 基礎統計

当医療費統計は、下妻市国民健康保険における、平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)の入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプトを対象とし分析する。被保険者数、レセプト件数、医療費、患者数等は以下の通りである。被保険者数は平均13,563人、レセプト件数は平均14,015件、患者数は平均6,248人となった。また、患者一人当たりの医療費は平均48,276円となった。

基礎統計

		平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月	平成28年10月	
A	被保険者数(人)	13,870	13,682	13,663	13,655	13,646	13,658	13,620	
B	レセプト件数(件)	入院外	8,430	8,355	8,480	8,355	7,932	8,071	8,630
		入院	214	210	208	216	204	209	215
		調剤	5,715	5,523	5,533	5,422	5,186	5,308	5,632
		合計	14,359	14,088	14,221	13,993	13,322	13,588	14,477
C	医療費(円) ※	324,210,780	289,706,840	310,921,450	329,244,660	294,440,290	292,248,340	314,605,740	
D	患者数(人) ※	6,381	6,285	6,317	6,244	6,016	6,066	6,418	
C/A	被保険者一人当たりの平均医療費(円)	23,375	21,174	22,756	24,112	21,577	21,398	23,099	
C/B	レセプト一件当たりの平均医療費(円)	22,579	20,564	21,864	23,529	22,102	21,508	21,731	
C/D	患者一人当たりの平均医療費(円)	50,809	46,095	49,220	52,730	48,943	48,178	49,019	
B/A	受診率(%)	103.5%	103.0%	104.1%	102.5%	97.6%	99.5%	106.3%	
D/A	有病率(%)	46.0%	45.9%	46.2%	45.7%	44.1%	44.4%	47.1%	

		平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月	平成29年3月	12カ月平均	12カ月合計	
A	被保険者数(人)	13,469	13,468	13,379	13,326	13,324	13,563		
B	レセプト件数(件)	入院外	8,193	8,554	8,033	8,030	8,696	8,313	99,759
		入院	221	198	206	200	180	207	2,481
		調剤	5,436	5,787	5,368	5,300	5,730	5,495	65,940
		合計	13,850	14,539	13,607	13,530	14,606	14,015	168,180
C	医療費(円) ※	304,735,530	288,638,470	295,981,320	278,090,040	296,853,840	301,639,775	3,619,677,300	
D	患者数(人) ※	6,212	6,393	6,114	6,112	6,421	6,248	74,979	
C/A	被保険者一人当たりの平均医療費(円)	22,625	21,431	22,123	20,868	22,280	22,239		
C/B	レセプト一件当たりの平均医療費(円)	22,003	19,853	21,752	20,554	20,324	21,523		
C/D	患者一人当たりの平均医療費(円)	49,056	45,149	48,410	45,499	46,232	48,276		
B/A	受診率(%)	102.8%	108.0%	101.7%	101.5%	109.6%	103.3%		
D/A	有病率(%)	46.1%	47.5%	45.7%	45.9%	48.2%	46.1%		

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている、保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。

※患者数…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトの人数を集計。同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は、一人として集計。

平成26年度から平成28年度における、入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプトを対象とし年度別に分析する。平成28年度を平成26年度と比較すると、一カ月平均の被保険者数13,563人は、平成26年度11,540人より2,023人増加しており、医療費36億1,968万円は平成26年度36億5,903万円より3,935万円減少している。また、一カ月平均の患者数6,248人は、平成26年度6,627人より379人減少している。

年度別 基礎統計

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	
A	一カ月平均の被保険者数(人)	11,540	12,796	13,563	
B	レセプト件数(件)	入院外	102,912	104,719	99,759
		入院	2,541	2,588	2,481
		調剤	70,196	69,754	65,940
		合計	175,649	177,061	168,180
C	医療費(円) ※	3,659,034,450	3,808,082,480	3,619,677,300	
D	一カ月平均の患者数(人) ※	6,627	6,571	6,248	
C/A	被保険者一人当たりの平均医療費(円)	26,424	24,800	22,239	
C/B	レセプト一件当たりの平均医療費(円)	20,832	21,507	21,523	
D/A	有病率(%)	57.4%	51.4%	46.1%	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

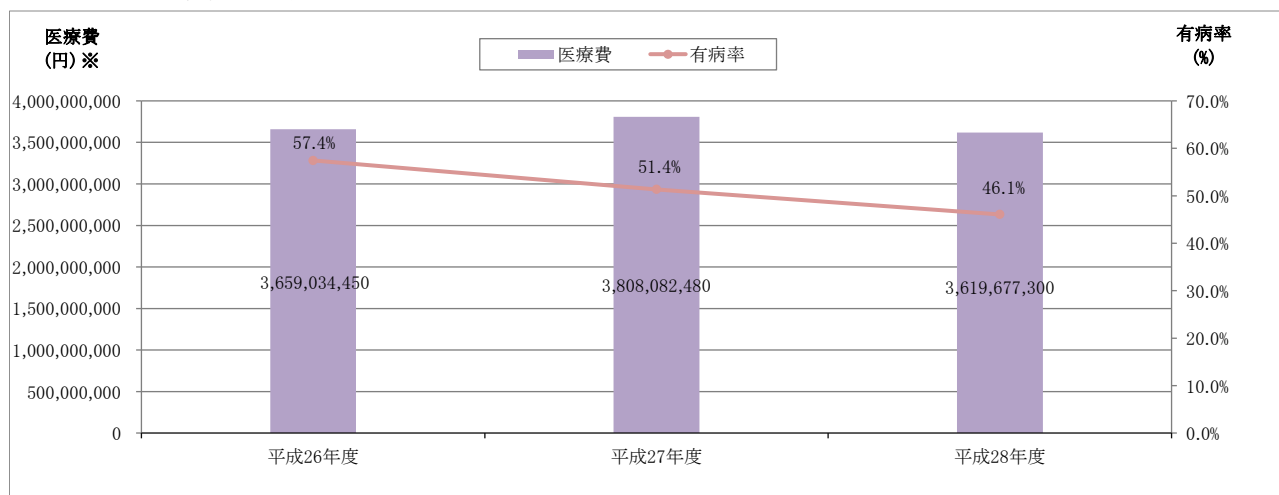
対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている、保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。

※一カ月平均の患者数…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトの人数を集計。同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は一人とし、年度毎に集計。そのため他統計とは一致しない。

年度別 医療費及び有病率



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている、保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。

(2) 高額レセプトの件数及び医療費

① 高額レセプトの件数及び割合

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトのうち、診療点数が5万点以上のものを高額レセプトとし、以下の通り集計した。高額レセプトは1,124件発生しており、レセプト件数全体の0.7%を占める。高額レセプトの医療費は11億7,725万円となり、医療費全体の32.5%を占める。

高額レセプト件数及び医療費

		平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月	平成28年10月
A	レセプト件数(件)	14,359	14,088	14,221	13,993	13,322	13,588	14,477
B	高額レセプト件数(件)	103	92	99	95	96	86	94
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	0.6%	0.6%
C	医療費(円) ※	324,210,780	289,706,840	310,921,450	329,244,660	294,440,290	292,248,340	314,605,740
D	高額レセプトの医療費(円) ※	120,299,750	88,543,730	104,674,670	122,462,270	94,399,720	88,750,150	103,171,950
E	その他レセプトの医療費(円) ※	203,911,030	201,163,110	206,246,780	206,782,390	200,040,570	203,498,190	211,433,790
D/C	総医療費に占める高額レセプトの割合(%)	37.1%	30.6%	33.7%	37.2%	32.1%	30.4%	32.8%

		平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月	平成29年3月	12カ月平均	12カ月合計
A	レセプト件数(件)	13,850	14,539	13,607	13,530	14,606	14,015	168,180
B	高額レセプト件数(件)	103	86	106	82	82	94	1,124
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	0.7%	0.6%	0.8%	0.6%	0.6%	0.7%	
C	医療費(円) ※	304,735,530	288,638,470	295,981,320	278,090,040	296,853,840	301,639,775	3,619,677,300
D	高額レセプトの医療費(円) ※	105,072,280	81,313,000	100,575,300	82,168,230	85,821,680	98,104,394	1,177,252,730
E	その他レセプトの医療費(円) ※	199,663,250	207,325,470	195,406,020	195,921,810	211,032,160	203,535,381	2,442,424,570
D/C	総医療費に占める高額レセプトの割合(%)	34.5%	28.2%	34.0%	29.5%	28.9%	32.5%	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…データ化範囲(分析対象)全体での医療費を算出。

※高額レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプトの医療費。

※その他レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプト以外の医療費。

平成26年度から平成28年度に発生している高額レセプトの集計結果を年度別に示す。平成28年度高額レセプト件数1,124件は平成26年度1,072件より52件増加しており、平成28年度高額レセプトの医療費11億7,725万円は平成26年度10億9,370万円より8,355万円増加している。

年度別 高額レセプトの件数及び医療費

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
A	レセプト件数(件)	175,649	177,061	168,180
B	高額レセプト件数(件)	1,072	1,149	1,124
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	0.6%	0.6%	0.7%
C	医療費(円) ※	3,659,034,450	3,808,082,480	3,619,677,300
D	高額レセプトの医療費(円) ※	1,093,698,600	1,213,908,560	1,177,252,730
E	その他レセプトの医療費(円) ※	2,565,335,850	2,594,173,920	2,442,424,570
D/C	総医療費に占める高額レセプトの割合(%)	29.9%	31.9%	32.5%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

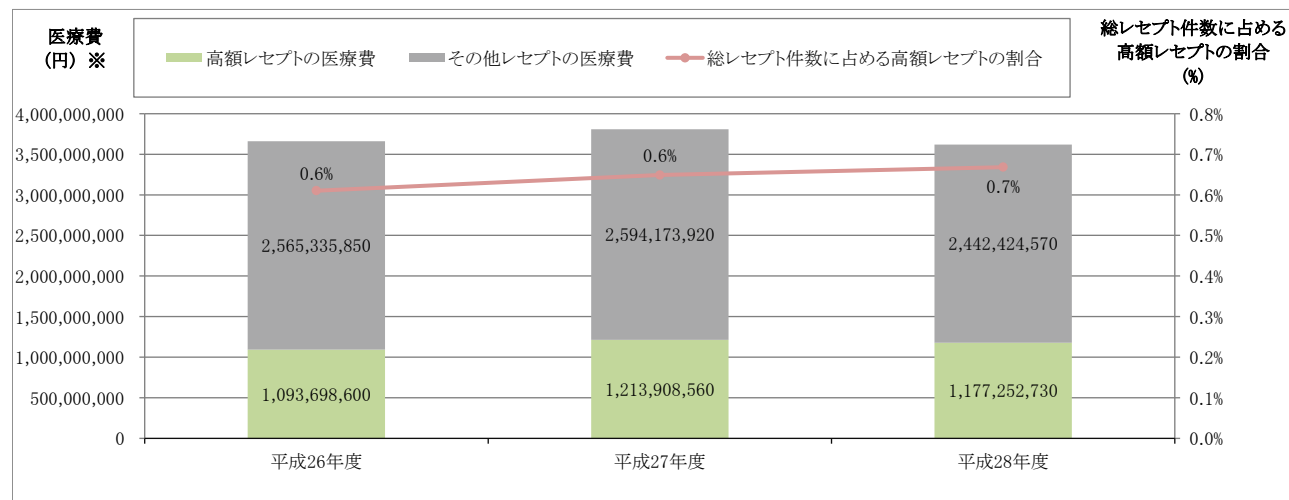
資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…データ化範囲(分析対象)全体での医療費を算出。

※高額レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプトの医療費。

※その他レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプト以外の医療費。

年度別 高額レセプトの医療費及び件数割合



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…データ化範囲(分析対象)全体での医療費を算出。

②高額レセプト発生患者の疾病傾向

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトのうち、高額レセプト発生患者の疾病傾向を示す。高額レセプト発生患者の分析対象期間の全レセプトを医療費分解後、最も医療費がかかっている疾病を主要傷病名と定義し、対象者の全医療費を集計した。患者一人当たりの医療費が高額な疾病は、「くも膜下出血」「妊娠及び胎児発育に関連する障害」「悪性リンパ腫」等となった。

高額レセプト発生患者の疾病傾向(患者一人当たりの医療費順)

順位	中分類	中分類名	主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者数 (人) ※	医療費(円) ※			患者一人当たりの 医療費(円) ※
					入院	入院外	合計	
1	0904	くも膜下出血	脳底動脈瘤破裂によるくも膜下出血, 前交通動脈瘤破裂によるくも膜下出血	2	12,652,580	426,700	13,079,280	6,539,640
2	1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	超低出生体重児, 低出生体重児, 早産児	6	32,139,610	3,497,360	35,636,970	5,939,495
3	0208	悪性リンパ腫	Bリンパ芽球性リンパ腫, 中枢神経系原発びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫, B細胞性リンパ腫	3	14,198,280	2,440,290	16,638,570	5,546,190
4	0403	脂質異常症	家族性高コレステロール血症・ホモ接合体	1	146,550	5,090,480	5,237,030	5,237,030
5	0905	脳内出血	視床出血, 脳皮質下出血, 被殻出血	7	31,890,880	2,773,890	34,664,770	4,952,110
6	1011	その他の呼吸器系の疾患	慢性呼吸不全, 薬剤性間質性肺炎, 誤嚥性肺炎	12	54,100,430	4,047,290	58,147,720	4,845,643
7	1402	腎不全	慢性腎不全, 末期腎不全, 腎不全	15	36,396,550	34,054,220	70,450,770	4,696,718
8	0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	脳性麻痺, 上肢麻痺	2	8,669,650	478,250	9,147,900	4,573,950
9	2106	その他の理由による保健サービスの利用者	生体腎移植後	1	0	4,291,780	4,291,780	4,291,780
10	1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	脳挫傷, 肝損傷・腹腔に達する開放創合併なし, 急性硬膜下血腫・頭蓋内に達する開放創合併なし	6	24,705,760	890,240	25,596,000	4,266,000
11	0903	その他の心疾患	大動脈弁狭窄症, 非弁膜症性心房細動, 蘇生に成功した心停止	21	71,530,020	14,753,270	86,283,290	4,108,728
12	0606	その他の神経系の疾患	ギラン・バレー症候群, 硬膜外膿瘍, 重症筋無力症	14	46,992,970	7,435,540	54,428,510	3,887,751
13	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌, 多発性骨髄腫, 腎癌	49	94,954,750	93,274,720	188,229,470	3,841,418
14	0107	真菌症	侵襲性肺アスペルギルス症, 肺アスペルギルス症	2	4,341,780	2,929,740	7,271,520	3,635,760
15	0105	ウイルス性肝炎	C型慢性肝炎, C型肝炎, B型急性肝炎	18	4,046,850	59,876,020	63,922,870	3,551,271
16	0912	その他の循環器系の疾患	急性大動脈解離StanfordA, 弓部大動脈瘤, 下肢急性動脈閉塞症	7	21,733,180	3,099,740	24,832,920	3,547,560
17	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	直腸癌, 直腸S状部結腸癌	8	15,165,830	12,683,190	27,849,020	3,481,128
18	0109	その他の感染症及び寄生虫症	敗血症性ショック, 敗血症, レジオネラ肺炎	5	14,814,790	2,343,200	17,157,990	3,431,598
19	0209	白血病	慢性骨髄性白血病, 急性骨髄性白血病	2	3,050,840	3,656,190	6,707,030	3,353,515
20	0906	脳梗塞	脳梗塞, 脳梗塞後遺症, ラクナ梗塞	16	48,717,730	4,633,360	53,351,090	3,334,443

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病。

※患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計した。

※医療費…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトの医療費(高額レセプトに限らない)。

※患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費。

平成26年度から平成28年度における、患者一人当たりの医療費上位5疾病を年度別に示す。

年度別 高額レセプト発生患者の疾病傾向(患者一人当たりの医療費順)

年度	順位	疾病分類(中分類)	主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者数 (人) ※	患者一人当たり の医療費(円) ※
平成26年度	1	0209 白血病	小児急性リンパ性白血病, 慢性骨髄性白血病	2	9,227,525
	2	0107 真菌症	深在性真菌症, 皮膚カンジダ症, 真菌血症	3	7,711,593
	3	0604 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	脳性麻痺	2	7,167,470
	4	1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	心原性ショック, 咯血, 低酸素血症	4	6,302,105
	5	1010 喘息	気管支喘息	1	6,148,310
平成27年度	1	1701 心臓の先天奇形	完全大血管転位症	1	12,936,590
	2	1902 頭蓋内損傷及び内臓の損傷	外傷性くも膜下出血・頭蓋内に達する開放創合併なし	1	12,801,190
	3	1009 慢性閉塞性肺疾患	慢性気管支炎	1	7,930,900
	4	0904 くも膜下出血	くも膜下出血, 中大脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血	2	7,865,500
	5	0507 その他の精神及び行動の障害	高次脳機能障害	2	6,694,090
平成28年度	1	0904 くも膜下出血	脳底動脈瘤破裂によるくも膜下出血, 前交通動脈瘤破裂によるくも膜下出血	2	6,539,640
	2	1601 妊娠及び胎児発育に関連する障害	超低出生体重児, 低出生体重児, 早産児	6	5,939,495
	3	0208 悪性リンパ腫	Bリンパ芽球性リンパ腫, 中枢神経系原発びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫, B細胞リンパ腫	3	5,546,190
	4	0403 脂質異常症	家族性高コレステロール血症・ホモ接合体	1	5,237,030
	5	0905 脳内出血	視床出血, 脳皮質下出血, 被殻出血	7	4,952,110

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36ヵ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病。

※患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計した。

※患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費。

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)の疾病傾向を患者数順に示す。患者数が多い疾病は「その他の悪性新生物<腫瘍>」「骨折」「虚血性心疾患」である。

高額レセプト発生患者の疾病傾向(患者数順)

順位	中分類	中分類名	主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者数 (人) ※	医療費(円) ※			患者一人当たりの 医療費(円) ※
					入院	入院外	合計	
1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌, 多発性骨髄腫, 腎癌	49	94,954,750	93,274,720	188,229,470	3,841,418
2	1901	骨折	大腿骨頸部骨折, 大腿骨骨幹部骨折, 圧迫骨折	37	72,424,660	9,710,750	82,135,410	2,219,876
3	0902	虚血性心疾患	狭心症, 労作性狭心症, 急性心筋梗塞	26	55,737,270	10,408,050	66,145,320	2,544,051
4	1113	その他の消化器系の疾患	クローン病, イレウス, 急性虫垂炎	23	45,432,240	12,479,770	57,912,010	2,517,913
5	0903	その他の心疾患	大動脈弁狭窄症, 非弁膜症性心房細動, 蘇生に成功した心停止	21	71,530,020	14,753,270	86,283,290	4,108,728
6	1111	胆石症及び胆のう炎	胆石性胆のう炎, 総胆管結石, 急性胆のう炎	19	22,618,030	4,583,560	27,201,590	1,431,663
7	0105	ウイルス性肝炎	C型慢性肝炎, C型肝炎, B型急性肝炎	18	4,046,850	59,876,020	63,922,870	3,551,271
7	0201	胃の悪性新生物<腫瘍>	胃体部癌, 胃癌, 噴門癌	18	37,491,300	8,186,140	45,677,440	2,537,636
9	0906	脳梗塞	脳梗塞, 脳梗塞後遺症, ラクナ梗塞	16	48,717,730	4,633,360	53,351,090	3,334,443
10	0205	気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	上葉肺癌, 下葉肺癌, 肺癌	15	35,735,810	12,241,680	47,977,490	3,198,499
10	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	統合失調症, 統合失調症様状態	15	36,271,430	3,181,530	39,452,960	2,630,197
10	0908	その他の脳血管疾患	内頸動脈狭窄症, 慢性硬膜下血腫, 未破裂脳動脈瘤	15	27,839,160	5,153,340	32,992,500	2,199,500
10	1402	腎不全	慢性腎不全, 末期腎不全, 腎不全	15	36,396,550	34,054,220	70,450,770	4,696,718
14	0606	その他の神経系の疾患	ギラン・バレー症候群, 硬膜外膿瘍, 重症筋無力症	14	46,992,970	7,435,540	54,428,510	3,887,751
15	1011	その他の呼吸器系の疾患	慢性呼吸不全, 薬剤性間質性肺炎, 誤嚥性肺炎	12	54,100,430	4,047,290	58,147,720	4,845,643
16	0211	良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	子宮筋腫, 卵巣のう腫, 良性縦隔腫瘍	11	6,839,980	4,491,290	11,331,270	1,030,115
16	1303	脊椎障害(脊椎症を含む)	腰部脊柱管狭窄症, 頸椎症性脊髄症, 胸椎後縦靭帯骨化症	11	28,996,340	6,810,470	35,806,810	3,255,165
18	0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	肝細胞癌, 肝内胆管癌	10	18,419,850	7,534,240	25,954,090	2,595,409
18	0704	その他の眼及び付属器の疾患	裂孔原性網膜剥離, 網膜前膜, 網膜剥離	10	8,691,260	3,544,750	12,236,010	1,223,601
18	1302	関節症	変形性膝関節症, 原発性膝関節症, 両側性原発性膝関節症	10	21,318,610	4,517,560	25,836,170	2,583,617

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病。

※患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計した。

※医療費…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトの医療費(高額レセプトに限らない)。

※患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費。

平成26年度から平成28年度における、患者数上位5疾病を年度別に示す。

年度別 高額レセプト発生患者の疾病傾向(患者数順)

年度	順位	疾病分類(中分類)	主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者数 (人) ※	患者一人当たり の医療費(円) ※
平成26年度	1	0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌, 多発性骨髄腫, 甲状腺乳頭癌	33	3,612,469
	2	0902 虚血性心疾患	狭心症, 不安定狭心症, 急性心筋梗塞	30	2,479,957
	3	1402 腎不全	慢性腎不全, 末期腎不全, 急性腎前性腎不全	23	3,728,947
	4	1113 その他の消化器系の疾患	イレウス, 上行結腸憩室出血, 急性虫垂炎	22	2,409,275
	5	1901 骨折	橈骨遠位端骨折, 骨盤骨折, 大腿骨頸上骨折	22	2,657,970
平成27年度	1	0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌, 多発性骨髄腫, 卵巣癌	40	3,575,851
	2	0902 虚血性心疾患	狭心症, 不安定狭心症, 陳旧性心筋梗塞	39	2,819,046
	3	0903 その他の心疾患	うつ血性心不全, 非弁膜症性心房細動, 発作性心房細動	31	2,836,791
	4	1113 その他の消化器系の疾患	クローン病, イレウス, 急性閉塞性化膿性胆管炎	29	1,858,391
	5	1901 骨折	大腿骨頸部骨折, 橈骨遠位端骨折, 脛骨高原骨折	27	2,454,567
平成28年度	1	0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌, 多発性骨髄腫, 腎癌	49	3,841,418
	2	1901 骨折	大腿骨頸部骨折, 大腿骨骨幹部骨折, 圧迫骨折	37	2,219,876
	3	0902 虚血性心疾患	狭心症, 労作性狭心症, 急性心筋梗塞	26	2,544,051
	4	1113 その他の消化器系の疾患	クローン病, イレウス, 急性虫垂炎	23	2,517,913
	5	0903 その他の心疾患	大動脈弁狭窄症, 非弁膜症性心房細動, 蘇生に成功した心停止	21	4,108,728

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病。

※患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計した。

※患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費。

(3) 疾病別医療費

①大分類による疾病別医療費統計

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトより、疾病項目毎に医療費総計、レセプト件数、患者数を算出した。「循環器系の疾患」が医療費合計の16.7%、「新生物<腫瘍>」は医療費合計の13.1%と高い割合を占めている。

大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	130,014,773	3.6%	12	13,759	11	3,871	8	33,587	14
II. 新生物<腫瘍>	472,203,624	13.1%	2	11,055	13	2,700	10	174,890	3
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	21,280,627	0.6%	17	4,415	17	1,155	16	18,425	19
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	334,804,444	9.3%	3	53,327	2	5,094	4	65,725	10
V. 精神及び行動の障害	248,260,281	6.9%	7	14,062	10	1,207	14	205,684	2
VI. 神経系の疾患	194,620,650	5.4%	9	26,130	6	2,505	11	77,693	8
VII. 眼及び付属器の疾患	130,535,836	3.6%	11	15,983	8	3,903	7	33,445	15
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	21,939,960	0.6%	16	4,729	15	1,183	15	18,546	18
IX. 循環器系の疾患	603,481,462	16.7%	1	62,704	1	5,126	3	117,730	4
X. 呼吸器系の疾患	255,438,590	7.1%	6	37,804	4	6,890	1	37,074	13
X I. 消化器系の疾患 ※	292,703,904	8.1%	4	47,906	3	5,777	2	50,667	12
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	81,876,864	2.3%	13	17,878	7	3,938	6	20,791	16
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	285,305,780	7.9%	5	36,319	5	4,551	5	62,691	11
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	235,037,280	6.5%	8	12,290	12	2,311	13	101,704	5
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	10,560,782	0.3%	20	330	20	123	20	85,860	7
X VI. 周産期に発生した病態 ※	26,318,097	0.7%	15	106	21	47	21	559,960	1
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	15,748,679	0.4%	18	526	18	170	18	92,639	6
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	60,635,877	1.7%	14	14,351	9	3,253	9	18,640	17
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	170,448,831	4.7%	10	8,021	14	2,483	12	68,646	9
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	12,903,696	0.4%	19	4,699	16	711	17	18,149	20
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	898,053	0.0%	21	484	19	132	19	6,803	21
合計	3,605,018,090			167,297		11,985		300,794	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

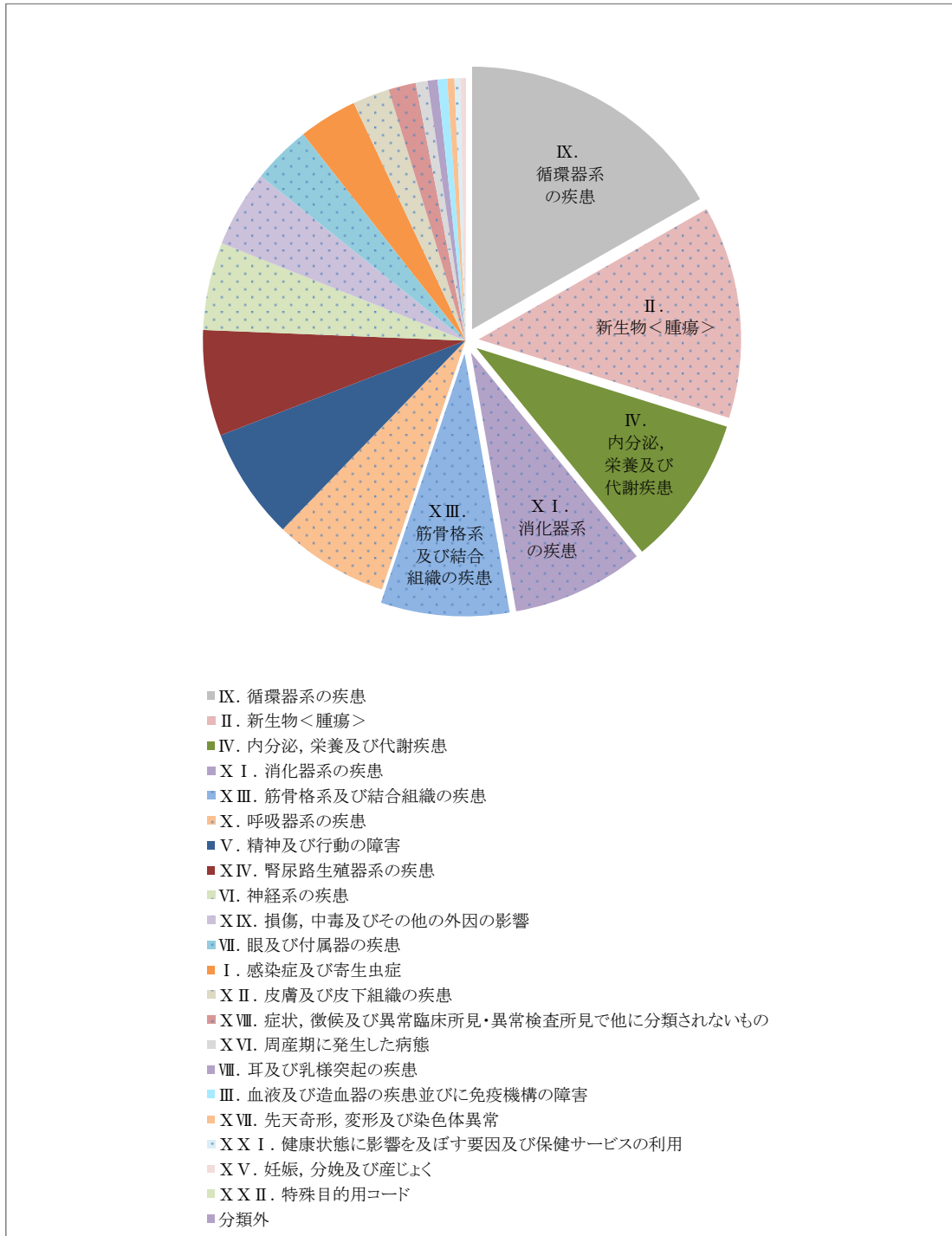
※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

疾病項目別医療費割合は、「循環器系の疾患」「新生物<腫瘍>」「内分泌，栄養及び代謝疾患」「消化器系の疾患」「筋骨格系及び結合組織の疾患」の医療費で過半数を占める。

疾病項目別医療費割合



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

平成26年度から平成28年度に発生しているレセプトより、疾病項目毎に医療費総計を算出し年度別に示す。

年度別 大分類による疾病別医療費統計 ※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	97,670,754	2.7%	12	163,315,045	4.3%	10	130,014,773	3.6%	12
II. 新生物<腫瘍>	440,452,229	12.1%	2	447,661,493	11.8%	2	472,203,624	13.1%	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	20,081,818	0.6%	15	25,670,007	0.7%	15	21,280,627	0.6%	17
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	356,406,006	9.8%	3	347,109,760	9.1%	3	334,804,444	9.3%	3
V. 精神及び行動の障害	249,176,447	6.9%	8	269,772,643	7.1%	6	248,260,281	6.9%	7
VI. 神経系の疾患	160,227,621	4.4%	9	197,171,345	5.2%	9	194,620,650	5.4%	9
VII. 眼及び付属器の疾患	133,423,119	3.7%	11	130,882,872	3.4%	12	130,535,836	3.6%	11
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	15,752,559	0.4%	16	23,074,118	0.6%	16	21,939,960	0.6%	16
IX. 循環器系の疾患	666,714,934	18.3%	1	686,825,374	18.1%	1	603,481,462	16.7%	1
X. 呼吸器系の疾患	275,969,016	7.6%	6	262,648,626	6.9%	7	255,438,590	7.1%	6
X I. 消化器系の疾患 ※	321,650,383	8.9%	4	320,385,460	8.4%	5	292,703,904	8.1%	4
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	83,185,757	2.3%	13	91,128,574	2.4%	13	81,876,864	2.3%	13
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	306,112,756	8.4%	5	324,112,012	8.5%	4	285,305,780	7.9%	5
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	254,293,063	7.0%	7	246,786,599	6.5%	8	235,037,280	6.5%	8
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	12,183,799	0.3%	17	9,763,116	0.3%	20	10,560,782	0.3%	20
X VI. 周産期に発生した病態 ※	6,509,663	0.2%	20	22,276,016	0.6%	17	26,318,097	0.7%	15
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	6,519,706	0.2%	19	18,654,236	0.5%	18	15,748,679	0.4%	18
X VIII. 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	77,623,791	2.1%	14	66,795,210	1.8%	14	60,635,877	1.7%	14
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	136,479,850	3.8%	10	131,896,417	3.5%	11	170,448,831	4.7%	10
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	11,669,168	0.3%	18	12,295,698	0.3%	19	12,903,696	0.4%	19
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
分類外	1,284,941	0.0%	21	1,671,189	0.0%	21	898,053	0.0%	21
合計	3,633,387,380			3,799,895,810			3,605,018,090		

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

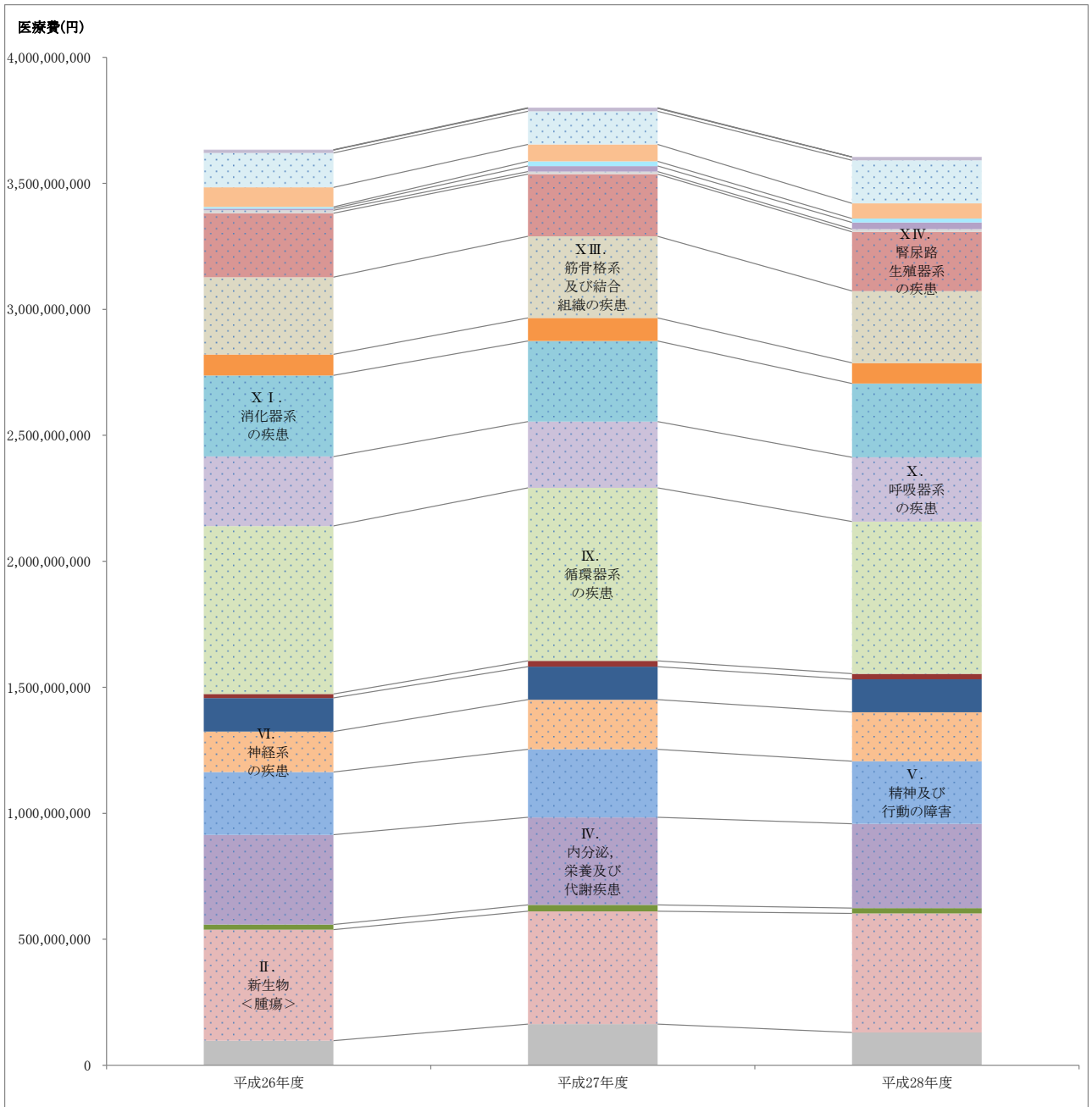
※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

年度・疾病項目別医療費統計



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

②中分類による疾病別医療費統計

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトより、疾病中分類毎に集計し、医療費、患者数、患者一人当たりの医療費、各項目の上位10疾病を示す。

中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	213,890,567	5.9%	984
2	0901	高血圧性疾患	205,078,048	5.7%	3,879
3	0402	糖尿病	183,795,886	5.1%	3,161
4	1402	腎不全	175,835,101	4.9%	192
5	1113	その他の消化器系の疾患	164,885,394	4.6%	3,439
6	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	143,780,145	4.0%	339
7	0903	その他の心疾患	138,477,534	3.8%	1,438
8	0606	その他の神経系の疾患	115,085,915	3.2%	2,248
9	0403	脂質異常症	96,862,187	2.7%	2,597
10	0902	虚血性心疾患	92,493,218	2.6%	1,132

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	205,078,048	3,879	32.4%
2	1113	その他の消化器系の疾患	164,885,394	3,439	28.7%
3	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	60,635,877	3,253	27.1%
4	1003	その他の急性上気道感染症	27,265,705	3,189	26.6%
5	0402	糖尿病	183,795,886	3,161	26.4%
6	1006	アレルギー性鼻炎	38,483,367	2,933	24.5%
7	1202	皮膚炎及び湿疹	36,308,745	2,828	23.6%
8	1105	胃炎及び十二指腸炎	35,231,937	2,803	23.4%
9	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	20,634,406	2,664	22.2%
10	0703	屈折及び調節の障害	9,562,078	2,618	21.8%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費が高額な上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	患者数 (人)	患者一人当たりの 医療費(円)
1	1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	22,278,388	22	1,012,654
2	1402	腎不全	175,835,101	192	915,808
3	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	26,766,494	43	622,477
4	0209	白血病	8,116,606	17	477,447
5	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	143,780,145	339	424,130
6	1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	23,559,119	59	399,307
7	0904	くも膜下出血	11,707,499	33	354,773
8	0501	血管性及び詳細不明の認知症	5,702,982	17	335,470
9	0602	アルツハイマー病	17,325,264	69	251,091
10	0208	悪性リンパ腫	11,873,870	52	228,344

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

平成26年度から平成28年度に発生しているレセプトより、疾病中分類毎に集計し、医療費上位10疾病を年度別に示す。

年度別 中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

年度	順位	疾病分類(中分類)		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
平成26年度	1	0901	高血圧性疾患	237,902,984	6.5%	3,905
	2	0402	糖尿病	199,661,471	5.5%	3,493
	3	1402	腎不全	189,679,664	5.2%	197
	4	1113	その他の消化器系の疾患	174,399,988	4.8%	3,516
	5	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	147,628,150	4.1%	368
	6	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	147,515,826	4.1%	1,078
	7	0903	その他の心疾患	118,465,438	3.3%	1,440
	8	0403	脂質異常症	103,863,477	2.9%	2,643
	9	0606	その他の神経系の疾患	97,008,796	2.7%	2,405
	10	0902	虚血性心疾患	96,912,697	2.7%	1,090
平成27年度	1	0901	高血圧性疾患	226,814,376	6.0%	3,938
	2	0402	糖尿病	187,989,483	4.9%	3,410
	3	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	183,594,719	4.8%	1,048
	4	1402	腎不全	180,085,555	4.7%	189
	5	1113	その他の消化器系の疾患	176,523,756	4.6%	3,674
	6	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	147,630,613	3.9%	366
	7	0903	その他の心疾患	138,763,246	3.7%	1,437
	8	0902	虚血性心疾患	131,645,234	3.5%	1,180
	9	0606	その他の神経系の疾患	110,142,280	2.9%	2,382
	10	0403	脂質異常症	102,631,001	2.7%	2,614
平成28年度	1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	213,890,567	5.9%	984
	2	0901	高血圧性疾患	205,078,048	5.7%	3,879
	3	0402	糖尿病	183,795,886	5.1%	3,161
	4	1402	腎不全	175,835,101	4.9%	192
	5	1113	その他の消化器系の疾患	164,885,394	4.6%	3,439
	6	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	143,780,145	4.0%	339
	7	0903	その他の心疾患	138,477,534	3.8%	1,438
	8	0606	その他の神経系の疾患	115,085,915	3.2%	2,248
	9	0403	脂質異常症	96,862,187	2.7%	2,597
	10	0902	虚血性心疾患	92,493,218	2.6%	1,132

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

患者数上位10疾病を年度別に示す。

年度別 中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

年度	順位	疾病分類(中分類)	医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
平成26年度	1	0901 高血圧性疾患	237,902,984	3,905	30.8%
	2	1113 その他の消化器系の疾患	174,399,988	3,516	27.7%
	3	0402 糖尿病	199,661,471	3,493	27.5%
	4	1105 胃炎及び十二指腸炎	41,233,354	3,340	26.3%
	5	1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	77,623,791	3,285	25.9%
	6	1003 その他の急性上気道感染症	24,352,270	3,094	24.4%
	7	1202 皮膚炎及び湿疹	41,096,190	3,065	24.1%
	8	1006 アレルギー性鼻炎	42,284,295	2,950	23.2%
	9	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	23,328,554	2,867	22.6%
	10	0703 屈折及び調節の障害	9,869,203	2,655	20.9%
平成27年度	1	0901 高血圧性疾患	226,814,376	3,938	31.2%
	2	1113 その他の消化器系の疾患	176,523,756	3,674	29.1%
	3	0402 糖尿病	187,989,483	3,410	27.0%
	4	1003 その他の急性上気道感染症	29,788,222	3,342	26.5%
	5	1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	66,795,210	3,244	25.7%
	6	1006 アレルギー性鼻炎	42,840,336	3,128	24.8%
	7	1105 胃炎及び十二指腸炎	41,690,382	3,088	24.5%
	8	1202 皮膚炎及び湿疹	42,124,522	3,035	24.0%
	9	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	22,266,781	2,987	23.7%
	10	1002 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	18,344,574	2,680	21.2%
平成28年度	1	0901 高血圧性疾患	205,078,048	3,879	32.4%
	2	1113 その他の消化器系の疾患	164,885,394	3,439	28.7%
	3	1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	60,635,877	3,253	27.1%
	4	1003 その他の急性上気道感染症	27,265,705	3,189	26.6%
	5	0402 糖尿病	183,795,886	3,161	26.4%
	6	1006 アレルギー性鼻炎	38,483,367	2,933	24.5%
	7	1202 皮膚炎及び湿疹	36,308,745	2,828	23.6%
	8	1105 胃炎及び十二指腸炎	35,231,937	2,803	23.4%
	9	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	20,634,406	2,664	22.2%
	10	0703 屈折及び調節の障害	9,562,078	2,618	21.8%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

患者一人当たりの医療費上位10疾病を年度別に示す。

年度別 中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費が高額な上位10疾病)

年度	順位	疾病分類(中分類)	医療費 (円) ※	患者数 (人)	患者一人当たりの 医療費(円)
平成26年度	1	0209 白血病	17,801,953	17	1,047,174
	2	1402 腎不全	189,679,664	197	962,841
	3	0208 悪性リンパ腫	31,611,961	58	545,034
	4	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	147,628,150	368	401,163
	5	0904 くも膜下出血	10,736,433	30	357,881
	6	0602 アルツハイマー病	14,322,575	66	217,009
	7	0501 血管性及び詳細不明の認知症	3,348,320	16	209,270
	8	1601 妊娠及び胎児発育に関連する障害	3,991,275	20	199,564
	9	0203 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	9,121,437	46	198,292
	10	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	52,481,165	274	191,537
平成27年度	1	1402 腎不全	180,085,555	189	952,834
	2	1601 妊娠及び胎児発育に関連する障害	17,212,570	21	819,646
	3	1701 心臓の先天奇形	10,366,969	20	518,348
	4	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	147,630,613	366	403,362
	5	0602 アルツハイマー病	21,946,608	71	309,107
	6	0904 くも膜下出血	9,879,489	32	308,734
	7	0203 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	15,048,014	51	295,059
	8	0604 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	17,990,373	62	290,167
	9	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	63,361,922	239	265,113
	10	0105 ウイルス性肝炎	79,883,298	344	232,219
平成28年度	1	1601 妊娠及び胎児発育に関連する障害	22,278,388	22	1,012,654
	2	1402 腎不全	175,835,101	192	915,808
	3	0203 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	26,766,494	43	622,477
	4	0209 白血病	8,116,606	17	477,447
	5	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	143,780,145	339	424,130
	6	1902 頭蓋内損傷及び内臓の損傷	23,559,119	59	399,307
	7	0904 くも膜下出血	11,707,499	33	354,773
	8	0501 血管性及び詳細不明の認知症	5,702,982	17	335,470
	9	0602 アルツハイマー病	17,325,264	69	251,091
	10	0208 悪性リンパ腫	11,873,870	52	228,344

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

中分類による疾病別医療費統計(全項目)

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※			レセプト件数 ※			患者数 ※		
	3,605,018,090			167,297			11,985		

疾病項目	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	130,014,773	3.6%		13,759	8.2%		3,871	32.3%		33,587	
0101 腸管感染症	9,090,591	0.3%	78	3,593	2.1%	42	1,479	12.3%	23	6,146	114
0102 結核	1,280,986	0.0%	107	269	0.2%	101	102	0.9%	95	12,559	93
0103 主として性的伝播様式をとる 感染症	1,014,395	0.0%	111	322	0.2%	97	166	1.4%	85	6,111	115
0104 皮膚及び粘膜の病変を伴う ウイルス性疾患	7,885,697	0.2%	82	1,984	1.2%	58	673	5.6%	44	11,717	96
0105 ウイルス性肝炎	59,766,537	1.7%	18	1,684	1.0%	61	367	3.1%	64	162,852	15
0106 その他のウイルス性疾患	9,961,889	0.3%	72	352	0.2%	94	180	1.5%	83	55,344	39
0107 真菌症	18,331,898	0.5%	52	3,680	2.2%	40	1,038	8.7%	32	17,661	81
0108 感染症及び寄生虫症の 続発・後遺症	145,881	0.0%	117	41	0.0%	116	7	0.1%	119	20,840	74
0109 その他の感染症及び寄生虫症	22,536,899	0.6%	45	2,975	1.8%	46	1,100	9.2%	31	20,488	75
II. 新生物<腫瘍>	472,203,624	13.1%		11,055	6.6%		2,700	22.5%		174,890	
0201 胃の悪性新生物<腫瘍>	40,972,230	1.1%	23	1,593	1.0%	63	484	4.0%	56	84,653	32
0202 結腸の悪性新生物<腫瘍>	35,207,185	1.0%	33	1,504	0.9%	65	466	3.9%	57	75,552	35
0203 直腸S状結腸移行部及び 直腸の悪性新生物<腫瘍>	26,766,494	0.7%	43	344	0.2%	96	43	0.4%	105	622,477	3
0204 肝及び肝内胆管の 悪性新生物<腫瘍>	20,750,592	0.6%	48	590	0.4%	87	175	1.5%	84	118,575	23
0205 気管、気管支及び肺の 悪性新生物<腫瘍>	46,968,669	1.3%	21	947	0.6%	76	268	2.2%	72	175,256	14
0206 乳房の悪性新生物<腫瘍>	27,050,973	0.8%	42	900	0.5%	77	186	1.6%	82	145,435	18
0207 子宮の悪性新生物<腫瘍>	3,995,765	0.1%	94	454	0.3%	92	210	1.8%	76	19,027	77
0208 悪性リンパ腫	11,873,870	0.3%	66	215	0.1%	103	52	0.4%	104	228,344	10
0209 白血病	8,116,606	0.2%	81	103	0.1%	109	17	0.1%	113	477,447	4
0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	213,890,567	5.9%	1	3,899	2.3%	39	984	8.2%	35	217,368	12
0211 良性新生物<腫瘍>及び その他の新生物<腫瘍>	36,610,673	1.0%	29	3,241	1.9%	43	1,344	11.2%	28	27,240	62
III. 血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	21,280,627	0.6%		4,415	2.6%		1,155	9.6%		18,425	
0301 貧血	9,124,278	0.3%	77	2,965	1.8%	48	733	6.1%	40	12,448	94
0302 その他の血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	12,156,349	0.3%	65	1,740	1.0%	60	608	5.1%	49	19,994	76
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	334,804,444	9.3%		53,327	31.9%		5,094	42.5%		65,725	
0401 甲状腺障害	14,146,132	0.4%	61	3,140	1.9%	44	655	5.5%	45	21,597	70
0402 糖尿病	183,795,886	5.1%	3	25,537	15.3%	4	3,161	26.4%	5	58,145	37
0403 脂質異常症	96,862,187	2.7%	9	31,017	18.5%	2	2,597	21.7%	11	37,298	52
0404 その他の内分泌、栄養及び 代謝疾患	40,000,239	1.1%	24	10,676	6.4%	14	1,496	12.5%	21	26,738	65
V. 精神及び行動の障害	248,260,281	6.9%		14,062	8.4%		1,207	10.1%		205,684	
0501 血管性及び詳細不明の認知症	5,702,982	0.2%	86	96	0.1%	110	17	0.1%	113	335,470	8
0502 精神作用物質使用による 精神及び行動の障害	4,978,835	0.1%	89	315	0.2%	98	55	0.5%	101	90,524	31
0503 統合失調症、統合失調症型障害 及び妄想性障害	143,780,145	4.0%	6	5,094	3.0%	36	339	2.8%	67	424,130	5

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※	患者数 ※
	3,605,018,090	167,297	11,985

疾病項目		医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
0504	気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	47,418,252	1.3%	20	6,171	3.7%	29	495	4.1%	53	95,794	29
0505	神経症性障害、ストレス関連障害 及び身体表現性障害	27,579,676	0.8%	40	7,406	4.4%	26	688	5.7%	43	40,087	51
0506	知的障害<精神遅滞>	2,719,318	0.1%	98	49	0.0%	115	18	0.2%	112	151,073	17
0507	その他の精神及び行動の障害	16,081,073	0.4%	57	776	0.5%	82	112	0.9%	92	143,581	19
VI. 神経系の疾患		194,620,650	5.4%		26,130	15.6%		2,505	20.9%		77,693	
0601	パーキンソン病	20,902,957	0.6%	47	2,301	1.4%	56	150	1.3%	87	139,353	20
0602	アルツハイマー病	17,325,264	0.5%	54	840	0.5%	79	69	0.6%	98	251,091	9
0603	てんかん	28,660,100	0.8%	39	2,968	1.8%	47	263	2.2%	73	108,974	24
0604	脳性麻痺及びその他の 麻痺性症候群	11,528,865	0.3%	69	295	0.2%	99	54	0.5%	103	213,498	13
0605	自律神経系の障害	1,117,549	0.0%	110	847	0.5%	78	88	0.7%	96	12,699	91
0606	その他の神経系の疾患	115,085,915	3.2%	8	22,544	13.5%	5	2,248	18.8%	15	51,195	42
VII. 眼及び付属器の疾患		130,535,836	3.6%		15,983	9.6%		3,903	32.6%		33,445	
0701	結膜炎	15,415,087	0.4%	58	8,236	4.9%	20	2,070	17.3%	16	7,447	109
0702	白内障	32,181,520	0.9%	36	5,155	3.1%	35	1,035	8.6%	33	31,093	57
0703	屈折及び調節の障害	9,562,078	0.3%	75	10,677	6.4%	13	2,618	21.8%	10	3,652	121
0704	その他の眼及び付属器の疾患	73,377,151	2.0%	12	11,340	6.8%	12	2,514	21.0%	12	29,187	59
VIII. 耳及び乳様突起の疾患		21,939,960	0.6%		4,729	2.8%		1,183	9.9%		18,546	
0801	外耳炎	783,283	0.0%	113	550	0.3%	88	213	1.8%	75	3,677	120
0802	その他の外耳疾患	1,599,230	0.0%	103	744	0.4%	84	360	3.0%	65	4,442	117
0803	中耳炎	6,985,714	0.2%	84	1,570	0.9%	64	400	3.3%	61	17,464	82
0804	その他の中耳及び 乳様突起の疾患	1,505,408	0.0%	104	490	0.3%	89	139	1.2%	89	10,830	98
0805	メニエール病	6,723,825	0.2%	85	1,286	0.8%	69	201	1.7%	78	33,452	55
0806	その他の内耳疾患	1,217,379	0.0%	108	114	0.1%	108	55	0.5%	101	22,134	68
0807	その他の耳疾患	3,125,121	0.1%	96	1,173	0.7%	71	394	3.3%	62	7,932	107
IX. 循環器系の疾患		603,481,462	16.7%		62,704	37.5%		5,126	42.8%		117,730	
0901	高血圧性疾患	205,078,048	5.7%	2	53,022	31.7%	1	3,879	32.4%	1	52,869	40
0902	虚血性心疾患	92,493,218	2.6%	10	9,827	5.9%	17	1,132	9.4%	30	81,708	33
0903	その他の心疾患	138,477,534	3.8%	7	9,960	6.0%	16	1,438	12.0%	25	96,299	28
0904	くも膜下出血	11,707,499	0.3%	68	144	0.1%	107	33	0.3%	108	354,773	7
0905	脳内出血	16,897,523	0.5%	55	394	0.2%	93	138	1.2%	90	122,446	22
0906	脳梗塞	63,372,480	1.8%	14	5,639	3.4%	31	694	5.8%	42	91,315	30
0907	脳動脈硬化(症)	19,404	0.0%	122	8	0.0%	120	3	0.0%	120	6,468	113
0908	その他の脳血管疾患	33,163,794	0.9%	34	1,027	0.6%	75	339	2.8%	67	97,828	26
0909	動脈硬化(症)	9,641,577	0.3%	74	2,410	1.4%	55	452	3.8%	59	21,331	72
0911	低血圧(症)	332,625	0.0%	116	235	0.1%	102	34	0.3%	107	9,783	101
0912	その他の循環器系の疾患	32,297,760	0.9%	35	2,625	1.6%	51	614	5.1%	47	52,602	41
X. 呼吸器系の疾患		255,438,590	7.1%		37,804	22.6%		6,890	57.5%		37,074	
1001	急性鼻咽頭炎[かぜ]<感冒>	1,345,342	0.0%	106	1,635	1.0%	62	614	5.1%	47	2,191	122
1002	急性咽喉炎及び急性扁桃炎	13,431,370	0.4%	62	7,135	4.3%	27	2,456	20.5%	13	5,469	116
1003	その他の急性上気道感染症	27,265,705	0.8%	41	11,411	6.8%	11	3,189	26.6%	4	8,550	104

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※	患者数 ※
	3,605,018,090	167,297	11,985

疾病項目		医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
1004	肺炎	16,092,181	0.4%	56	1,453	0.9%	67	608	5.1%	49	26,467	66
1005	急性気管支炎及び 急性細気管支炎	20,634,406	0.6%	49	8,106	4.8%	22	2,664	22.2%	9	7,746	108
1006	アレルギー性鼻炎	38,483,367	1.1%	26	14,139	8.5%	8	2,933	24.5%	6	13,121	89
1007	慢性副鼻腔炎	8,876,628	0.2%	79	3,670	2.2%	41	873	7.3%	37	10,168	99
1008	急性又は慢性と明示されない 気管支炎	3,451,722	0.1%	95	1,454	0.9%	66	515	4.3%	51	6,702	112
1009	慢性閉塞性肺疾患	17,937,461	0.5%	53	2,712	1.6%	50	373	3.1%	63	48,090	44
1010	喘息	38,570,216	1.1%	25	7,951	4.8%	24	1,415	11.8%	26	27,258	61
1011	その他の呼吸器系の疾患	69,350,192	1.9%	13	5,915	3.5%	30	2,257	18.8%	14	30,727	58
X I . 消化器系の疾患		292,703,904	8.1%		47,906	28.6%		5,777	48.2%		50,667	
1101	う蝕 ※	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
1102	歯肉炎及び歯周疾患	34,318	0.0%	120	17	0.0%	118	8	0.1%	118	4,290	119
1103	その他の歯及び歯の支持組織の 障害	79,976	0.0%	118	15	0.0%	119	10	0.1%	117	7,998	106
1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	31,529,485	0.9%	37	12,397	7.4%	9	1,479	12.3%	23	21,318	73
1105	胃炎及び十二指腸炎	35,231,937	1.0%	32	16,328	9.8%	6	2,803	23.4%	8	12,569	92
1106	痔核	2,930,129	0.1%	97	1,125	0.7%	73	247	2.1%	74	11,863	95
1107	アルコール性肝疾患	4,237,964	0.1%	92	346	0.2%	95	41	0.3%	106	103,365	25
1108	慢性肝炎 (アルコール性のものを除く)	2,544,703	0.1%	100	1,120	0.7%	74	146	1.2%	88	17,429	83
1109	肝硬変 (アルコール性のものを除く)	4,549,334	0.1%	91	591	0.4%	86	103	0.9%	94	44,168	48
1110	その他の肝疾患	11,824,754	0.3%	67	5,459	3.3%	33	1,745	14.6%	20	6,776	111
1111	胆石症及び胆のう炎	29,398,755	0.8%	38	2,428	1.5%	54	431	3.6%	60	68,211	36
1112	膵疾患	5,457,155	0.2%	87	755	0.5%	83	203	1.7%	77	26,883	64
1113	その他の消化器系の疾患	164,885,394	4.6%	5	30,972	18.5%	3	3,439	28.7%	2	47,946	45
X II . 皮膚及び皮下組織の疾患		81,876,864	2.3%		17,878	10.7%		3,938	32.9%		20,791	
1201	皮膚及び皮下組織の感染症	9,487,266	0.3%	76	2,491	1.5%	53	844	7.0%	39	11,241	97
1202	皮膚炎及び湿疹	36,308,745	1.0%	30	12,096	7.2%	10	2,828	23.6%	7	12,839	90
1203	その他の皮膚及び 皮下組織の疾患	36,080,853	1.0%	31	8,127	4.9%	21	1,987	16.6%	17	18,158	80
X III . 筋骨格系及び結合組織の疾患		285,305,780	7.9%		36,319	21.7%		4,551	38.0%		62,691	
1301	炎症性多発性関節障害	44,171,226	1.2%	22	6,269	3.7%	28	901	7.5%	36	49,025	43
1302	関節症	48,230,398	1.3%	19	8,084	4.8%	23	1,017	8.5%	34	47,424	46
1303	脊椎障害(脊椎症を含む)	61,015,203	1.7%	16	10,439	6.2%	15	1,493	12.5%	22	40,868	49
1304	椎間板障害	12,619,413	0.4%	64	2,495	1.5%	52	453	3.8%	58	27,857	60
1305	頸腕症候群	4,780,492	0.1%	90	3,092	1.8%	45	492	4.1%	54	9,716	102
1306	腰痛症及び坐骨神経痛	18,620,202	0.5%	50	9,605	5.7%	18	1,412	11.8%	27	13,187	88
1307	その他の脊柱障害	10,423,336	0.3%	71	1,321	0.8%	68	293	2.4%	71	35,575	54
1308	肩の傷害<損傷>	9,855,721	0.3%	73	4,593	2.7%	38	644	5.4%	46	15,304	85
1309	骨の密度及び構造の障害	37,949,489	1.1%	27	7,463	4.5%	25	847	7.1%	38	44,805	47
1310	その他の筋骨格系及び 結合組織の疾患	37,640,300	1.0%	28	8,381	5.0%	19	1,755	14.6%	19	21,447	71

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※	患者数 ※
	3,605,018,090	167,297	11,985

疾病項目	医療費総計 (円) ※			レセプト件数 ※			患者数 ※			患者一人 当たりの 医療費 (円)	
	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	順位	順位	
XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	235,037,280	6.5%	12,290	7.3%		2,311	19.3%		101,704		
1401 糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	10,831,205	0.3%	70	1,223	0.7%	70	294	2.5%	70	36,841	53
1402 腎不全	175,835,101	4.9%	4	1,983	1.2%	59	192	1.6%	80	915,808	2
1403 尿路結石症	4,984,963	0.1%	88	788	0.5%	81	192	1.6%	80	25,963	67
1404 その他の腎尿路系の疾患	18,520,063	0.5%	51	5,375	3.2%	34	1,286	10.7%	29	14,401	86
1405 前立腺肥大(症)	14,368,285	0.4%	60	2,820	1.7%	49	357	3.0%	66	40,247	50
1406 その他の男性生殖器系の疾患	1,500,750	0.0%	105	198	0.1%	104	69	0.6%	98	21,750	69
1407 月経障害及び閉経周辺期障害	1,984,764	0.1%	101	796	0.5%	80	197	1.6%	79	10,075	100
1408 乳房及びその他の女性生殖器系の疾患	7,012,149	0.2%	83	1,166	0.7%	72	491	4.1%	55	14,281	87
XV. 妊娠, 分娩及び産じょく	10,560,782	0.3%	330	330	0.2%		123	1.0%		85,860	
1501 流産	1,731,896	0.0%	102	61	0.0%	111	30	0.3%	110	57,730	38
1502 妊娠高血圧症候群	450,008	0.0%	115	2	0.0%	122	2	0.0%	122	225,004	11
1503 単胎自然分娩	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
1504 その他の妊娠, 分娩及び産じょく	8,378,878	0.2%	80	288	0.2%	100	105	0.9%	93	79,799	34
XVI. 周産期に発生した病態	26,318,097	0.7%	106	106	0.1%		47	0.4%		559,960	
1601 妊娠及び胎児発育に関連する障害	22,278,388	0.6%	46	54	0.0%	114	22	0.2%	111	1,012,654	1
1602 その他の周産期に発生した病態	4,039,709	0.1%	93	59	0.0%	112	31	0.3%	109	130,313	21
XVII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	15,748,679	0.4%	114	526	0.3%		170	1.4%		92,639	
1701 心臓の先天奇形	462,058	0.0%	114	57	0.0%	113	17	0.1%	113	27,180	63
1702 その他の先天奇形, 変形及び染色体異常	15,286,621	0.4%	59	474	0.3%	91	157	1.3%	86	97,367	27
XVIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	60,635,877	1.7%	17	14,351	8.6%	7	3,253	27.1%	3	18,640	78
1800 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	60,635,877	1.7%	17	14,351	8.6%	7	3,253	27.1%	3	18,640	78
XIX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	170,448,831	4.7%	11	8,021	4.8%		2,483	20.7%		68,646	
1901 骨折	80,634,759	2.2%	11	2,193	1.3%	57	514	4.3%	52	156,877	16
1902 頭蓋内損傷及び内臓の損傷	23,559,119	0.7%	44	149	0.1%	106	59	0.5%	100	399,307	6
1903 熱傷及び腐食	1,196,149	0.0%	109	170	0.1%	105	76	0.6%	97	15,739	84
1904 中毒	2,678,789	0.1%	99	663	0.4%	85	296	2.5%	69	9,050	103
1905 その他の損傷及びその他の外因の影響	62,380,015	1.7%	15	5,489	3.3%	32	1,956	16.3%	18	31,892	56
XXI. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	12,903,696	0.4%	121	4,699	2.8%		711	5.9%		18,149	
2101 検査及び診査のための保健サービスの利用者	24,009	0.0%	121	5	0.0%	121	3	0.0%	120	8,003	105
2102 予防接種	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
2103 正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	56,921	0.0%	119	23	0.0%	117	13	0.1%	116	4,379	118
2104 歯の補てつ	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※	患者数 ※
	3,605,018,090	167,297	11,985

疾病項目		医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
2105	特定の処置(歯の補てつを 除く)及び保健ケアのための保健 サービスの利用者	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
2106	その他の理由による保健サービスの 利用者	12,822,766	0.4%	63	4,673	2.8%	37	696	5.8%	41	18,424	79
XXII. 特殊目的用コード		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
2210	重症急性呼吸器症候群[SARS]	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
2220	その他の特殊目的用コード	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
分類外		898,053	0.0%		484	0.3%		132	1.1%		6,803	
9999	分類外	898,053	0.0%	112	484	0.3%	90	132	1.1%	91	6,803	110

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…中分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※う蝕…「う蝕」等歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

第2章 第2期データヘルス計画

1. 計画策定について

(1) 背景

「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)においては、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市区町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」としている。データヘルス計画には健康・医療情報(健康診査の結果やレセプト等から得られる情報)を活用し、健康状態や健康課題を客観的な指標を用いて示すこととある。また、これら分析結果を踏まえ、直ちに取り組むべき健康課題、中長期的に取り組むべき健康課題を明確にし、目標値の設定を含めた事業内容の企画を行うこととしている。実施計画に基づく事業の実施に当たっては、費用対効果を考慮することや、レセプトを活用し、生活習慣の改善により予防効果が大きく期待できる者を明確にし、優先順位をつけて行うこととある。

また、「日本再興戦略2016」(平成28年6月2日閣議決定)においては、「データヘルス計画を通じた企業や保険者等による健康・予防に向けた取組を強化する。」としている。こうした背景を踏まえて策定した第1期データヘルス計画を見直すとともに、第2期データヘルス計画を策定して、被保険者の健康維持増進を図る。

(2) 基本方針

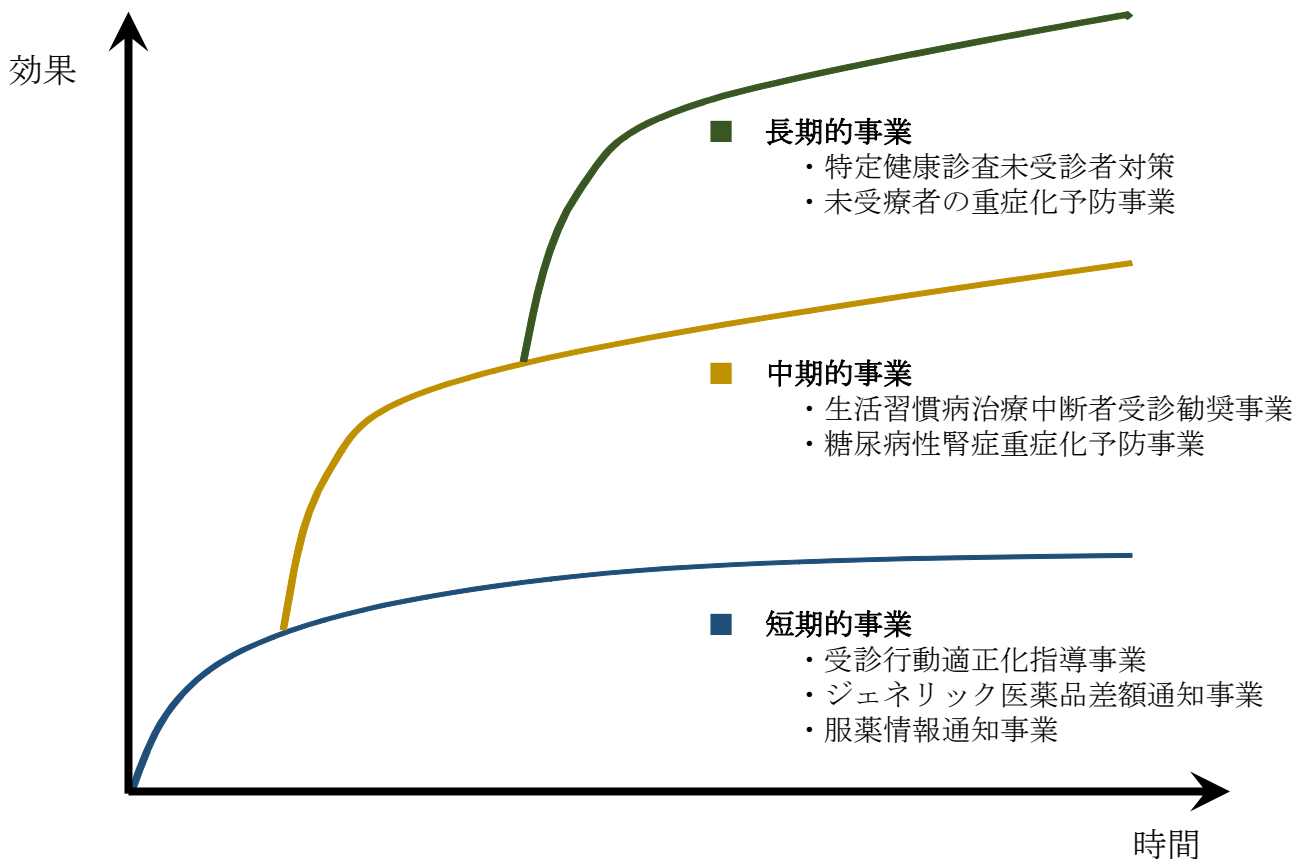
データヘルス計画では、短期的に取り組むべき対策と、中長期的に取り組むべき対策について、それぞれの段階にあった事業を行うことを計画する。

目標とする成果を達成するために、以下の基本方針でデータヘルス計画を策定する。

1. 潜在する課題を確認するため、疾病ごとの医療費比較、高額レセプトの発生状況や発生元となる疾病の把握を行い課題を明確にする。
2. 明確となった課題より、「短期的な対策」・「中長期的な対策」を選択する。費用対効果の見込める集団を特定し、PDCAサイクルを意識した継続的な事業を実施する。
3. データヘルス計画には、実施事業に対する明確な目標を設定し、記載する。またこの目標を達成することのできる効果的な実施方法を検討し、明示する。目標に対する客観的な効果測定が必要であることから、事業実施後の効果測定方法についても記載することとする。

事業には、即効性があるが効果額が小さい短期的事業と、即効性はないが将来の大きな医療費削減につながる中・長期的な事業がある。

下図は代表的な保健事業の組み合わせである。これら事業を下妻市国民健康保険の実情に合わせて、効率良く実施する。



(3) データヘルス計画の位置づけ

「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21(第2次))」に示された基本方針を踏まえるとともに、「都道府県健康増進計画」及び「市町村健康増進計画」で用いた評価指標を用いる等、それぞれの計画と整合性を図る必要がある。

(4) 計画期間

本データヘルス計画の計画期間は、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」第4の5において、「特定健康診査等実施計画及び健康増進計画との整合性を踏まえ、複数年とすること」とされていることから、第3期特定健康診査等実施計画期間である、平成30年度から平成35年度までの6年間とする。

■ 計画期間

平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
					

■ データ分析期間

- ・ 国保データベース (KDB) システムデータ
平成26年度～平成28年度(3年分)
- ・ 入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト
単年分析
平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)
年度分析
平成26年度…平成26年4月～平成27年3月診療分(12カ月分)
平成27年度…平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)
平成28年度…平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)
- ・ 健康診査データ
平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)

2. 過去の取り組みの振り返りと評価

第1期データヘルス計画に基づき実施した各事業についての達成状況を以下に示す。

なお、評価は、5:目標達成、4:改善している、3:横ばい、2:悪化している、1:評価できない、の5段階で評価する。

実施年度	事業名	事業目的	事業概要
平成27年度から平成29年度	特定健康診査未受診者対策 (特定健康診査受診率向上)	生活習慣病の発症を未然に防ぐため、健診受診率の向上を図る。	特定健康診査を受診していない人に、健康増進、疾病の予防・早期発見のために健康診査を受けていただくよう受診勧奨を行う。
平成27年度から平成29年度	特定保健指導事業	内臓脂肪症候群を発見し、生活習慣の改善を促すことで生活習慣病の発症を防ぐ。	特定健康診査の結果から特定保健指導対象者を特定し、生活習慣や検査値が改善されるように、専門職による支援を面接や電話で行う。方法は厚生労働省による「標準的な健診・保健指導プログラム」に沿うこととする。保険者が特定健康診査受診後、順次、特定保健指導対象者を特定し実施する。

5:目標達成
 4:改善している
 3:横ばい
 2:悪化している
 1:評価できない

実施内容	目標値(平成29年度末)		実績値(平成29年度末)		評価
	アウトプット	アウトカム	アウトプット	アウトカム	
<p>【平成27年度】 未実施</p> <p>【平成28年度】 性別・年代別に受診行動を促すきっかけとなるメッセージ入りのハガキを作成し、通知する。また併せて電話による勧奨を行い、健診の希望のない方については未受診の理由把握を行う。また医療機関と連携をとり(市内7医療機関)、治療中の人への健診受診勧奨を積極的に実施する。</p> <p>【平成29年度】 継続</p>	対象者への通知率 100%	<p>特定健康診査受診率</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度 55.0% 平成28年度 57.5% 平成29年度 60.0% 	<p>電話・ハガキによる受診勧奨で未受診者の理由把握を実施。また、ハガキによる受診勧奨では性別・年代別に作成し通知することができた(平成28年度222人のうち123人、平成29年度202人のうち168人がかかりつけ医に通院中のため受診しないという理由)。</p> <p>電話による受診勧奨</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度 927人のうち195人受診 平成29年度 1,897人のうち433人受診 <p>ハガキによる受診勧奨</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度 3,634人のうち656人受診 平成29年度 3,441人のうち589人受診 	<p>特定健康診査受診率</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度 35.6% 平成28年度 36.7% <p>と微増で、目標値には到達していない。</p>	3
<p>【平成27年度】 健診結果から、動機付け支援及び積極的支援に階層化された者に対して、自らが健康状態を自覚し、生活習慣改善のための自主的な取り組みを継続的に行うことができるよう働きかけをする。また、減塩や脂肪を減らすための栄養教室や運動教室、糖尿病教室など、各種教室を開き、対象者に通知をする。</p> <p>【平成28年度】 指導対象者に対して適切な指導を行う。 健診、レシピデータより検査値の推移、定期的な通院の有無等を確認。 未利用者対策として、平成27年の利用者にアンケートをとり、特定保健指導の運営方法(時期、時間帯)など検討する。</p> <p>【平成29年度】 継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導対象者の利用促進 指導対象者の実施率向上 指導対象者の生活改善 	<ul style="list-style-type: none"> 動機付け支援・積極的支援目標値 平成27年度 40% 平成28年度 50% 平成29年度 60% 利用者の生活改善率 50% 実施率の向上 動機付け支援・積極的支援対象者数の減少 	<p>平成27年度には、調理実習と運動が学べる教室を4回開催。特定保健指導対象者には通知を行ったが、参加者は数名でほぼ一般応募の市民であった。</p> <p>平成28年度には、利用者アンケートを行い、実態を把握した。改善策として集団指導から個別指導へ、午後の時間帯を追加し指導日1日を通して予約できるように変更した。また対象者が聞きたい内容を盛り込んだ結果、実施率は微増となった。</p>	<p>実施率は、27年度34.5%、28年度36.5%と増加傾向。</p>	3

実施年度	事業名	事業目的	事業概要
平成27年度から平成29年度	生活習慣病治療中断者受診勧奨事業	生活習慣病治療中断者の減少	レセプトから、かつて生活習慣病の治療を受けていたにもかかわらず、一定期間、医療機関受診が確認できず、治療を中断している可能性のある対象者を特定する。対象者に通知書を送付することで、受診勧奨を行う。通知書の内容は、生活習慣病治療を中断するリスクを分かりやすく記載する。
平成27年度から平成29年度	糖尿病性腎症重症化予防事業	糖尿病性腎症で通院する患者のうち、重症化するリスクの高い方に対して生活指導を行い、人工透析への移行を防止する。	特定健康診査の検査値とレセプトの治療状況から対象者を特定し、主治医の指示のもと専門職より対象者個人に6カ月間の面談指導と電話指導を行う。指導内容は、食事指導・運動指導・服薬管理等とし、指導完了後も自立して正しい生活習慣を持続できるように日常に根付いたものとする。
平成27年度から平成29年度	未受療者の重症化予防事業	健診異常値を放置している対象者を医療機関受診につなげる	特定健康診査の受診後、その結果に検査値に異常がある、高血圧・高血糖・高コレステロールの対象者で医療機関受診が確認できない対象者に対し、訪問指導等で受診勧奨を行う。

※計画策定時に設定した目標値のうち、現時点での評価が可能な指標に対して、達成状況の記載及び評価を行っている。
*1 受診勧奨を実施することにより、通知後、医療機関へ受診した人数の割合。

5:目標達成
 4:改善している
 3:横ばい
 2:悪化している
 1:評価できない

実施内容	目標値(平成29年度末)		実績値(平成29年度末)		評価
	アウトプット	アウトカム	アウトプット	アウトカム	
<p>【平成27年度】 未実施</p> <p>【平成28年度】 生活習慣病治療中断者に医療機関受診勧奨通知を作成し、郵送する。 通知後に医療機関受診があるか確認。受診がない対象者にはフォローを行う。</p> <p>【平成29年度】 継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> 対象者への通知率 100% 対象者の医療機関受診率 20% *1 	生活習慣病治療中断者数 20%減少	<p>対象者への通知は100%行えた。</p> <p>医療機関受診率 平成28年度 55人中19人 (34.5%) 平成29年度 79人中28人 (35.4%)と目標の20%を超えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病治療中断者数 4.8%増加(内訳) 平成26年度 80人 平成28年度 84人 	4
<p>【平成27年度】 未実施</p> <p>【平成28年度】 指導対象者に対して適切な指導を行う。 健診、レセプトデータより検査値の推移、定期的な通院の有無等を確認。</p> <p>【平成29年度】 継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導対象者の指導実施率 20% 指導実施完了者の生活習慣改善率 70% 指導実施完了者の検査値改善率 70% 	指導実施完了者の糖尿病性腎症における病期進行者 0人	<p>平成28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導実施率 100% 生活習慣改善率 87.5% 検査値改善率 50.0% <p>※検査値の確認がとれた8名のうち減量7名、HbA1c減少4名、HbA1c7.0以上4人のうち2人が7.0以下に改善。</p>	病期の進行者はいなかった。	4
<p>【平成27年度】 未実施</p> <p>【平成28年度】 健診後の未受療者に訪問や通知等で受診勧奨及び保健指導を行う。指導後に医療機関受療があるか確認。受療がない対象者にはフォローを行う。</p> <p>【平成29年度】 継続</p>	<p>未受療者： 対象者のうち訪問・電話連絡して話ができた人の人数と割合</p> <p>異常値放置： 対象者のうち通知できた人数と割合 100%</p>	対象者のうちレセプトで受療確認した人数と割合	<p>未受療者： 平成28年度 対象者 120名 指導人数 102名 指導割合 85.0%</p> <p>平成29年度 対象者 96名 指導人数 76名 指導割合 79.2%</p> <p>異常値放置者： 平成28年度 333人 通知割合 100% 平成29年度 403人 通知割合 100%</p>	<p>平成28年度 未受療者： 受療確認した人数 31/95名 22.5%</p> <p>異常値放置者： ・通知者数 333人(うち効果測定対象者数 321人) ・対象者のうち受療確認した人数 41人/321人 割合 12.8%</p>	4

実施年度	事業名	事業目的	事業概要
平成27年度から平成29年度	受診行動適正化指導事業 (重複受診、頻回受診、重複服薬)	重複・頻回受診者数、重複服薬者数の減少	レセプトから、医療機関への過度な受診が確認できる対象者、また重複して服薬している対象者を特定し、指導する。指導は専門職によるもので、適正な医療機関へのかかり方について、面談指導または電話指導を行う。
平成27年度から平成29年度	ジェネリック医薬品差額通知事業	ジェネリック医薬品の普及率向上	レセプトから、ジェネリック医薬品の使用率が低く、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定する。対象者に通知書を送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す。通知書の内容は、先発医薬品からジェネリック医薬品へ切り替えることで、どのくらい薬剤費が軽減できるか、ジェネリック医薬品とは何か等の情報を記載する。

※計画策定時に設定した目標値のうち、現時点での評価が可能な指標に対して、達成状況の記載及び評価を行っている。

*2 受診行動適正化指導を実施することにより、指導前と指導後で通院日数が減少した割合。

*3 受診行動適正化指導を実施することにより、指導前と指導後で指導実施完了者の医療費が削減された割合。

5:目標達成
 4:改善している
 3:横ばい
 2:悪化している
 1:評価できない

実施内容	目標値(平成29年度末)		実績値(平成29年度末)		評価
	アウトプット	アウトカム	アウトプット	アウトカム	
<p>【平成27年度】 指導対象者に対して適切な保健指導を行う。</p> <p>【平成28年度】 指導対象者に対して適切な保健指導を行う。 指導後に医療機関への受診行動が適正化されているか確認する。</p> <p>【平成29年度】 継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導対象者の指導実施率 20% 指導実施完了者の受診行動適正化 30% *2 指導実施完了者の医療費を指導実施前より 50%減少 *3 	<p>重複・頻回受診者数、重複服薬者数 20%減少</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導実施率 28/76名 36.8% (内訳) 平成27年度 53人中10人指導 平成28年度 15人中13人指導 平成29年度 8人中5人指導 受診行動適正化 39.9% (215.0日/357.6日) (内訳) 平成27年度 53.6日/84.0日 (36.2%) 平成28年度 120.4日/206.4日 (41.7%) 平成29年度 41.0日/67.2日 (39.0%) 医療費を指導実施前より 33.7%減少 (88,434円/133,426円) (内訳) 平成27年度 22,604円/35,205円 (35.8%) 平成28年度 48,043円/79,491円 (39.6%) 平成29年度 17,787円/18,730円 (5.0%) 	<ul style="list-style-type: none"> 重複・頻回受診者数、重複服薬者数 7.0%減少 (内訳) 26年度 488人 28年度 454人 	3
<p>【平成27年度】 年4回の差額通知実施。 対象者特定方法や効果検証方法、実施後の効果を考慮し、継続を検討する。</p> <p>【平成28年度】・【平成29年度】 継続</p>	<p>対象者への通知率 100%</p>	<p>平成29年度普及率 60% (数量ベース) ※2020年9月までに80%をめざす</p>	<p>対象者への通知率 100%</p> <p>通知対象者 平成27年度 1,449人 平成28年度 1,245人 平成29年度 1,318人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ジェネリック医薬品普及率(数量ベース) 70.3% 	5

実施年度	事業名	事業目的	事業概要
平成27年度から平成29年度	薬剤併用禁忌防止事業	薬剤併用禁忌の発生件数減少	レセプトから、薬剤併用禁忌の発生状況を把握する。薬剤併用禁忌の対象者リストを作成し、医療機関へ情報提供を行う。
平成27年度から平成29年度	COPD啓発・予防事業	COPDの周知啓発により、COPDの予防・早期治療を図る。	COPDは、疾病としての認知度が低いことに加え、早期発見がされにくく、重症化して初めて気づく場合が多い。重症化することで、呼吸不全に陥り、息苦しさのために日常生活ができなくなるなど、生活の質を低下させる大きな要因と考えられることから、認知度の向上及び早期発見による重症化予防の周知・啓発を図る。
平成27年度から平成29年度	健康づくり事業 (ポピュレーションアプローチ)	健康の保持・増進や生活習慣病の発症・重症化予防についての正しい知識の普及。また市民自らが、生活習慣の改善を図り、健康づくりに取り組めることができるように支援する。	生活習慣を自分のこととして意識し、改善しようとする意欲の向上を図るために、健康教室を開催する。
平成27年度から平成29年度	ロコモティブシンドローム啓発・予防事業	ロコモティブシンドロームの周知啓発により、効果的な介護予防を図る。	ジェネリック医薬品差額通知は、生活習慣病を含めた慢性疾患を中心に通知され、疾病に罹患している高齢者が対象に含まれ、介護のリスクが高い者と考えられることから、ジェネリック医薬品差額通知発送時にロコモティブシンドロームの啓発文書を同封し発送する。

※計画策定時に設定した目標値のうち、現時点での評価が可能な指標に対して、達成状況の記載及び評価を行っている。

*4 初年度の基準となったレセプトデータ時における併用禁忌発生人数との比較

5:目標達成
 4:改善している
 3:横ばい
 2:悪化している
 1:評価できない

実施内容	目標値(平成29年度末)		実績値(平成29年度末)		評価
	アウトプット	アウトカム	アウトプット	アウトカム	
【平成27年度】・【平成28年度】・【平成29年度】未実施	薬剤併用禁忌割合10%減少 *4	併用禁忌薬剤による健康被害0%	・薬剤併用禁忌割合 3.5%増加 (内訳) 平成26年度 316人 平成28年度 327人	未実施のため評価不能	1
【平成27年度】生活習慣病予防対策として、知識の普及と講座及び健康相談の実施。 【平成28年度】継続 【平成29年度】未実施	COPDを知っている人の割合	特定健康診査受診者における知っている人の割合 30%	平成27年度は、講座や教室の開催はできなかったが、健診受診者にCOPDの説明をパンフレットを配布した。 平成27年度 10日間約2,000人 平成28年度 10日間約1,000人	アンケート未実施のため評価できず	1
【平成27年度】生活習慣病予防対策として、高血圧・糖尿病・脂質異常症・骨粗鬆症などの各種教室や講演会、講座の開催及び保健師・管理栄養士による健康相談の実施。 【平成28年度】・【平成29年度】継続	生活習慣病予防のため、教室や講演会等事業の実施回数・参加者人数。	・特定健康診査結果で、血圧・脂質・HbA1cの異常値所見割合減少 ・各教室の募集人数に対する参加者割合50%	平成27年度 5講座197名の参加。2講座については3回コースの教室であったが参加人数がのびなかった。 平成28年度は4講座とし、1講座は4回コースで行った。256名参加。 平成29年度は6講座とし、2回や4回コースもあり306名参加された。	異常所見割合は減少している。 28年度の参加者割合は90%と目標達成している。	4
【平成27年度】未実施 【平成28年度】ジェネリック医薬品差額通知対象者に対して、ロコモティブシンドロームのパンフレットを同封し、また、特定健康診査受診者に説明をし啓発を図る。 【平成29年度】未実施	・対象者への通知率 100% ・ロコモティブシンドロームの認知度 30%	筋・骨格系の原因の介護認定率の低下	対象者には100%通知できている。また特定健康診査受診者10日間約2,000人に内容を説明しチラシを配布した。	介護認定率は増加している。	3

【総括】

第1期計画では、様々な健康課題を解決するうえで、取組みの実施や啓発を行った結果、設定した目標を達成できたもの、改善傾向にある項目を含めると割合は約45%となっている。個々の健診結果や生活習慣の改善状況が数値として現れるまでには長期間かかると思われる、より一層、効果的かつ効率的な保健事業の実施について検討を進める必要がある。

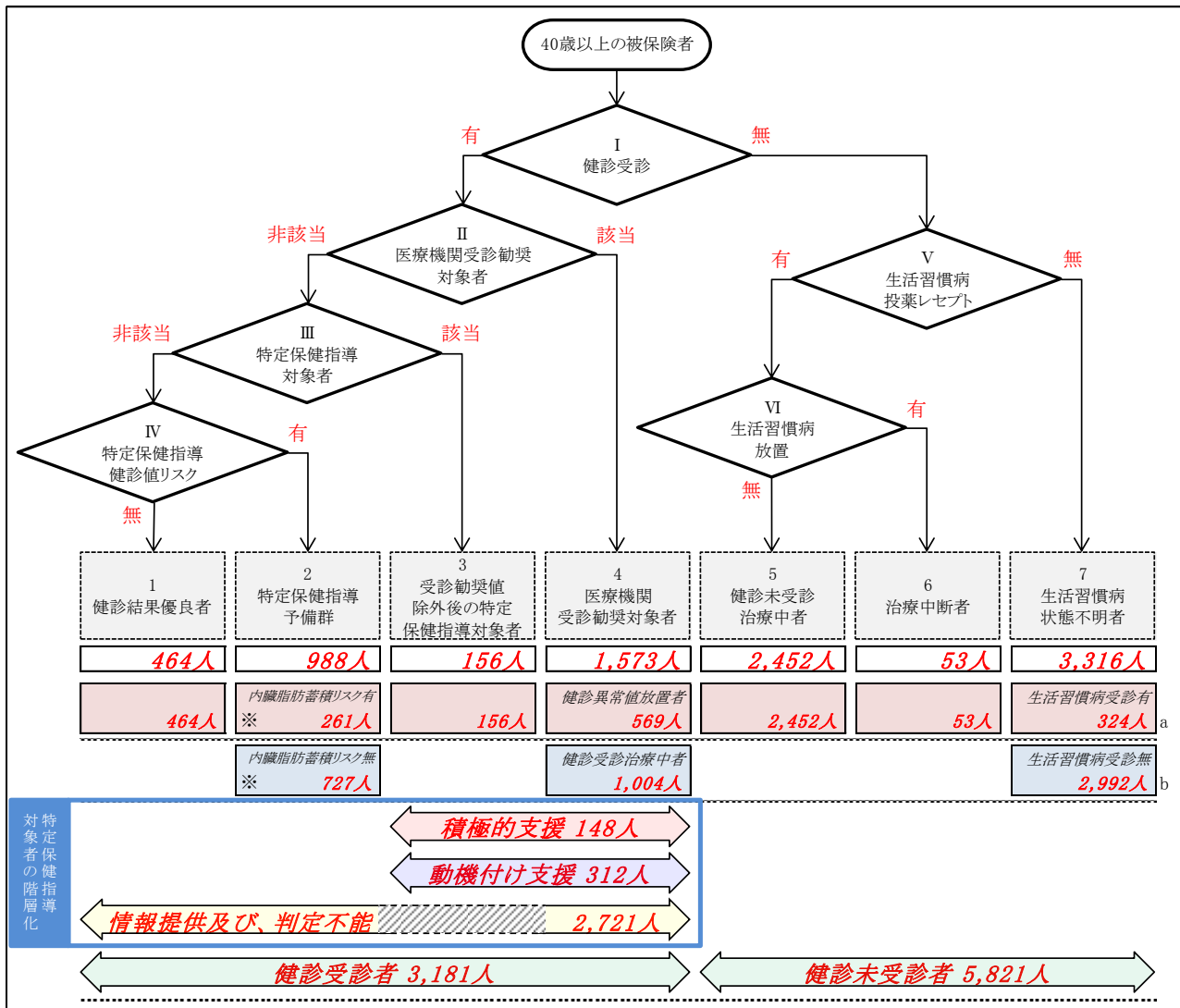
3. 保健事業実施に係る分析結果

(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析

特定健康診査データとレセプトデータを組み合わせた分析を行う。40歳以上の被保険者について、特定健康診査データの有無や異常値の有無、生活習慣病にかかわるレセプトの有無等を判定し、7つのグループに分類し、分析結果を以下に示す。

左端の「1. 健診結果優良者」から「6. 治療中断者」まで順に健康状態が悪くなっており、「7. 生活習慣病状態不明者」は特定健康診査データ・レセプトデータから生活習慣病状態が確認できないグループである。

特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

各フローの詳細については巻末資料「1. 指導対象者群分析」のグループ分けの見方を参照。

※内臓脂肪蓄積リスク…腹囲・BMIにより内臓脂肪蓄積リスクを判定し階層化。

(2) 特定保健指導に係る分析

日本人の生活習慣の変化や高齢者の増加等により、近年、糖尿病等の生活習慣病の有病者・予備群が増加しており、生活習慣病を原因とする死亡は、全体の約3分の1にのぼると推計されている。厚生労働省は、40歳以上の被保険者へメタボリックシンドロームの予防・解消に重点を置いた、生活習慣病予防のための特定健康診査・特定保健指導の実施を義務付けている。

「(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析」にある「3. 受診勧奨値除外後の特定保健指導対象者」「4. 医療機関受診勧奨対象者」に該当する対象者より、特定保健指導対象者は460人である。このうち、積極的支援の対象者は148人、動機付け支援の対象者は312人である。

特定保健指導対象者のリスク因子別該当状況

特定保健指導対象者	リスク判定 ※ (該当に●)				対象者	
	① 血糖	② 血圧	③ 脂質	④ 喫煙	460人	
積極的支援	●●●●	4人	148人	32%		
	●●●	25人				
	●●	6人				
	●●●	19人				
	●●●●	11人				
	●●	31人				
	●●●	13人				
	●●●●	13人				
	●●●	5人				
	●●●●	10人				
	●●●●	11人				
	●●●	0人				
	●●●	0人				
	●●●	0人				
動機付け支援	●●●●	8人	312人	68%		
	●●●●	27人				
	●●●●	4人				
	●●●●	11人				
	●●●●	3人				
	●●●●	54人				
	●●●●	25人				
	●●●●	15人				
	●●●●	7人				
	●●●●	3人				
	●●●●	6人				
	●●●●	77人				
	●●●●	44人				
	●●●●	28人				
●●●●	0人					
●●●●	0人					

データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

※リスク判定…健診検査値が特定保健指導判定値を超えている組み合わせ(喫煙については質問回答による)。そのため、厚生労働省が定める保健指導対象者の選定にない組み合わせに該当する場合がある。

リスク判定の詳細は以下の通りとする。

- ①血糖…特定健康診査の検査値において、空腹時血糖100mg/dl以上またはHbA1c5.6%以上(NGSP)
- ②血圧…特定健康診査の検査値において、収縮期血圧が130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上
- ③脂質…特定健康診査の検査値において、中性脂肪150mg/dl以上またはHDLコレステロール40mg/dl未満
- ④喫煙…特定健康診査の生活習慣に関する質問票においてたばこを習慣的に吸っていると回答

(3) 健診異常値放置者に係る分析

特定健康診査では異常値があった場合、医療機関での精密検査を勧めている。しかし、異常値があるにもかかわらず、医療機関への受診をしていない者が存在する。これらの対象者をレセプトにより見極める。

「(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析」において「4. 医療機関受診勧奨対象者」のうち、医療機関への受診をしていない「健診異常値放置者」に該当する569人が健診異常値放置受診勧奨対象者となる。

条件設定による指導対象者の特定(健診異常値放置)

I. 条件設定による指導対象者の特定	
・健診異常値放置者 …健診受診後、4カ月以上医療機関へ受診していない人 厚生労働省受診勧奨判定値以上の検査数値のある人を対象とする	
条件設定により対象となった候補者数	569 人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

次に、指導対象者として適切ではない可能性がある患者を「除外設定」により除外する。「がん患者」「難病患者」に関しては、すでにこれらの疾患について医療機関での治療を受けており、健診異常が発生している状態についても認知していると考えられるためである。また、指導が困難な可能性がある患者、事業の効果を測定できない患者についても除外する。

除外設定(健診異常値放置)

II. 除外設定	
	除外理由別人数
除外	がん、難病等
	111 人
↓	
除外患者を除いた候補者数	458 人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

次に、残る対象者458人のうち、保健事業の実施効果が高い対象者を特定する。これは費用対効果を重視し、「優先順位」を決めるためである。健診異常値放置受診勧奨対象者の判定は、厚生労働省の定める受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)を用いた結果、異常が認められ、かつ生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)に対するレセプトが発生していない対象者を特定する。ここでは受診勧奨判定異常値因子数(血糖、血圧、脂質)が多い患者を優先とし、喫煙の有無によりリスクを判定した。

これら対象者はすべてが受診勧奨対象者ではあるが、通知件数の制約により優先順位を設定する必要がある場合、候補者Aより順に対象者を選択する。

優先順位(健診異常値放置)

Ⅲ.優先順位		
←良 効率 悪→		
	喫煙	非喫煙
↑高 医療機関受診勧奨判定異常値因子数 3つ	候補者A 4人	候補者C 5人
効果 医療機関受診勧奨判定異常値因子数 2つ	候補者B 10人	候補者D 63人
低↓ 医療機関受診勧奨判定異常値因子数 1つ	候補者E 70人	候補者F 306人
効果が高く効率の良い候補者A～候補者Fの人数		458人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

(4) 生活習慣病治療中断者に係る分析

生活習慣病は一度発症すると治癒することは少ないため病状の維持が重要となる。そのためには定期的な診療が必要であり、継続的な服薬が求められる。しかし、生活習慣病となった患者の中には服薬を適切に行わないケース、定期的な診療を自己の判断により止めてしまうケースがある。その結果、生活習慣病が進行し、脳卒中、心筋梗塞等の重篤な疾病を引き起こしてしまう可能性がある。

「(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析」において治療中断が発生している患者84人が対象となる。

条件設定による指導対象者の特定(生活習慣病治療中断者)

I. 条件設定による指導対象者の特定		
・生活習慣病治療中断者 …かつて、生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)で定期受診をしていたが、その後、定期受診を中断した患者		
指導対象者群 分析結果	6 治療中断者	候補者人数 53 人
	上記以外のグループ	31 人
条件設定により対象となった候補者数 (合計)		84 人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

次に、指導対象者として適切ではない可能性がある患者を「除外設定」により除外する。「がん患者」「難病患者」に関しては、すでにこれらの疾患について医療機関での治療を受けており、生活習慣病の治療を意図的に中止している可能性も考えられる。合わせて指導が困難な可能性がある患者、事業の効果を測定できない患者についても除外する。

除外設定(生活習慣病治療中断者)

II. 除外設定		
除外	がん、難病等	除外理由別人数 1 人
	除外患者を除き、候補者となった患者数 83 人	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

次に、残る対象者83人のうち、保健事業の実施効果が高い対象者を特定する。これは費用対効果を重視し、「優先順位」を決めるためである。生活習慣病治療中断者の判定は、過去のレセプトデータから医療機関への受診頻度を確認し、その受診頻度に応じた期間を超えて、医療機関への受診が確認されない患者を特定する。ここでは生活習慣病の有病数が多い患者を優先とした。

優先順位(生活習慣病治療中断者)

Ⅲ.優先順位			
	毎月受診	2～3カ月に1度受診	4カ月以上の定期受診
↑高 効果 ↓低	生活習慣病有病数 3つ 候補者A1 0人	候補者A2 2人	候補者A3 0人
	生活習慣病有病数 2つ 候補者B1 1人	候補者B2 9人	候補者B3 8人
	生活習慣病有病数 1つ 候補者C1 3人	候補者C2 34人	候補者C3 26人
効果が高く効率の良い候補者A1～候補者C3の患者数			83人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

(5) 糖尿病性腎症重症化予防に係る分析

人工透析患者の分析を行った。「透析」は傷病名ではないため、「透析」にあたる診療行為が行われている患者を特定し、集計した。

分析の結果、起因が明らかとなった患者のうち、58.3%が生活習慣を起因とするものであり、その58.3%が糖尿病を起因として透析となる、糖尿病性腎症であることが分かった。

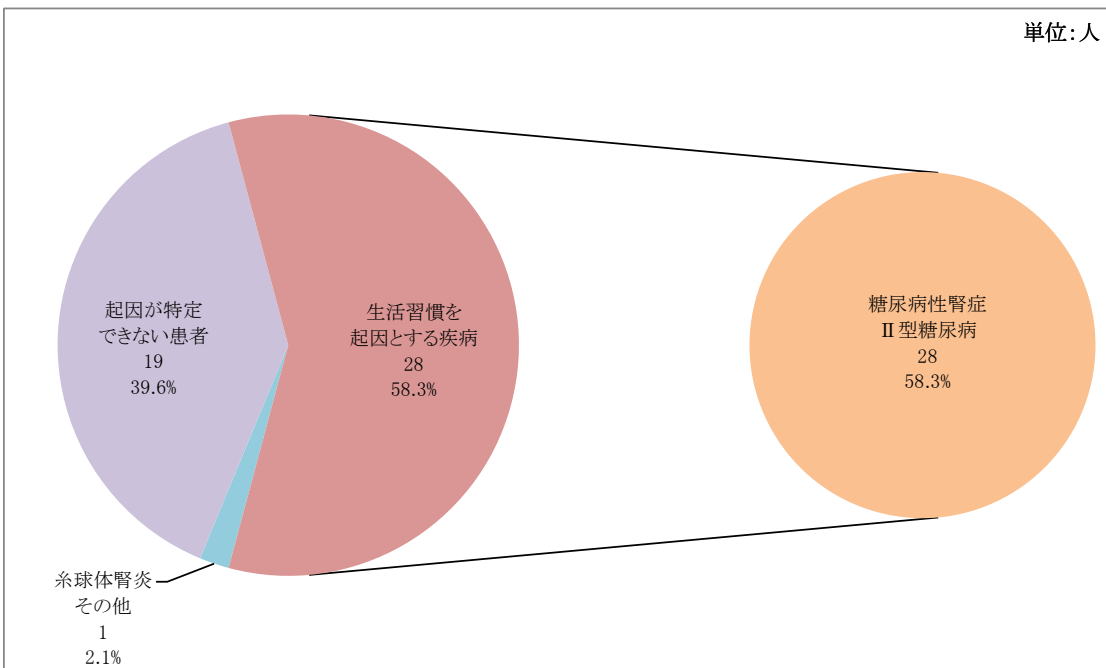
対象レセプト期間内で「透析」に関する診療行為が行われている患者数

透析療法の種類	透析患者数 (人)
血液透析のみ	47
腹膜透析のみ	1
血液透析及び腹膜透析	0
透析患者合計	48

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12ヵ月分)。

データ化範囲(分析対象)期間内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。現時点で資格喪失している被保険者についても集計する。緊急透析と思われる患者は除く。



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12ヵ月分)。

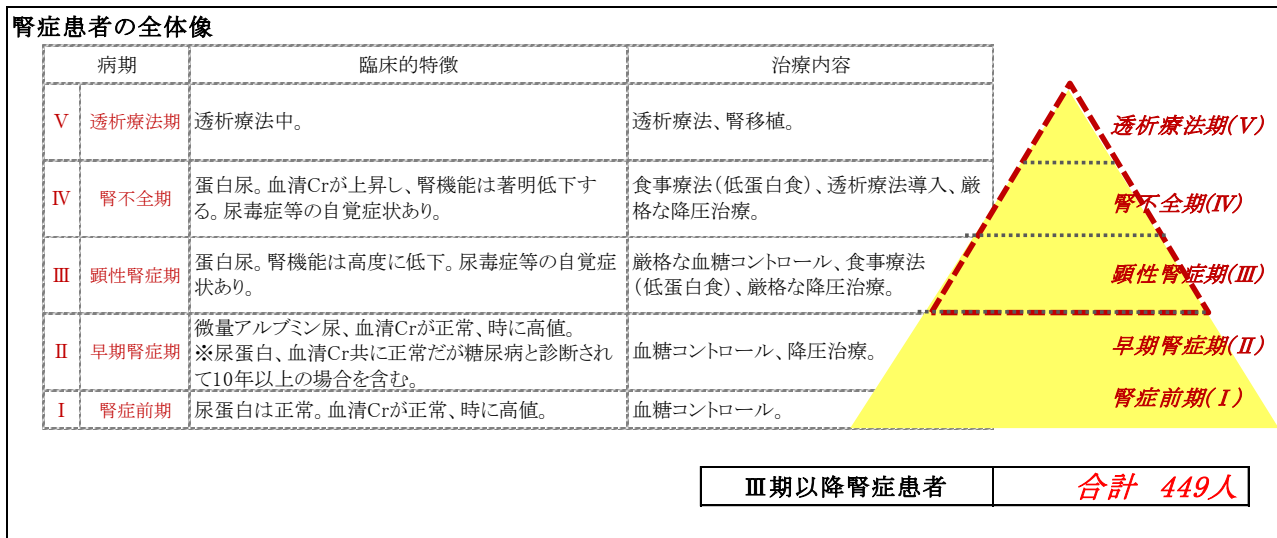
データ化範囲(分析対象)期間内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。現時点で資格喪失している被保険者についても集計する。緊急透析と思われる患者は除く。

※割合…小数第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

「腎症の起因分析と指導対象者適合分析」「Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者」「保健指導対象者の優先順位」の3段階を経て分析し、適切な対象者集団を特定する。その結果、腎症患者449人中158人の適切な指導対象者を特定した。

腎症患者の全体像を以下に示す。

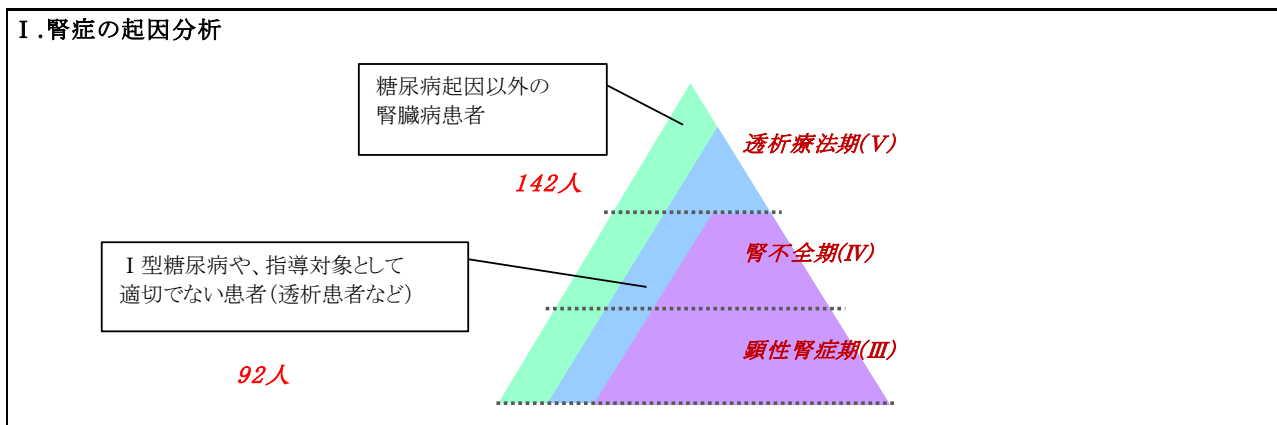
腎症患者の全体像



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

「腎症の起因分析と指導対象者適合分析」を以下に示す。緑色部分は糖尿病起因以外の腎臓病患者と考えられ、142人の患者が存在する。また、青色部分は糖尿病患者であるが、生活習慣を起因としていない糖尿病患者や、指導対象として適切でない患者(透析患者、腎臓移植した可能性がある患者、すでに資格喪失している等)と考えられ、92人の患者が存在する。紫色部分は生活習慣起因の糖尿病または腎症と考えられる患者で、この患者層が保健指導対象者として適切となる。

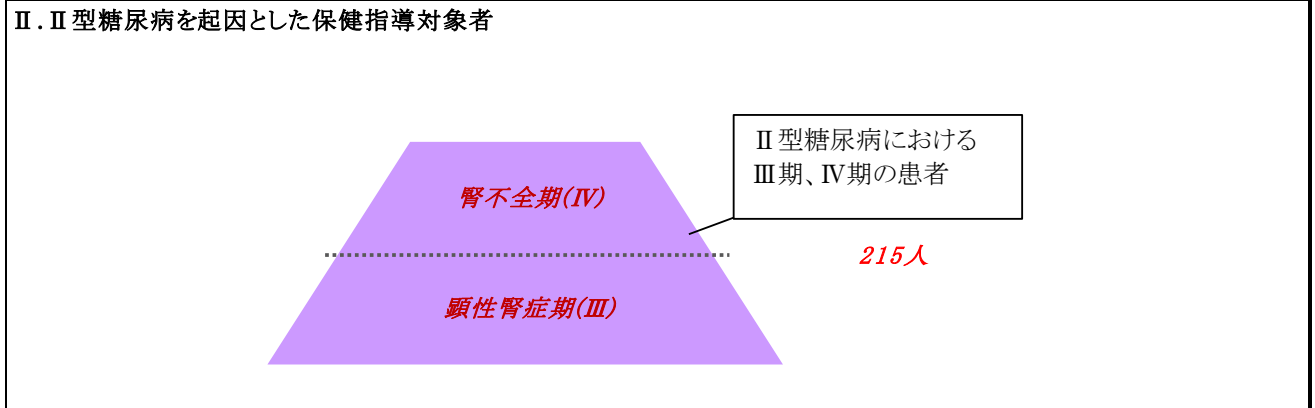
腎症の起因分析と指導対象者適合分析



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

次に、「Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者」を以下の通り示す。腎不全期または顕性腎症期の患者は合わせて215人となった。重症化予防を実施するに当たり、適切な病期は、透析への移行が近い腎不全期、腎機能が急激に低下する顕性腎症期となる。

Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者

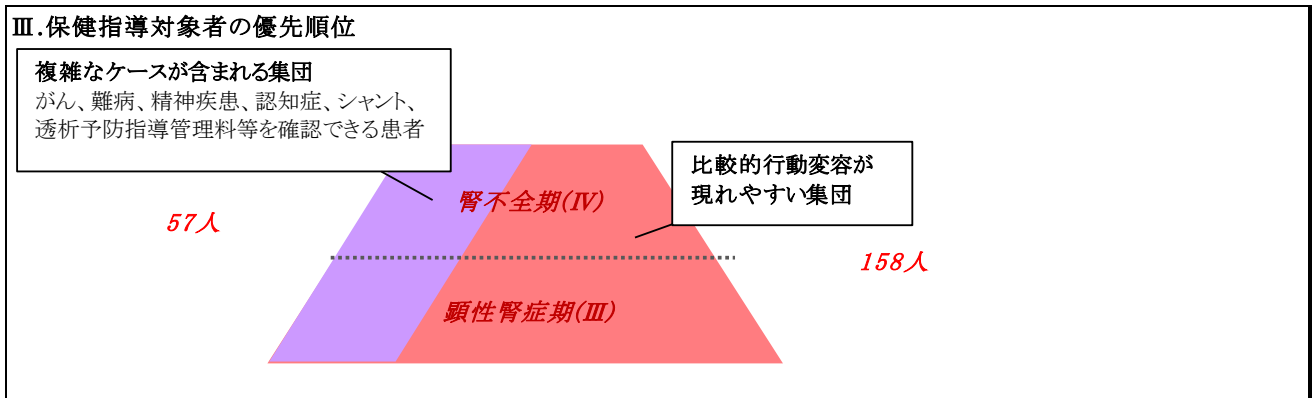


データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

次に、個人毎の状態を見極め、「保健指導対象者の優先順位」について分析した。215人のうち「複雑なケースが含まれる集団」、つまり、がん、難病、精神疾患、認知症等が含まれる患者は、57人存在する。

一方、それらの疾病が確認できない「比較的行動変容が現れやすい集団」は、158人存在する。保健事業を行う上で、これら2つのグループには費用対効果に大きな違いがある。「比較的行動変容が現れやすい集団」が本事業の対象者である。

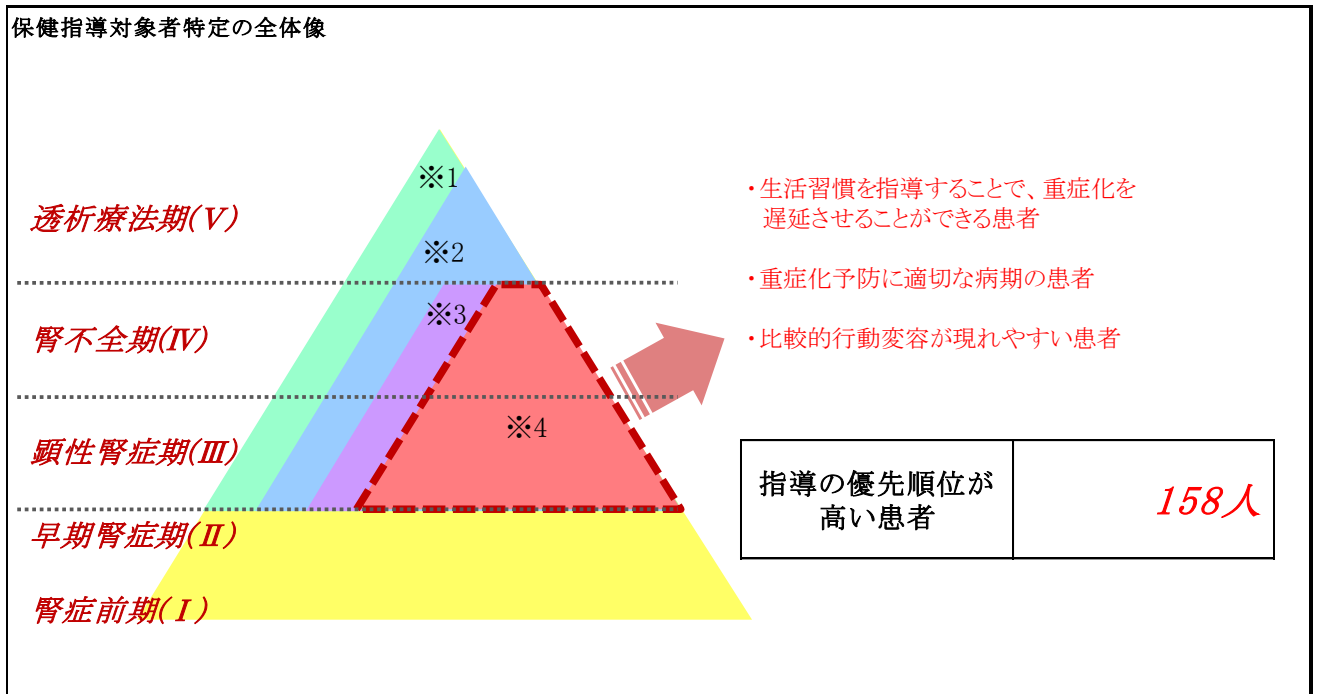
保健指導対象者の優先順位



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

以上の分析のように「腎症の起因分析と指導対象者適合分析」「II型糖尿病を起因とした保健指導対象者」「保健指導対象者の優先順位」の3段階を経て、適切な指導対象者は、158人となった。この分析の全体像を以下に示す。

保健指導対象者特定の全体像



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

※1…糖尿病起因以外の腎臓病患者

※2… I型糖尿病や、指導対象として適切でない患者(透析患者等)

※3…複雑なケースが含まれる集団(がん、難病、精神疾患、認知症等を確認できる患者)

※4…比較的行動変容が現れやすい患者

(6) 受診行動適正化に係る分析

多受診(重複受診、頻回受診、重複服薬)は、不適切な受診行動も含まれているため、これらの患者を正しい受診行動に導く指導が必要である。指導対象者数の分析結果は以下の通りである。

ひと月に同系の疾病を理由に複数の医療機関に受診している「重複受診者」や、ひと月に同一の医療機関に一定回数以上受診している「頻回受診者」、ひと月に同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、処方日数が一定以上の「重複服薬者」について平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)のレセプトデータを用いて分析した。

重複受診者数

	平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月	平成28年10月	平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月	平成29年3月
重複受診者数(人) ※	16	16	12	14	12	20	13	17	15	12	10	22
12カ月間の延べ人数											179	
12カ月間の実人数											98	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

※重複受診者数…1カ月間に同系の疾病を理由に、3医療機関以上受診している人を対象とする。透析中、治療行為を行っていないレセプトは対象外とする。

頻回受診者数

	平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月	平成28年10月	平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月	平成29年3月
頻回受診者数(人) ※	33	34	39	42	46	45	44	31	29	25	25	35
12カ月間の延べ人数											428	
12カ月間の実人数											168	

データ化範囲(分析対象)…入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

※頻回受診者数…1カ月間に12回以上受診している患者を対象とする。透析患者は対象外とする。

重複服薬者数

	平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月	平成28年10月	平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月	平成29年3月
重複服薬者数(人) ※	45	42	44	51	49	55	49	52	42	37	37	51
12カ月間の延べ人数											554	
12カ月間の実人数											230	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

※重複服薬者数…1カ月間に、同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える患者を対象とする。

分析結果より、12カ月間で重複受診者は98人、頻回受診者は168人、重複服薬者は230人存在する。機械的に多受診患者を特定した場合、問題になるのは、その患者の多くに「必要な医療」の可能性がある患者も含まれることである。機械的に多受診患者を特定するのではなく、十分な分析の上、指導対象者を特定する必要がある。ここでは、平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)のレセプトを対象に、「条件設定による指導対象者の特定」「除外設定」「優先順位」の3段階を経て分析した。

はじめに、「条件設定による指導対象者の特定」を行う。重複受診・頻回受診・重複服薬を併せ持つ患者がいるため前述の分析結果より患者数は減少する。

条件設定による指導対象者の特定(重複受診者、頻回受診者、重複服薬者)

I. 条件設定による指導対象者の特定	
<ul style="list-style-type: none"> ・重複受診患者 …1カ月間で同系の疾病を理由に3医療機関以上受診している患者 ・頻回受診患者 …1カ月間で同一医療機関に12回以上受診している患者 ・重複服薬者 …1カ月間で同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える患者 	
条件設定により候補者となった患者数	454 人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

次に、指導対象者として適切ではない可能性がある患者を「除外設定」により除外する。必要な医療の可能性がある患者、また指導が困難な可能性がある患者、事業の効果を測定できない患者についても除外する。

除外設定(重複受診者、頻回受診者、重複服薬者)

II. 除外設定		除外理由別 人数	合計人数 (実人数)
除外①	最新被保険者データで資格喪失している患者	0 人	297 人
除外②	がん、難病等 ※	297 人	
除外患者を除き、候補者となった患者数		157 人	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。
※疑い病名を含む。

次に、残る対象者157人のうち、指導することでより効果が高く、より効率の良い対象者を特定する。これらは費用対効果を重視し、「優先順位」を決めるためである。効果については、レセプト期間最終月から、6カ月間遡ったレセプトのうち5～6カ月重複受診・頻回受診・重複服薬に該当する患者を最優先する。効率については、指導のアポイントメントが取りやすい等の理由から60歳以上を最優先とし、次に、50歳～59歳を対象とした。以下の通り、効果が高く効率の良い候補者A～候補者Fは10人となった。

優先順位(重複受診者、頻回受診者、重複服薬者)

		←良 効率 悪→		
		60歳以上	50～59歳	50歳未満
↑高 効果 低↓	最新6カ月レセプトのうち 5～6カ月 重複・頻回・重複服薬に 該当する患者	候補者A 3人	候補者C 0人	候補者 としない 147人
	最新6カ月レセプトのうち 3～4カ月 重複・頻回・重複服薬に 該当する患者	候補者B 6人	候補者D 0人	
	最新6カ月レセプトのうち 2カ月 重複・頻回・重複服薬に 該当する患者 (ただし直近2カ月レセに該 当)	候補者E 1人	候補者F 0人	
	その他の 重複・頻回・重複服薬患者			
効果が高く効率の良い候補者A～候補者Fの患者数		10人		

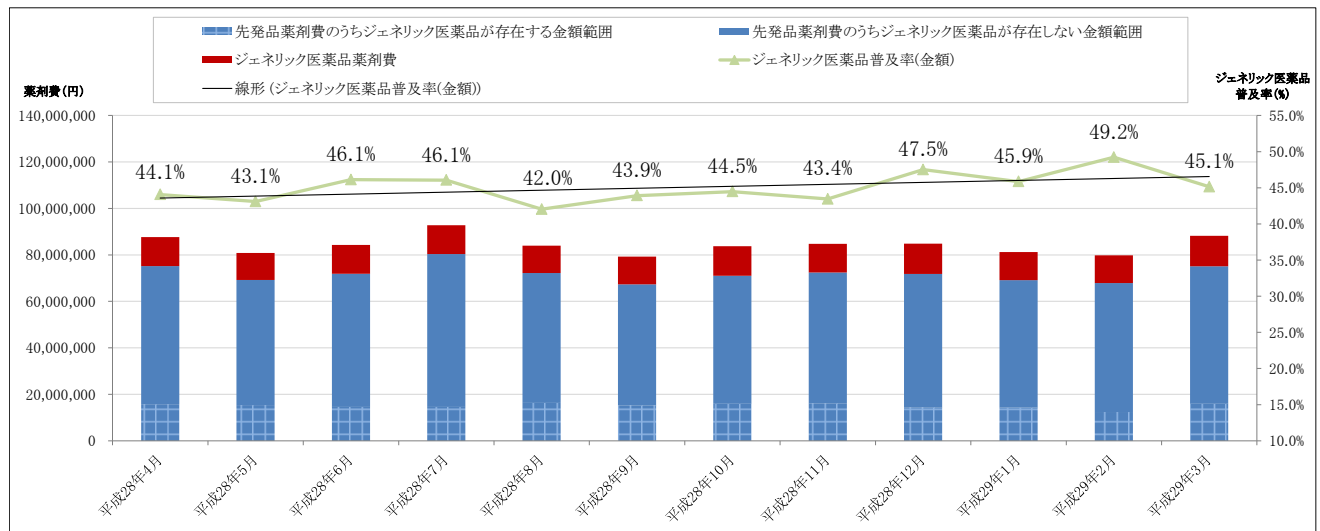
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

(7) ジェネリック医薬品普及率に係る分析

先発医薬品からジェネリック医薬品への切り替えを患者に促し薬剤費の削減を図る。ジェネリック医薬品への切り替えは複数の疾病に対して行うことができるため、多くの患者に対してアプローチできる利点がある。

以下に平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)のジェネリック医薬品普及率(金額ベース・数量ベース)を示す。現在、ジェネリック医薬品普及率は45.0%(金額ベース)、70.3%(数量ベース)である。

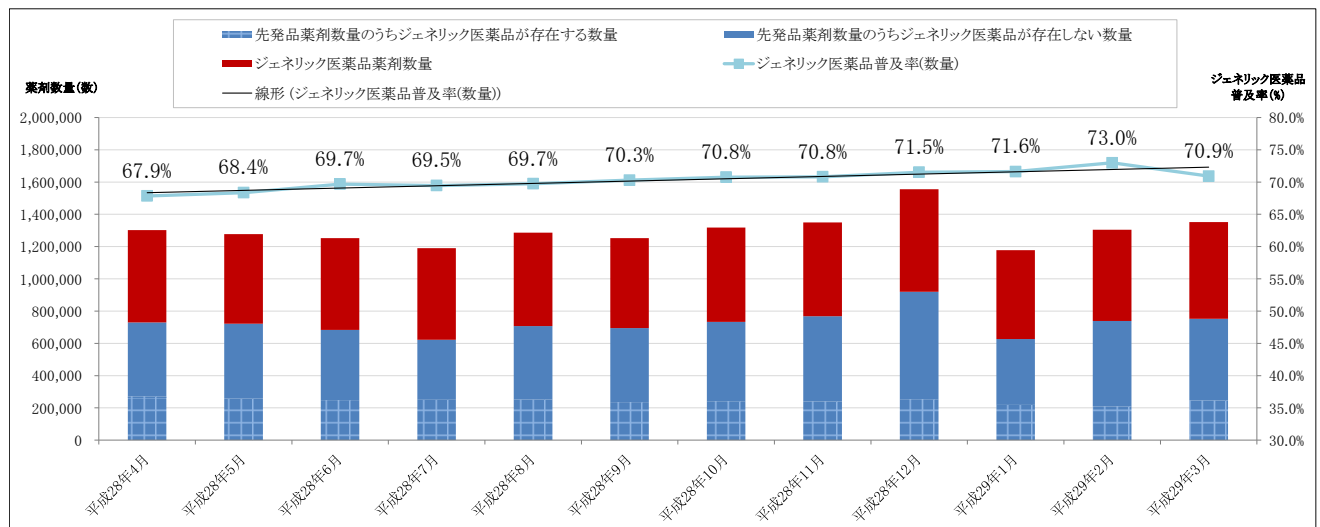
ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。
※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤費/(ジェネリック医薬品薬剤費+先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲)

ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)

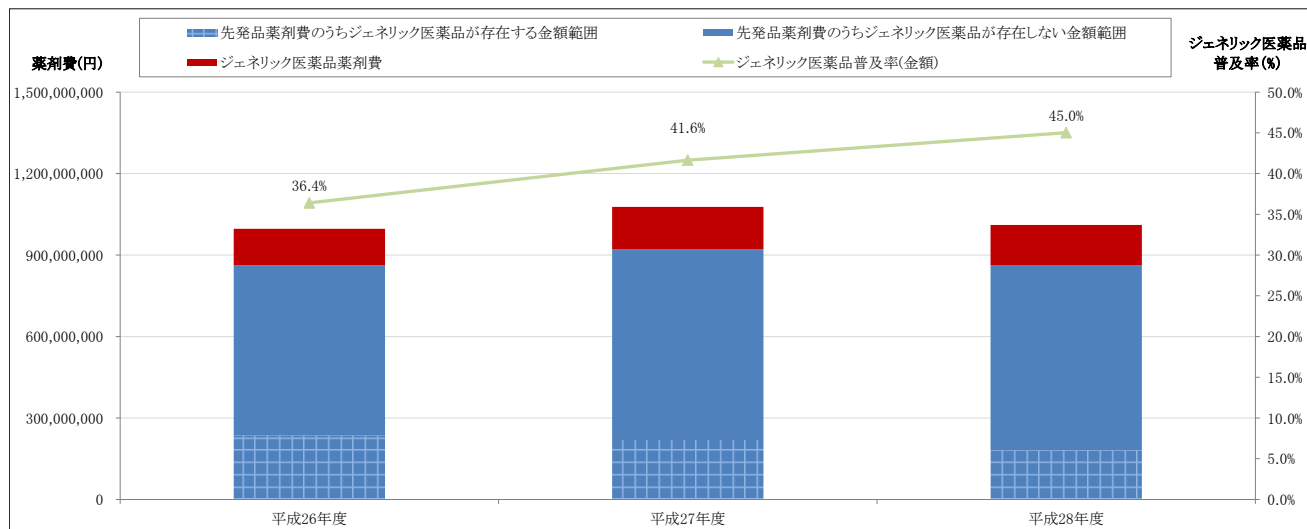


データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。
※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤数量/(ジェネリック医薬品薬剤数量+先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量)

平成26年度から平成28年度における、ジェネリック医薬品普及率(金額ベース・数量ベース)を年度別に示す。平成28年度ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)45.0%は、平成26年度36.4%より8.6ポイント上昇しており、平成28年度ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)70.3%は、平成26年度58.8%より11.5ポイント上昇している。

年度別 ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)

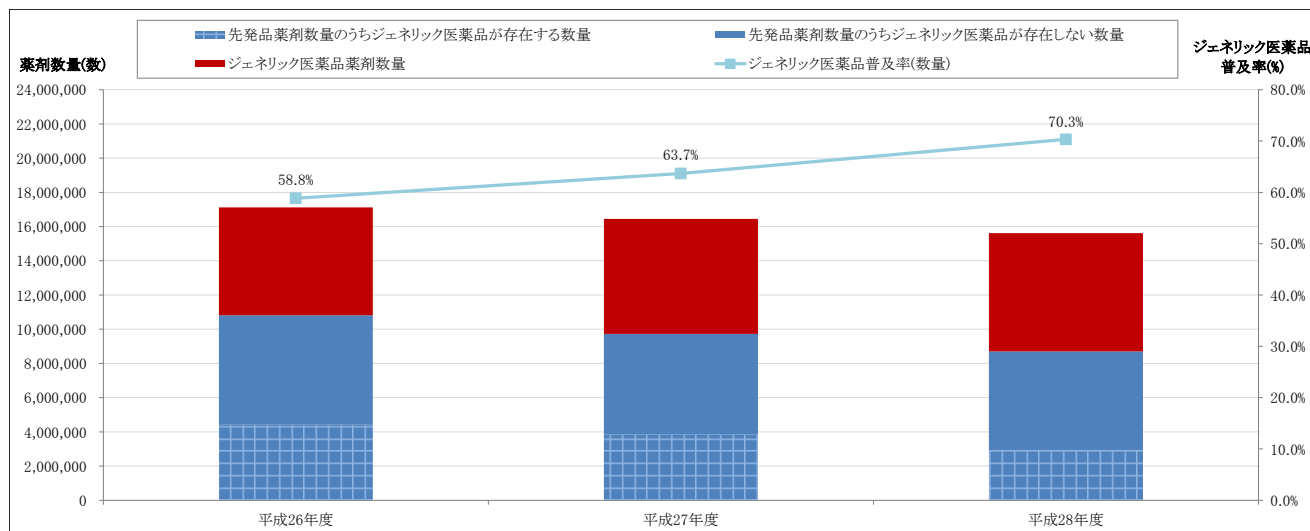


データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤費/(ジェネリック医薬品薬剤費+先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲)

年度別 ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)



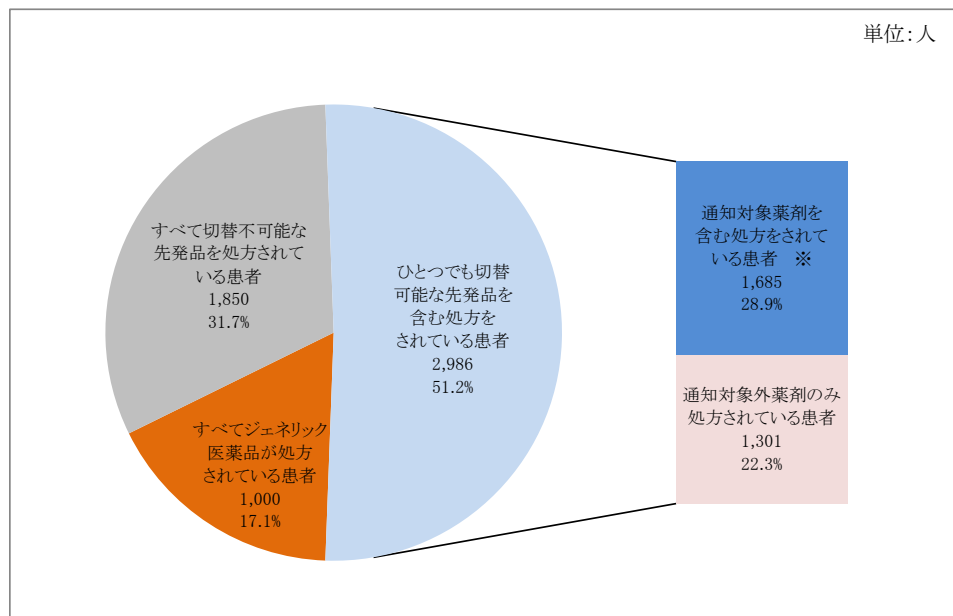
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤数量/(ジェネリック医薬品薬剤数量+先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量)

次に、平成29年3月診療分のレセプトで薬剤処方状況別の患者数を以下に示す。患者数は5,836人(入院レセプトのみの患者は除く)で、このうちひとつでもジェネリック医薬品に切り替え可能な先発品を含む処方をされている患者は2,986人で患者数全体の51.2%を占める。さらにこのうち通知対象薬剤のみに絞り込むと、1,685人がジェネリック医薬品切り替え可能な薬剤を含む処方をされている患者となり、全体の28.9%となる。

薬剤処方状況別患者数



データ化範囲(分析対象)…入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成29年3月診療分(1カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※通知対象薬剤を含む処方をされている患者…ジェネリック医薬品が存在しても、入院、処置に使用した医薬品及び、がん・精神疾患・短期処方ものは含まない

※構成比…小数第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(8)服薬情報に係る分析

薬剤の多剤服薬は、副作用が起りやすく様々なリスクがある。特に高齢者に起りやすい副作用にはふらつき・転倒、物忘れがある。転倒による骨折をきっかけに寝たきりになったり、うつ、せん妄、食欲低下、便秘、排尿障害等が起りやすくなる。

本分析では、服薬状況を把握し適切な服薬を促すことを目的に、対象となる患者の特定を行う。薬剤種類数別対象者数は以下の通りである。複数医療機関の受診があり6種類以上の薬剤を14日以上服薬している対象者は631人である。

薬剤種類数別対象者数

年齢階層	対象者数(人)									
	～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～	合計	
被保険者数(人)	4,136	822	804	674	785	1,597	2,530	1,792	13,140	
薬剤種類数	1種類	51	7	6	9	10	18	48	27	176
	2種類	46	11	14	9	11	38	76	54	259
	3種類	39	7	12	6	16	27	64	59	230
	4種類	20	8	11	4	12	24	77	55	211
	5種類	13	3	7	9	17	30	66	66	211
	6種類	9	4	7	8	7	28	47	56	166
	7種類	11	5	2	7	11	14	35	45	130
	8種類	4	2	4	5	7	11	40	32	105
	9種類	2	3	4	5	4	15	24	19	76
	10種類	0	1	3	2	4	7	15	24	56
	11種類	1	0	3	1	1	3	4	11	24
	12種類	0	2	0	0	0	6	3	8	19
	13種類	1	2	1	0	1	4	0	7	16
	14種類	0	0	3	1	0	1	4	4	13
	15種類	0	1	1	1	0	0	2	3	8
	16種類	0	0	0	2	1	0	0	1	4
	17種類	0	0	0	1	1	1	0	2	5
	18種類	1	0	1	0	0	0	0	1	3
	19種類	0	0	1	0	0	0	1	1	3
	20種類	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21種類以上	0	1	1	0	0	0	0	1	3
合計	198	57	81	70	103	227	506	476	1,718	



長期多剤服薬者数(人)※	631
--------------	-----

データ化範囲(分析対象)…入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年12月～平成29年3月診療分(4カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

長期(14日以上)処方されている内服薬を集計対象とする。

異なる医療機関から同一薬剤が複数処方された場合は1種類として集計する。

複数医療機関の受診があった者を集計対象とする。

※長期多剤服薬者数…6種類以上の薬剤を14日以上服薬している人数。

また、長期多剤服薬者631人が被保険者全体に占める割合は4.8%、長期服薬者全体に占める割合は36.7%である。

長期多剤服薬者の状況

		～39歳	40歳 ～44歳	45歳 ～49歳	50歳 ～54歳	55歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 ～69歳	70歳～	合計
A	被保険者数(人)	4,136	822	804	674	785	1,597	2,530	1,792	13,140
B	長期服薬者数(人)※	198	57	81	70	103	227	506	476	1,718
C	長期多剤服薬者数(人)※	29	21	31	33	37	90	175	215	631
C/A	被保険者数に占める 長期多剤服薬者割合(%)	0.7%	2.6%	3.9%	4.9%	4.7%	5.6%	6.9%	12.0%	4.8%
C/B	長期服薬者数に占める 長期多剤服薬者割合(%)	14.6%	36.8%	38.3%	47.1%	35.9%	39.6%	34.6%	45.2%	36.7%

データ化範囲(分析対象)…入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年12月～平成29年3月診療分(4カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

長期(14日以上)処方されている内服薬を集計対象とする。

異なる医療機関から同一薬剤が複数処方された場合は1種類として集計する。

複数医療機関の受診があった者を集計対象とする。

※長期服薬者数…1種類以上の薬剤を14日以上服薬している人数。

※長期多剤服薬者数…6種類以上の薬剤を14日以上服薬している人数。

(9) COPD患者の実態と潜在患者分析

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の患者の実態と潜在患者について以下の通り示す。日本においてCOPDの治療を行っている患者は約26万1千人、それに対して潜在患者は530万人と推定されている。一方、下妻市国民健康保険の被保険者を対象に平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)で分析したところ、治療を行っている患者は85人であった。日本における治療中患者と潜在患者の比率を参考に、下妻市国民健康保険被保険者に換算すると、潜在患者は1,700人程度と想定する。

COPD患者の治療状況と潜在患者数

対象範囲	治療患者数	潜在患者数
日本	26万1千人 ※	推定530万人 ※
下妻市国民健康保険被保険者	85人 内訳: 男性69人 (81%) 女性16人 (19%)	推定1,700人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

薬物療法が発生している患者のみ分析対象とする。

参考資料

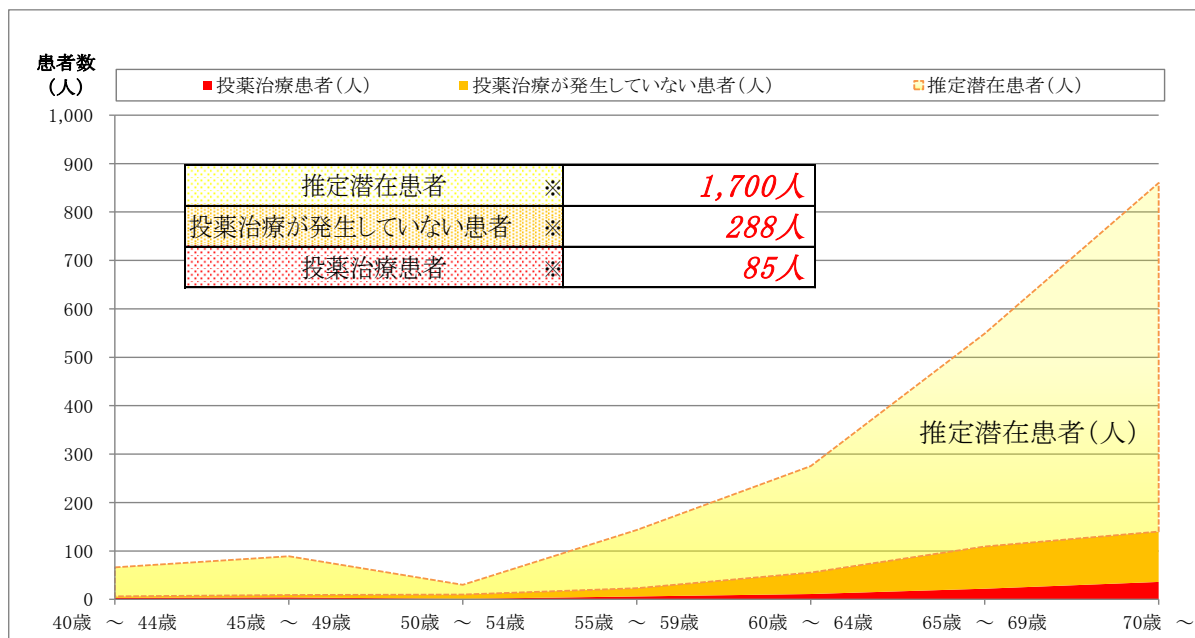
※治療患者数…平成26年患者調査(総患者数、性・年齢階層×傷病小分類別)

http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&listID=000001141596(アクセス日:平成28年6月1日)

※潜在患者数…Fukuchi Y, et al, COPD in Japan: the Nippon COPD Epidemiology study, *Respirology*.2004Nov;9(4):458-65

以下の通り、COPD患者の年齢階層別「投薬治療患者」「投薬治療が発生していない患者」「推定潜在患者」を示す。

COPD患者の治療状況と潜在患者数



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※推定潜在患者…投薬治療患者の数に対し、日本の潜在患者数を参考に推定した患者数。

※投薬治療が発生していない患者…データ化範囲内において傷病名に慢性閉塞性肺疾患があるが投薬は確認できない患者数。

※投薬治療患者…データ化範囲内において傷病名に慢性閉塞性肺疾患があり、投薬も確認できる患者数。

また、COPD患者85人の医療費を分析したところ、以下の通りとなった。12カ月間での患者一人当たりの医療費平均は107万円程度、このうちCOPD関連の医療費が5万円程度、COPD関連以外の医療費が102万円程度である。COPD関連の医療費自体は高額ではないが、患者毎に見ると、生活習慣病である糖尿病・高血圧・脂質異常等を併存している患者が多い。

COPD患者の医療費平均

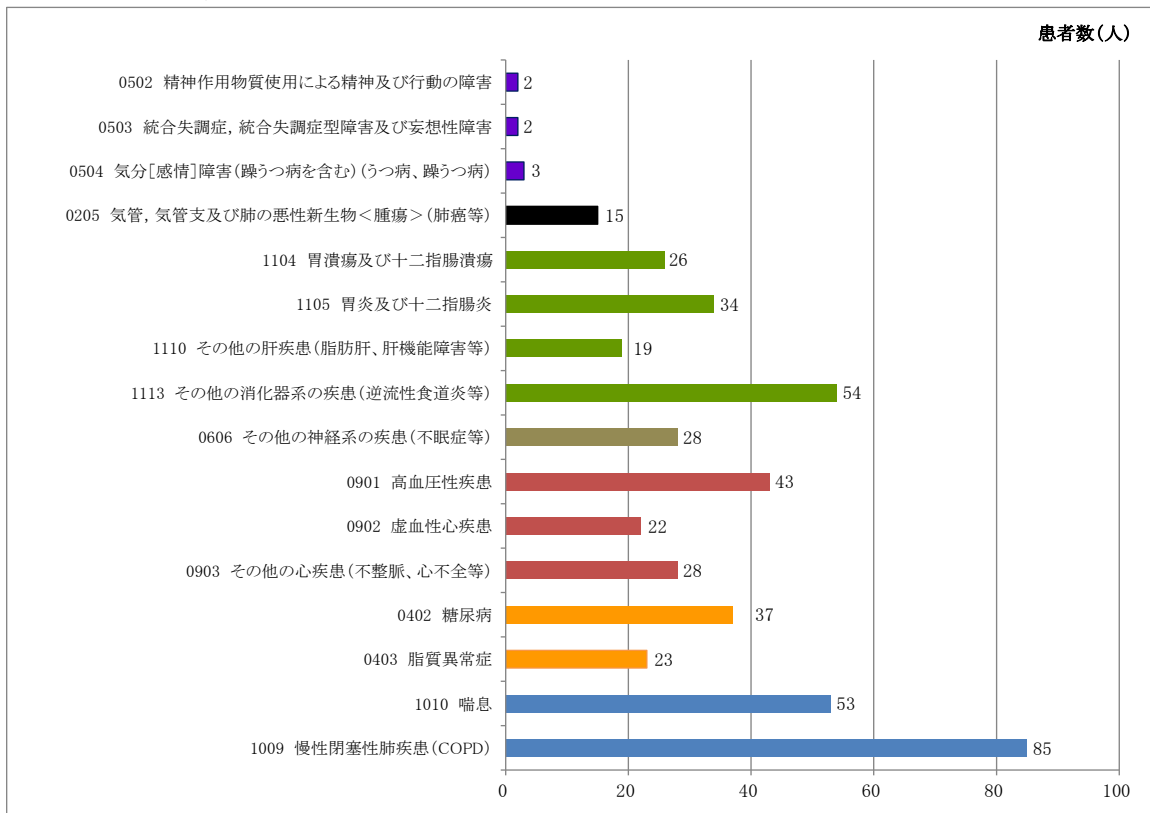
	一人当たり医療費(円)
医療費合計	1,071,298
COPD関連	48,090
COPD関連以外	1,023,208

データ化範囲(分析対象)

…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

COPD患者85人が併存している疾患を以下の通り示す。COPD患者は高血圧・心疾患等の循環器系疾患や、糖尿病及び脂質異常等の生活習慣病を併存している。また、肺がんは85人のうち17.6%の15人が併存している。肺がん等の悪性新生物、うつ病・躁うつ病、統合失調症については、患者一人当たりの医療費が高額な疾病である。

COPD患者の併存疾患



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

薬物療法が発生している患者のみ分析対象とする。

COPDの併存疾患	COPDの合併疾患
●全身性炎症	●抑うつ
●栄養障害	●糖尿病
●骨格筋機能障害	●睡眠障害
●心・血管疾患(心筋梗塞・狭心症・脳血管障害)	●緑内障
●骨粗鬆症	●貧血
	●肺がん
	●喘息

出典: 日本呼吸器学会COPDガイドライン第3版作成委員会
「COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン第3版」全身の併存疾患、合併疾患
日本呼吸器学会 平成20年6月 ISBN:978-4-7792-0431-9

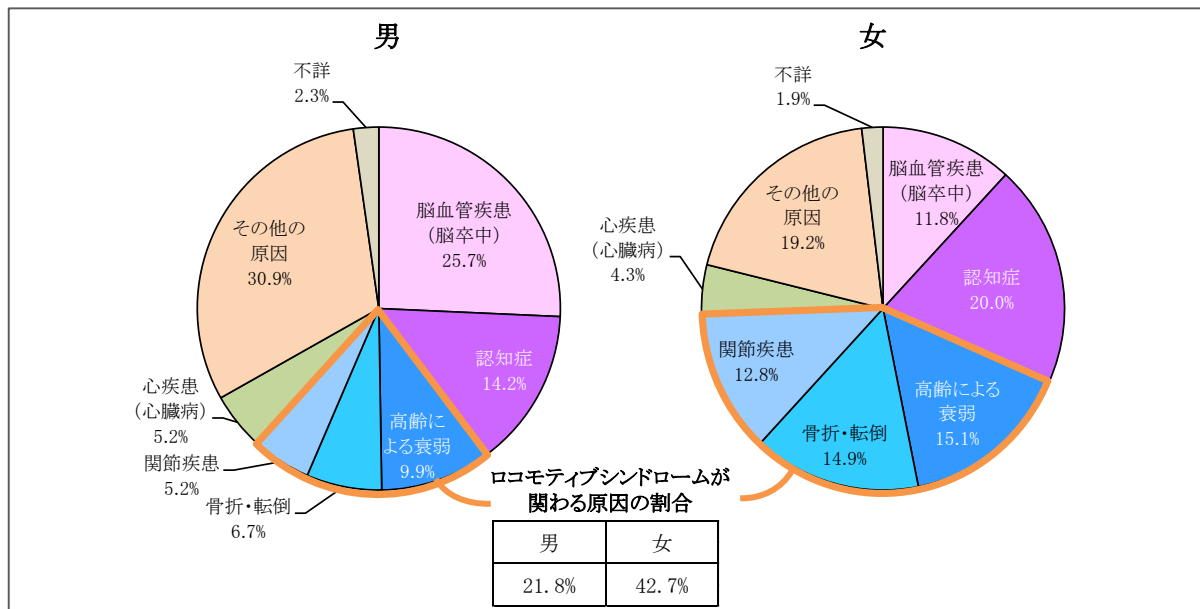
(10) ロコモティブシンドロームの実態と潜在患者分析

ロコモティブシンドロームは日本整形外科学会が平成19年に提唱した概念で、筋肉・骨・関節・軟骨・椎間板といった運動器の障害により、歩行や日常生活に何らかの障害をきたしている状態、または、そうなるリスクが高い状態をいう。和名は「運動器症候群」である。自立度が低下し、要介護状態となる危険性が高い。

増え続ける要介護人口の歯止めとして、ロコモティブシンドローム対策の必要性は極めて高い。

① ロコモティブシンドロームの現状

[全国] 性別にみた介護が必要となった主な原因の構成



出典:「国民生活基礎調査」厚生労働省 平成28年

※「高齢による衰弱」は、ロコモティブシンドローム原因疾患であるサルコペニアが原因のひとつであり、運動器障害との関連があることからロコモティブシンドロームが関わる原因に加えている。

[全国] 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因(上位3位)

要介護度	第1位		第2位		第3位	
総数	認知症	18.0	脳血管疾患(脳卒中)	16.6	高齢による衰弱	13.3
要支援者	関節疾患	17.2	高齢による衰弱	16.2	骨折・転倒	15.2
要支援1	関節疾患	20.0	高齢による衰弱	18.4	脳血管疾患(脳卒中)	11.5
要支援2	骨折・転倒	18.4	関節疾患	14.7	脳血管疾患(脳卒中)	14.6
要介護者	認知症	24.8	脳血管疾患(脳卒中)	18.4	高齢による衰弱	12.1
要介護1	認知症	24.8	高齢による衰弱	13.6	脳血管疾患(脳卒中)	11.9
要介護2	認知症	22.8	脳血管疾患(脳卒中)	17.9	高齢による衰弱	13.3
要介護3	認知症	30.3	脳血管疾患(脳卒中)	19.8	高齢による衰弱	12.8
要介護4	認知症	25.4	脳血管疾患(脳卒中)	23.1	骨折・転倒	12.0
要介護5	脳血管疾患(脳卒中)	30.8	認知症	20.4	骨折・転倒	10.2

出典:「国民生活基礎調査」厚生労働省 平成28年

②ロコモティブシンドロームの原因疾患と患者の実態

下妻市国民健康保険におけるロコモティブシンドローム原因疾患のレセプトが存在する患者数を示す。40歳以上の男女が対象者である。

条件設定による指導対象者の特定(ロコモティブシンドローム)

I.条件設定による指導対象者の特定	
原因疾患のレセプトは存在し、候補者となった患者数	1,877人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。対象年齢は40歳以上。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

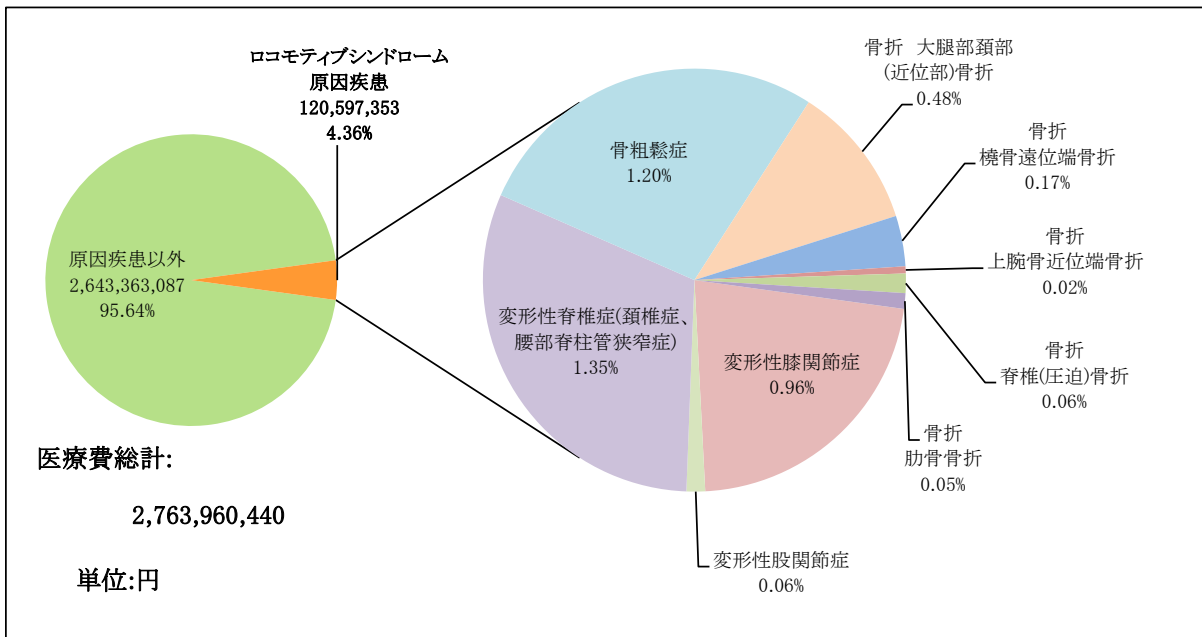
※ロコモティブシンドローム原因疾患は「ロコモティブシンドローム診療ガイド2010(日本整形外科学会 編)」に基づき、以下関連疾病を選定。

※原因疾患…変形性膝関節症、変形性股関節症、変形性脊椎症(頸椎症、腰部脊柱管狭窄症)、骨粗鬆症、骨折(大腿部頸部(近位部)骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折、脊椎(圧迫)骨折、肋骨骨折、脆弱性骨折)、サルコペニア

※サルコペニア…筋肉量が低下し、筋力または身体能力が低下した状態。

ロコモティブシンドローム原因疾患別医療費をグラフにて示す。医療費総計の約4.36%をロコモティブシンドローム原因疾患が占め、中には要支援及び要介護の主な原因である「関節疾患」「骨折・転倒」に関連する疾病が多く含まれる。

ロコモティブシンドローム原因疾患別医療費の状況



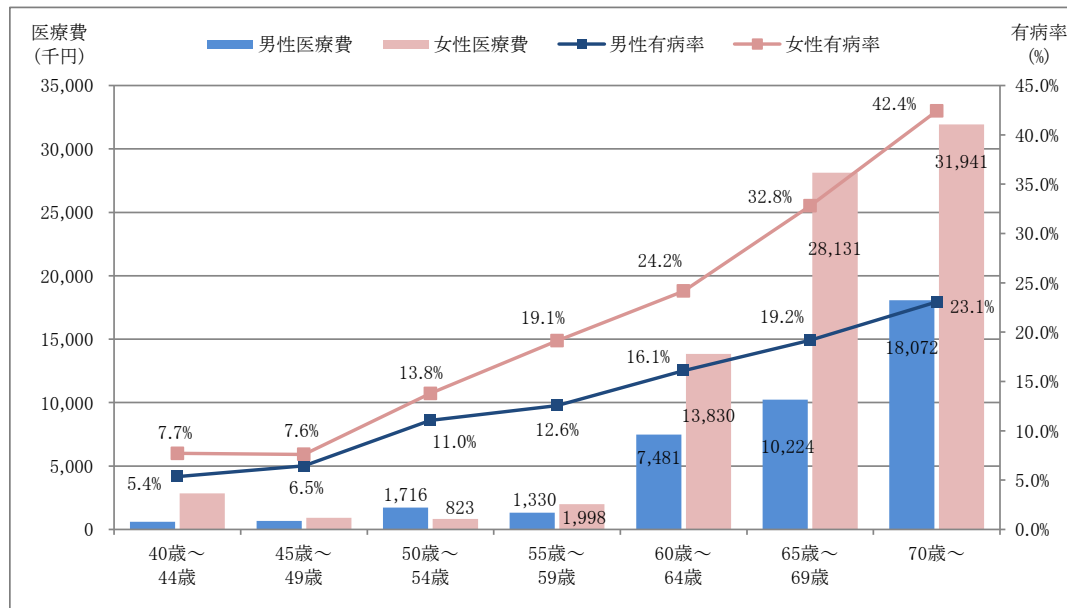
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。対象年齢は40歳以上。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

年齢階層別・男女別のロコモティブシンドローム原因疾患有病率と原因疾患医療費を以下に示す。加齢が進むにつれて患者数が増え医療費が急速に増大している。特に女性が多いため、女性への対策を図ることがロコモティブシンドローム原因疾患医療費削減に有効と考えられる。

年齢階層別・男女別 ロコモティブシンドローム原因疾患 有病率と医療費



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
 対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。対象年齢は40歳以上。
 資格確認日…平成29年3月31日時点。

4. 分析結果に基づく健康課題の把握

(1) 分析結果

平成28年4月から平成29年3月診療分(12カ月分)における分析結果と平成26年度から平成28年度における分析結果を以下にまとめた。

下妻市国民健康保険の抱える課題は、生活習慣病及び新生物への対策が課題であると言える。

① 疾病大分類

【平成28年度】

医療費が高い疾病では循環器系の疾患が1位、内分泌、栄養及び代謝疾患が3位、患者数が多い疾病でも循環器系の疾患が3位と生活習慣病が上位を占めていた。また新生物も医療費で2位、患者一人当たりの医療費が高額な疾病で3位であった。患者一人当たり医療費の1位が周産期に発生した病態、2位が精神及び行動の障害であった。母子部門・福祉部門へ情報提供し、連携を取る。

医療費が高い疾病		構成比
1位	循環器系の疾患	16.7%
2位	新生物<腫瘍>	13.1%
3位	内分泌、栄養及び代謝疾患	9.3%

患者数が多い疾病		患者数
1位	呼吸器系の疾患	6,890人
2位	消化器系の疾患	5,777人
3位	循環器系の疾患	5,126人

患者一人当たりの医療費が高額な疾病		患者一人当たりの医療費
1位	周産期に発生した病態	559,960円
2位	精神及び行動の障害	205,684円
3位	新生物<腫瘍>	174,890円

【平成26年度～平成28年度】

大分類で医療費が高い疾病を3年度で見ると、順位に変動はなく、1位は循環器系の疾患、2位は新生物、3位は内分泌、栄養及び代謝疾患であった。循環器系の疾患は割合は減少傾向である。

医療費が高い疾病			構成比
平成26年度	1位	循環器系の疾患	18.3%
	2位	新生物<腫瘍>	12.1%
	3位	内分泌、栄養及び代謝疾患	9.8%
平成27年度	1位	循環器系の疾患	18.1%
	2位	新生物<腫瘍>	11.8%
	3位	内分泌、栄養及び代謝疾患	9.1%
平成28年度	1位	循環器系の疾患	16.7%
	2位	新生物<腫瘍>	13.1%
	3位	内分泌、栄養及び代謝疾患	9.3%

②疾病中分類別

【平成28年度】

大分類を細分化し、中分類で分析を行った結果、その他の悪性新生物が医療費が高い疾病で1位で、高血圧性疾患が2位、糖尿病が3位であった。患者数が多い疾病では、高血圧性疾患が1位、患者一人あたりの医療費が高額な疾病では、腎不全が2位であった。

医療費が高い疾病		割合
1位	その他の悪性新生物<腫瘍> ※主に前立腺がん	5.9%
2位	高血圧性疾患	5.7%
3位	糖尿病	5.1%

患者数が多い疾病		患者数
1位	高血圧性疾患	3,879人
2位	その他の消化器系の疾患	3,439人
3位	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,253人

患者一人あたりの医療費が高額な疾病		患者一人あたりの医療費
1位	妊娠及び胎児発育に関連する障害	1,012,654円
2位	腎不全	915,808円
3位	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	622,477円

【平成26年度～平成28年度】

中分類で医療費が高い疾病を3年度で見ると、平成26年度と平成27年度の1位は高血圧性疾患、2位は糖尿病であった。平成27年度に3位であった悪性新生物は平成28年度に1位となり、2位は高血圧性疾患、3位は糖尿病であった。

医療費が高い疾病			構成比
平成26年度	1位	高血圧性疾患	6.5%
	2位	糖尿病	5.5%
	3位	腎不全	5.2%
平成27年度	1位	高血圧性疾患	6.0%
	2位	糖尿病	4.9%
	3位	その他の悪性新生物<腫瘍> ※主に前立腺がん	4.8%
平成28年度	1位	その他の悪性新生物<腫瘍> ※主に前立腺がん	5.9%
	2位	高血圧性疾患	5.7%
	3位	糖尿病	5.1%

③高額(5万点以上)レセプトの件数と割合、疾病傾向

高額レセプトの発生件数の割合は、平成26年度と平成27年度は0.6%であったが、平成28年度に0.7%と増えている。医療費全体における割合では、平成26年度は29.9%、平成27年度は31.9%、平成28年度は32.5%で、医療費割合は増えている。

平成26年度	高額レセプト件数	1,072件
	高額レセプト件数割合	0.6%
	高額レセプト医療費割合	29.9%
平成27年度	高額レセプト件数	1,149件
	高額レセプト件数割合	0.6%
	高額レセプト医療費割合	31.9%
平成28年度	高額レセプト件数	1,124件
	高額レセプト件数割合	0.7%
	高額レセプト医療費割合	32.5%

高額レセプトの患者一人あたりの医療費の高い疾病では、くも膜下出血が平成27年度は4位、平成28年度は1位であった。平成28年度には4位に脂質異常症、5位に脳内出血が入っている。また平成27年度の3位には慢性閉塞性肺疾患（COPD）が入っている。

高額レセプト発生患者の疾病傾向 患者一人当たりの医療費順(中分類)		患者数	患者一人当たりの 医療費	
平成 26 年度	1位	白血病	2人	9,227,525円
	2位	真菌症	3人	7,711,593円
	3位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	2人	7,167,470円
	4位	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	4人	6,302,105円
	5位	喘息	1人	6,148,310円
平成 27 年度	1位	心臓の先天奇形	1人	12,936,590円
	2位	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	1人	12,801,190円
	3位	慢性閉塞性肺疾患	1人	7,930,900円
	4位	くも膜下出血	2人	7,865,500円
	5位	その他の精神及び行動の障害	2人	6,694,090円
平成 28 年度	1位	くも膜下出血	2人	6,539,640円
	2位	妊娠及び胎児発育に関連する障害	6人	5,939,495円
	3位	悪性リンパ腫	3人	5,546,190円
	4位	脂質異常症	1人	5,237,030円
	5位	脳内出血	7人	4,952,110円

高額レセプトが発生している患者数の多い疾病では、3年連続でその他の悪性新生物が1位であった。虚血性心疾患は平成26年度と平成27年度が2位、平成28年度は3位であった。平成26年度の3位には腎不全が入っている。骨折も3年連続で入っている。

高額レセプト発生患者の疾病傾向 患者数順(中分類)		患者数	患者一人当たりの 医療費	
平成 26 年度	1位	その他の悪性新生物<腫瘍>※主に前立腺がん	33人	3,612,469円
	2位	虚血性心疾患	30人	2,479,957円
	3位	腎不全	23人	3,728,947円
	4位	その他の消化器系の疾患	22人	2,409,275円
	5位	骨折	22人	2,657,970円
平成 27 年度	1位	その他の悪性新生物<腫瘍>※主に前立腺がん	40人	3,575,851円
	2位	虚血性心疾患	39人	2,819,046円
	3位	その他の心疾患	31人	2,836,791円
	4位	その他の消化器系の疾患	29人	1,858,391円
	5位	骨折	27人	2,454,567円
平成 28 年度	1位	その他の悪性新生物<腫瘍>※主に前立腺がん	49人	3,841,418円
	2位	骨折	37人	2,219,876円
	3位	虚血性心疾患	26人	2,544,051円
	4位	その他の消化器系の疾患	23人	2,517,913円
	5位	その他の心疾患	21人	4,108,728円

④特定健康診査及びレセプトデータによる分析

平成28年度の特定健康診査とレセプトデータによる分析の結果、健診異常値を放置している人は569人、生活習慣病の治療を中断している人は84人、生活習慣病の状態不明者は3,316人であった。

健診異常値放置者	569人
生活習慣病治療中断者	84人
生活習慣病状態不明者	3,316人

⑤人工透析患者の実態

平成28年度のレセプトデータより、人工透析患者は48人いた。そのうち、28人がⅡ型糖尿病が起因であった。

人工透析患者	48人
(うちⅡ型糖尿病起因患者)	28人

また、新規導入患者は、平成27年度4名、平成28年度7名、平成29年度1名（平成30年2月まで）であった。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度 ※平成30年2月まで
新規透析導入患者	4人	7人	1人

※国保データベース（KDB）システムより

⑥医療機関受診状況

平成28年度のレセプトデータより、医療機関の受診状況に問題のある被保険者を分析した結果、多受診の重複受診者が98人、頻回受診者が168人、重複服薬者が230人にいた。また、服薬に問題のある薬剤併用禁忌対象者は327人、長期多剤服薬者は361人いた。

重複受診者	98人
頻回受診者	168人
重複服薬者	230人
薬剤併用禁忌対象者	327人
長期多剤服薬者	361人

⑦ジェネリック医薬品普及率（数量ベース/医科・調剤レセプト）

数量ベースのジェネリック医薬品の普及率は、平成26年度が58.8%、平成27年度が63.7%、平成28年度が70.3%であった。直近の平成29年3月の普及率は、70.9%である。

※2020年度末までに普及率80%目標/厚生労働省

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
ジェネリック医薬品 普及率	58.8%	63.7%	70.3%

⑧COPD患者の実態

平成28年度のレセプトデータより、COPD（慢性閉塞性肺疾患）の投薬治療がある患者は85人、投薬はまだないが病名があるものが288人いた。潜在患者は1,700人いると考えられる。

投薬治療患者	85人
投薬治療が発生していない患者	288人
推定潜在患者	1,700人

⑨ロコモティブシンドロームの実態

平成28年度のレセプトデータより、ロコモティブシンドロームの原因疾患を持つ40歳以上は、1,877人いた。

ロコモの原因疾患を持つ患者	1,877人
---------------	--------

(2) 下妻市国民健康保険被保険者の健康課題

現状分析から5つの重点健康課題が考えられる。

- ①脳血管疾患に関する標準化死亡比が全国、茨城県と比べて高く、動脈硬化が懸念される。
- ②糖尿病や高血圧性疾患の外来医療費が26年度から3位以内で推移している。また、特定健診有所見率でも茨城県より高い状態で、平成26年から改善しておらず未治療ハイリスク者数も多い状況がある。
- ③特定健康診査の受診率が低い。
- ④特定保健指導の実施率がほぼ横ばい状態。
- ⑤人工透析患者では58.3%が生活習慣病を起因とするもので、その58.3%が糖尿病性腎症である。

(3) 対策の方向性

本市被保険者の重点健康課題について、4つの基本方針を立て、それに基づく施策を実施する。

方針①生活習慣病の重症化予防

人工透析や脳血管疾患、虚血性心疾患という重大な疾患にかかるリスクを下げるために生活習慣病の重症化を予防する。

実施事業

- ・糖尿病性腎症重症化予防事業
- ・未受療者の重症化予防事業
- ・生活習慣病治療中断者受診勧奨事業

方針②生活習慣病の発症予防

生活習慣を改善し、人工透析や脳血管疾患、虚血性心疾患という重大な疾病につながる生活習慣病の発症を防ぐ。

実施事業

- ・特定健康診査未受診者対策（特定健康診査受診率向上）
- ・COPD啓発・予防事業
- ・ロコモティブシンドローム啓発・予防事業

方針③生活習慣病に関する意識向上

生活習慣病は、病気になる前に生活習慣の偏りに気づき、改善することが重要であるため、健康づくりに関する意識向上を図る。

実施事業

- ・健康づくり事業（ポピュレーションアプローチ）

方針④医療費の適正化

実施事業

- ・受診行動適正化指導事業
- ・ジェネリック医薬品差額通知事業
- ・服薬情報通知事業

5. 保健事業実施計画

(1) 各事業の目的と概要一覧

第2期データヘルス計画にて、実施する事業一覧を以下に示す。

事業名	事業目的	事業概要
糖尿病性腎症重症化 予防事業	糖尿病性腎症で通院するリスクの高い患者に対して生活指導を行い、人工透析への移行を防止する	特定健康診査の検査値とレセプトの治療状況から対象者を特定し、主治医の指示のもと専門職より対象者個人に6ヵ月間の面談指導と電話指導を行う。指導内容は、食事指導・運動指導・服薬管理等とし、指導完了後も自立して正しい生活習慣を持続できるように日常に根付いたものとする。
未受療者の 重症化予防事業	健診異常値を放置している対象者を医療機関受診につなげる	特定健康診査の受診後、その結果に異常値がある、高血圧・高血糖・高コレステロールの対象者で医療機関受診が確認できない対象者を特定し、訪問指導等で受診勧奨を行う。
生活習慣病治療 中断者受診勧奨事業	生活習慣病治療中断者の減少	レセプトから、かつて生活習慣病で治療を受けていたにもかかわらず、一定期間、医療機関受診が確認できず、治療を中断している可能性のある対象者を特定する。対象者に通知書を送付することで、受診勧奨を行う。通知書は、生活習慣病治療を中断するリスクを分かりやすく記載する。
特定健康診査 未受診者対策 (特定健康診査受診率 向上)	生活習慣病の発症を未然に防ぐため、健診受診率の向上を図る	特定健康診査を受診していない人に、健康増進、疾病の予防・早期発見のために健康診査を受けるよう受診勧奨を行う。
COPD啓発・予防事業	COPDの周知啓発により、COPDの 予防・早期治療を図る	COPDは、疾病としての認知度が低いことに加え、早期発見がされにくく、重症化して初めて気づく場合が多い。重症化することで、呼吸不全に陥り、息苦しさのために日常生活ができなくなるなど、生活の質を低下させる大きな要因と考えられることから、認知度の向上及び早期発見による重症化予防の周知・啓発を図る。
ロコモティブ シンドローム 啓発・予防事業	ロコモティブシンドロームの周知啓発により、効果的な介護予防を図る	運動器の障害によって生活活動の制限が起きる、要介護状態になるリスクが高くなっている状態であり、徐々に進行することから、自分でも気づくことが大切である。そのため、周知・啓発を図る。
健康づくり事業 (ポピュレーションアプローチ)	健康の保持・増進や生活習慣病の発症・重症化予防についての正しい知識の普及。また市民自らが、生活習慣の改善を図り、健康づくりに取り組めることができるように支援する	生活習慣を自分のこととして意識し、改善しようとする意欲の向上を図るために、健康教室を開催する。

実施内容	目標値	
	アウトプット	アウトカム
平成30年度～平成35年度		
指導対象者に対して適切な保健指導を行う。健診、レセプトデータより検査値の推移、定期的な通院の有無等を確認する。	対象者の指導終了率 80%以上	指導完了者の生活習慣改善率 70% 指導完了者の検査値改善率 70% 新規人工透析患者 0人
健診後の未受療者に訪問や通知等で受診勧奨及び保健指導を行う。指導後に医療機関受療があるか確認。受療がない対象者にはフォローを行う。	対象者のうち訪問・電話連絡して話 ができた人の割合 70%	対象者のうちレセプトで受療確認し た人の割合 20% ハイリスク者の減少
生活習慣病治療中断者に医療機関受診勧奨通知書を作成し、郵送する。通知後に医療機関受診があるか確認。受診がない対象者にはフォローを行う。	対象者への通知率 100%	対象者の医療機関受診率 30% 生活習慣病治療中断者数 10%減少
前年の健診未受診者を選定し、未受診の理由を把握し、各階層ごとの内容別に応じた受診勧奨を実施する。医療機関と連携し、治療中の人への健診受診勧奨を積極的に実施する。	対象者への通知率 100%	対象者の特定健康診査受診率 30% 特定健康診査受診率 60%
生活習慣病予防対策として、知識の普及と講座及び健康相談を実施する。	特定健康診査時にパンフレットを配布した人数 教室の実施回数	COPDの言葉も内容も知っている人の割合 30%
介護予防対策として、知識の普及、啓発を図る。また介護部門と連携し、シルバーリハビリ体操教室・にこにこ体操教室・げんき運動教室等の教室を実施する。	特定健康診査時や各種教室開催時にパンフレットを配布した人数 教室の実施回数	筋・骨格系の原因の介護認定率の低下 ロコモティブシンドロームの認知度 30%
生活習慣病予防対策として、高血圧・糖尿病・脂質異常症・骨粗鬆症などの各種教室や講演会、講座の開催及び保健師・管理栄養士による健康相談を実施する。	生活習慣病予防のため、教室や講演会等事業の実施回数・参加者人数	特定健康診査結果で、血圧・脂質・HbA1cの異常値所見割合減少 各教室の募集人数に対する参加者割合 50%

事業名	事業目的	事業概要
<p>受診行動適正化 指導事業 (重複・頻回受診)</p>	<p>重複・頻回受診者数の減少</p>	<p>レセプトから、医療機関の過度な受診が確認できる対象者を特定し、指導する。指導は専門職によるもので、適正な医療機関へのかかり方について、面談指導または電話指導を行う。</p>
<p>ジェネリック 医薬品差額通知事業</p>	<p>ジェネリック医薬品の普及率 向上</p>	<p>レセプトから、ジェネリック医薬品の使用率が低く、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定する。対象者に通知書を送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す。通知書の内容は、先発医薬品からジェネリック医薬品へ切り替えることで、どれくらい薬剤費が軽減できるか、ジェネリック医薬品とは何か等の情報を記載する。</p>
<p>服薬情報通知事業 ※33年度より実施</p>	<p>服薬の適正化</p>	<p>レセプトから、長期多剤服薬者を特定し通知書を送付する。また、通知後のレセプトデータから効果を確認する。</p>

実施内容	目標値	
	アウトプット	アウトカム
平成30年度～平成35年度		
指導対象者に対して適切な保健指導を行う。指導後に対象者の受診行動が適切化されているか確認する。	対象者の指導実施率 70%以上	指導完了者の受診行動適正化 30% 重複・頻回受診者 20%減少
年4回の差額通知実施。対象者特定方法や効果検証方法、実施後の効果を考慮し、継続を検討する。	対象者への通知率 100%	ジェネリック医薬品普及率(数量ベース) 80%
対象者を特定し、服薬情報通知書を発送する。通知後に対象者の服薬状況が適正となっているかを確認する。	対象者への通知率 100%	長期多剤服薬者割合10ポイント減少

(2) 全体スケジュール

各事業におけるスケジュールについて以下に示す。

事業名	第1期			第2期					
	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度	平成 34年度	平成 35年度
糖尿病性腎症 重症化予防事業	実施			P	D	CA	P	D	CA
未受療者の重症化予防事業	実施			P	D	CA	P	D	CA
生活習慣病治療 中断者受診勧奨事業	実施			P	D	CA	P	D	CA
特定健康診査 未受診者対策 (特定健康診査受診率向上)	実施			P	D	CA	P	D	CA
COPD啓発・予防事業	実施			P	D	CA	P	D	CA
ロコモティブシンドローム 啓発・予防事業	実施			P	D	CA	P	D	CA
健康づくり事業 (ポピュレーションアプローチ)	実施			P	D	CA	P	D	CA
受診行動適正化 指導事業 (重複・頻回受診、重複服薬)	実施			P	D	CA	P	D	CA
ジェネリック 医薬品差額通知事業	実施			P	D	CA	P	D	CA
服薬情報通知事業						P	D		CA

(3) 各事業の実施内容と評価方法

本計画(第2期データヘルス計画)における実施事業及び評価方法は以下の通りである。

①糖尿病性腎症重症化予防事業

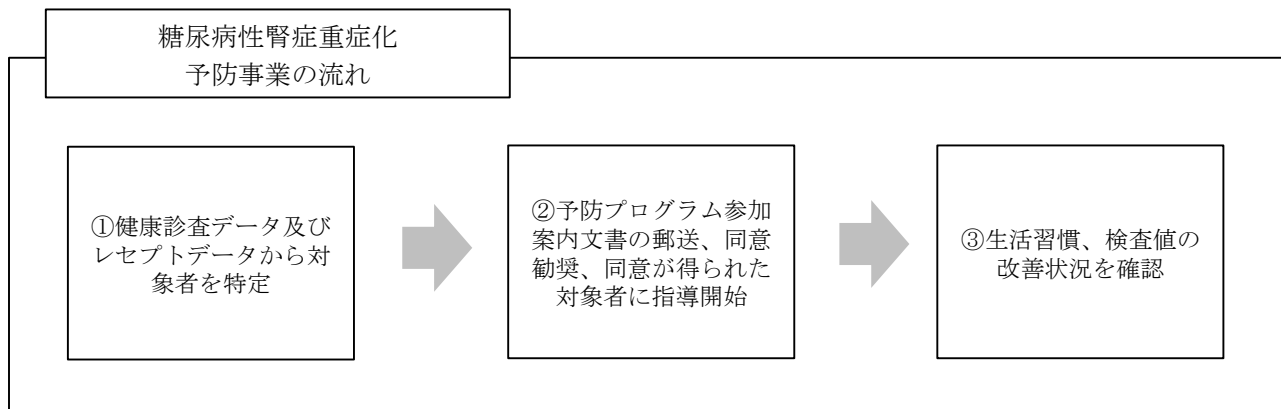
【事業目的】

糖尿病性腎症で通院するリスクの高い患者に対して生活指導を行い、人工透析への移行を防止する

【実施概要】

特定健康診査の検査値とレセプトの治療状況から対象者を特定し、主治医の指示のもと専門職より対象者個人に6ヵ月間の面談指導と電話指導を行う。指導内容は、食事指導・運動指導・服薬管理等とし、指導完了後も自立して正しい生活習慣を持続できるように日常に根付いたものとする。

【実施内容】



【目標】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者の指導終了率 80%以上	短期 指導完了者の生活習慣改善率 70% 指導完了者の検査値改善率 70%	指導後の結果から生活習慣や検査値の改善状況を確認する。
	中長期 新規人工透析患者 0人	レセプトデータより新規人工透析患者数を確認する。

②未受療者の重症化予防事業

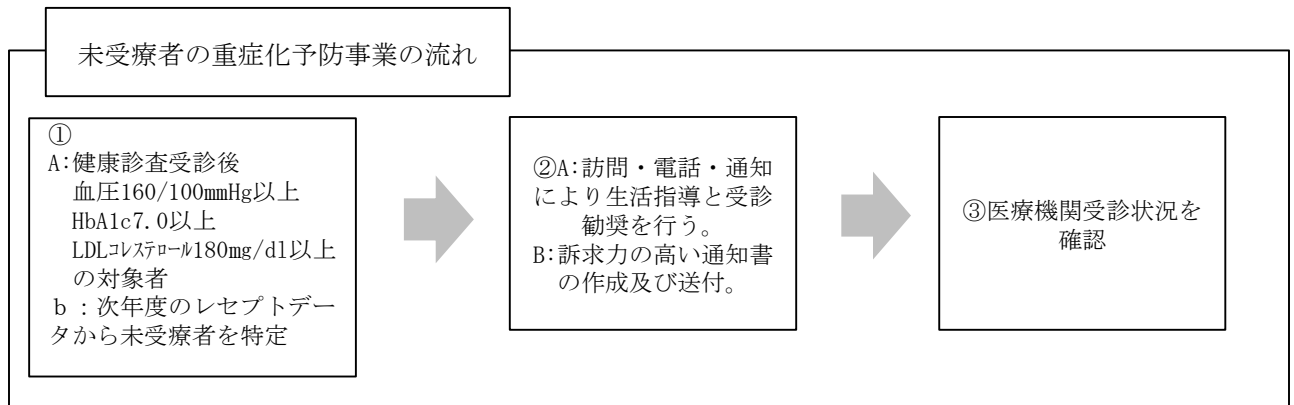
【事業目的】

健診結果で異常値を放置している対象者を医療機関受診につなげる

【実施概要】

特定健康診査の受診後、その結果に異常値がある、高血圧・高血糖・高コレステロールの対象者で医療機関受診が確認できない対象者を特定し、訪問指導等で受診勧奨を行う。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム		
		目標値	評価方法
対象者のうち訪問・電話連絡して話のできた人の割合 70%	短期	対象者のうちレセプトで受療確認した人の割合20%	通知後医療機関を受診したか確認する。
	中長期	ハイリスク者の減少	健診異常値放置者数の推移により確認する。

③生活習慣病治療中断者受診勧奨事業

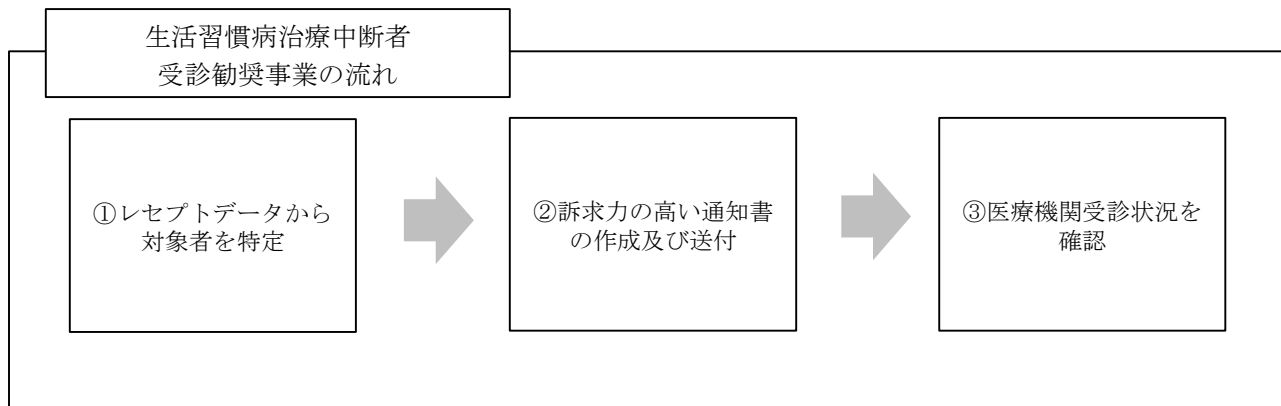
【事業目的】

生活習慣病治療中断者の減少

【実施概要】

レセプトから、かつて生活習慣病で治療を受けていたにもかかわらず、一定期間、医療機関受診が確認できず、治療を中断している可能性のある対象者を特定する。対象者に通知書を送付することで、受診勧奨を行う。通知書は、生活習慣病治療を中断するリスクを分かりやすく記載する。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者への通知率 100%	短期 対象者の医療機関受診率 30%	通知後医療機関を受診したか確認する。
	中長期 生活習慣病治療中断者 10%減少	生活習慣病治療中断者数の推移により確認する。

④特定健康診査未受診者対策（特定健康診査受診率向上）

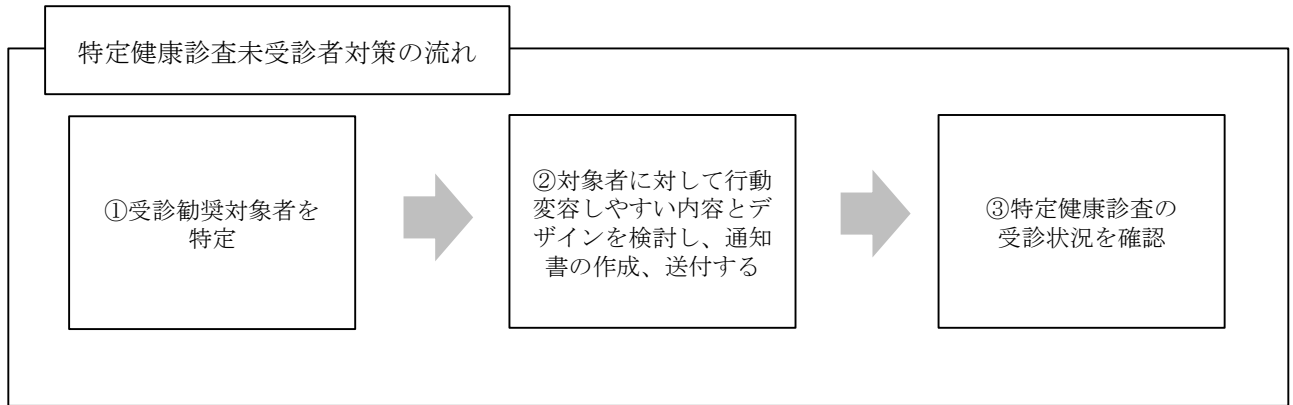
【事業目的】

生活習慣病の発症を未然に防ぐため、健診受診率の向上を図る

【事業概要】

特定健康診査を受診していない人に、健康増進、疾病の予防・早期発見のために健康診査を受けるよう受診勧奨を行う。また、今後の健診の在り方を検討するために未受診理由把握を行う。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者への通知率 100%	短期	対象者の特定健康診査受診率 30% 事業対象者のうち特定健康診査を受診した人数より確認する。
	中長期	特定健康診査受診率 60% 特定健康診査受診率を確認する。

⑤COPD啓発・予防事業

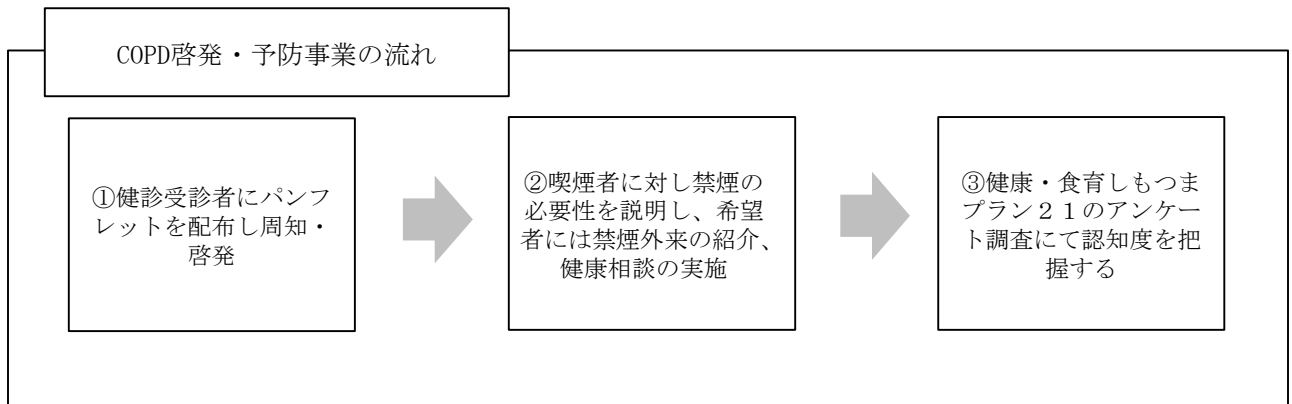
【事業目的】

COPDの周知啓発により、COPDの予防・早期治療を図る

【事業概要】

COPDは、疾病としての認知度が低いことに加え、早期発見がされにくく、重症化して初めて気づく場合が多い。重症化することで、呼吸不全に陥り、息苦しさのために日常生活ができなくなるなど、生活の質を低下させる大きな要因と考えられることから、認知度の向上及び早期発見による重症化予防の周知・啓発を図る。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
パンフレット配布人数 広報・ホームページ等の周知回数	COPDを知っている人の割合 30% 市民の喫煙率 15%	健康・食育しもつまプラン21のアンケートにより確認

⑥ロコモティブシンドローム啓発・予防事業

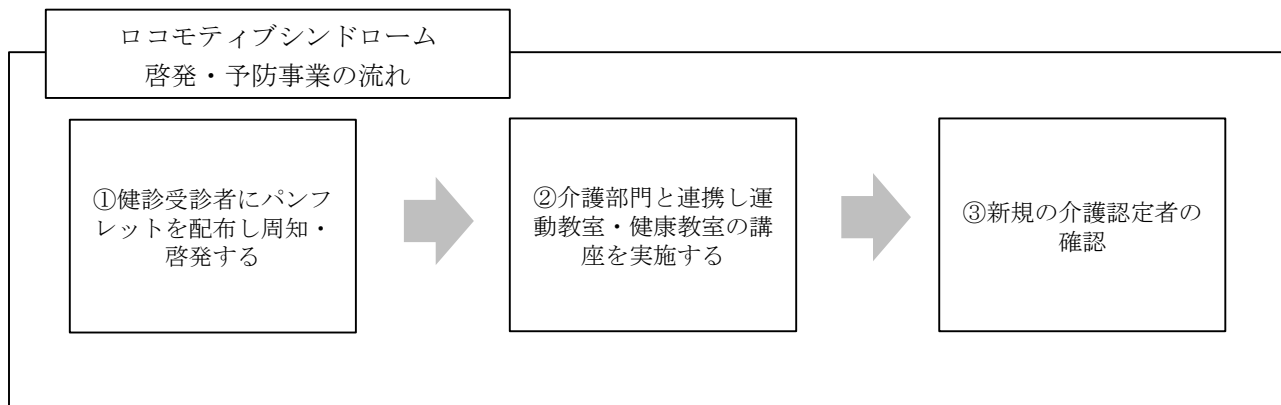
【事業目的】

ロコモティブシンドロームの周知啓発により、効果的な介護予防を図る

【事業概要】

運動器の障害によって生活活動の制限が起きる、要介護状態になるリスクが高くなっている状態であり、徐々に進行することから、自分でも気づくことが大切である。そのため、周知・啓発を図る。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
特定健康診査時や各種教室開催時にパンフレットを配布した人数 教室の実施回数	筋・骨格系の原因の介護認定率の低下 ロコモの認知度 30%	新規の介護認定者の原因疾患で確認

⑦健康づくり事業（ポピュレーションアプローチ）

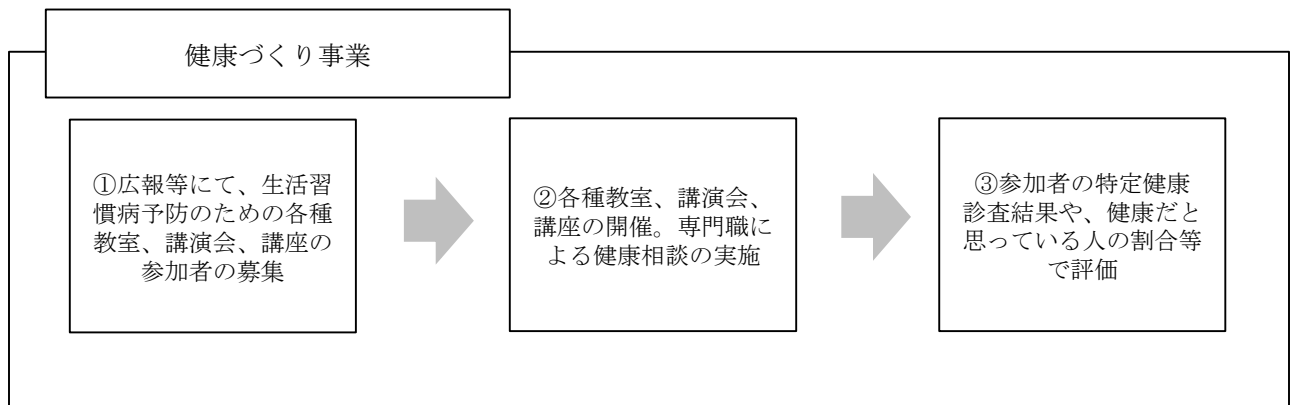
【事業目的】

健康の保持・増進や生活習慣病の発症・重症化予防についての正しい知識の普及。また市民自らが、生活習慣の改善を図り、健康づくりに取り組めることができるように支援する

【実施概要】

生活習慣を自分のこととして意識し、改善しようとする意欲の向上を図るために、健康教室を開催する。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
生活習慣病予防のため、教室や講演会等事業の実施回数・参加人数	特定健康診査結果で、血圧・脂質・HbA1cの異常値所見割合減少 各教室の募集人数に対する参加者割合 50% 健康だと思っている人の割合 40%	教室・講演会後の特定健康診査結果、健康・食育しもつまプラン21アンケート結果で確認

⑧受診行動適正化指導事業(重複・頻回受診)

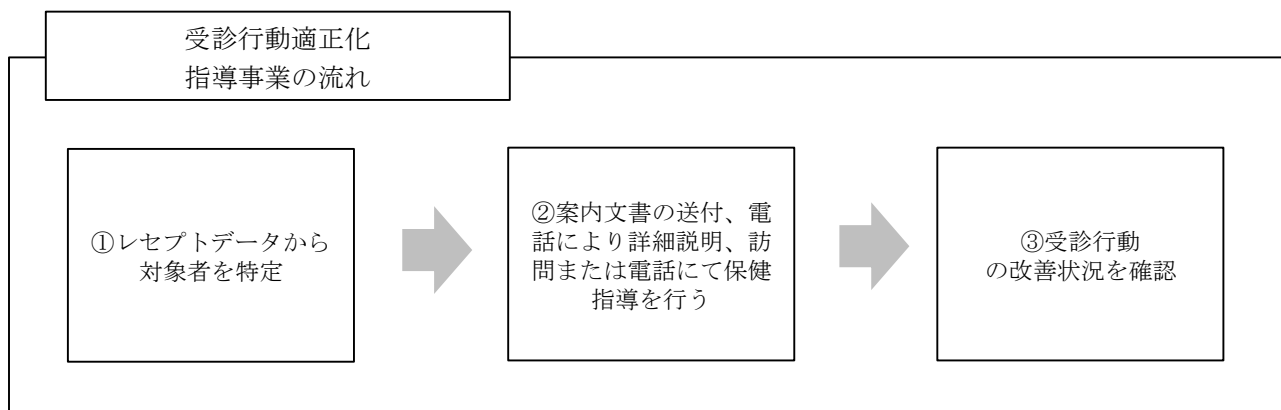
【事業目的】

重複・頻回受診者数の減少

【実施概要】

レセプトから、医療機関への過度な受診が確認できる対象者を特定し、適正な医療機関へのかかり方について、専門職による指導を行う。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム		
		目標値	評価方法
対象者の指導実施率 70%以上	短期	指導完了者の受診行動適正化 30%	指導後の医療機関受診状況を確認する。
	中長期	重複・頻回受診者 20%減少	多受診対象者数の推移により確認する。

⑨ジェネリック医薬品差額通知事業

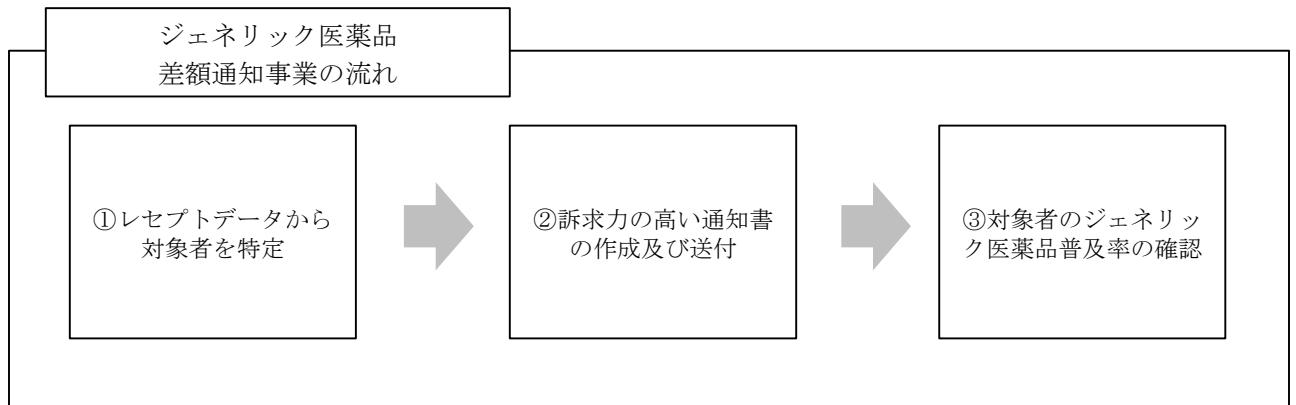
【事業目的】

ジェネリック医薬品の普及率向上

【実施概要】

レセプトデータから、ジェネリック医薬品の使用率が低く、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定する。通知書を対象者に送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者への通知率 100%	ジェネリック医薬品普及率(数量ベース) 80%	ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)推移により確認する。

⑩服薬情報通知事業

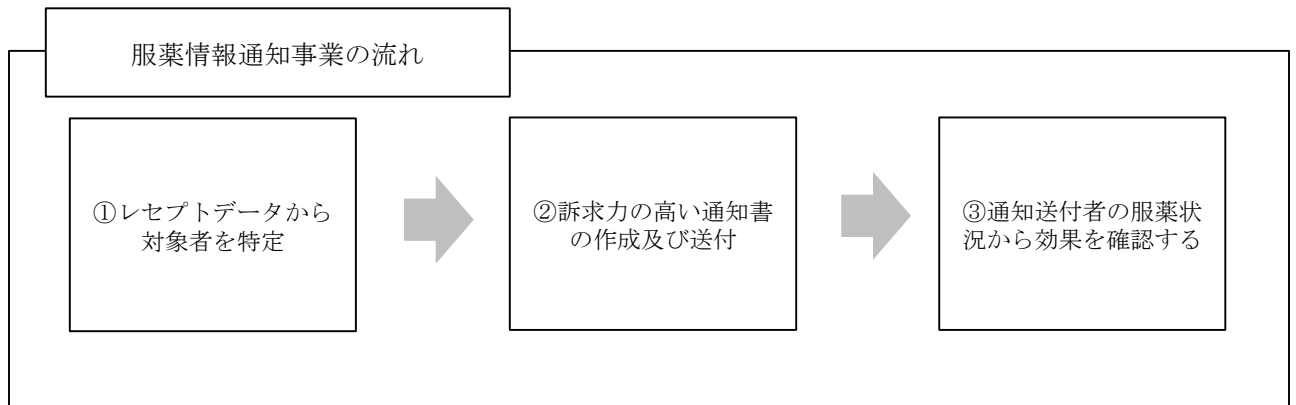
【事業目的】

服薬の適正化

【事業概要】

レセプトデータから、長期多剤服薬者を特定し通知書を送付する。また、通知後のレセプトデータから効果を確認する。33年度より実施予定。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者への通知率 100%	長期多剤服薬者割合 10ポイント減少	長期多剤服薬者割合の推移により確認する

第3章

第3期特定健康診査等実施計画

1. 計画の基本的な考え方

(1) 計画策定の主旨

本計画は、下妻市が国民健康保険の保険者として、メタボリックシンドロームの該当者・予備群の減少により、市民（国民健康保険被保険者）の健康維持・生活の質の向上と、中長期的な医療費の適正化を図るため、高齢者の医療の確保に関する法律第18条の特定健康診査等基本指針に基づき第19条にその作成を規定され、メタボリックシンドロームに着目した生活習慣病のための特定健康診査・特定保健指導を効果的・効率的に実施する体制等について定めるものである。

(2) 特定健康診査・特定保健指導の定義と対象

国民健康保険等の加入者で、40歳から74歳の加入者を対象としたメタボリックシンドロームに着目した検査項目での健康診査を「特定健康診査」といい、加入者のうち特定健康診査の実施年度に40歳から74歳となる人が対象となる。また、特定健康診査の結果により、健康の保持に努める必要がある者に対し実施する、情報提供・動機付け支援・積極的支援を「特定保健指導」という。

(3) 計画の期間

本計画の計画期間は、第2期データヘルス計画期間と同様に、平成30年度から平成35年度までの6年間とする。

平成20	平成24	平成25	平成29	平成30	平成35
特定健康診査等実施 計画(第一期)								
			特定健康診査等実施 計画(第二期)					
						特定健康診査等実施 計画(第三期)		

2. これまでの取り組みと評価

(1) 基本的な評価の考え方

「特定健康診査・特定保健指導」の成果が数値データとして現れるのは数年後になることが想定されることから、健診結果や生活習慣の改善状況などの短期間で評価できる事項について、「個人」を対象とした評価、「集団」としての評価、「事業」としての評価という3つの観点において評価していく。

(2) 具体的な評価内容

アウトプット指標(事業の実施量等)及びアウトカム指標(結果等)の評価にあたっては、以下の定義に従い、1～5の5段階に区分する。

- 5：目標を達成している
- 4：目標には届かなかったが改善している
- 3：横ばい
- 2：目標にも届かず悪化している
- 1：評価できない・実施しなかった

なお、アウトプット指標は目標達成しているにも関わらず、アウトカム指標に改善が見られない場合は、事業量の不足や事業とアウトカム指標との関連が弱いこと等が考えられるため、事業量の増加や事業内容の見直しを検討する。

(3) 第2期計画期間内の評価

アウトプット	当初 (平成24年度)	目標 (平成29年度)	直近 (平成28年度)	評価
特定健康診査 受診率	38.2%	60.0%	36.7%	3
特定保健指導 実施率	48.7%	60.0%	39.0%	3

特定健康診査受診率は計画期間当初から減少傾向であったが、平成27年度の35.6%を境に上昇傾向に転じた。これは、平成28年度より特定健康診査未受診者対策として国保ヘルスアップ事業を活用し、電話勧奨や効果的な通知の送付などを行った成果と思われる。しかしながら目標受診率には届かなかった。

特定保健指導実施率も特定健康診査同様、計画期間当初から減少傾向であったが、平成27年度の34.5%を境に上昇傾向に転じた。これは平成28年度から個別相談に切り替えて、より丁寧な保健指導を心がけた結果と思われる。しかしながら、目標には届いておらず、さらなる実施率向上のため訪問や電話勧奨を取り入れるなど、取り組みに工夫が必要である。

アウトカム	当初 (平成 24 年度)	目標 (平成 29 年度)	直近 (平成 28 年度)	評価
メタボリックシンドローム該当者・予備群該当者の減少率 (平成 20 年度比)	14.3%	25%	23.5%	4

メタボリックシンドローム該当者・予備群該当者の減少率は、平成28年度23.5%と目標には届かなかった。特定保健指導の内容を検討し担当職員のスキルアップを図り、進める必要がある。

3. 目標の設定

(1) 特定健康診査及び特定保健指導の目標値

第3期特定健康診査等実施計画の期間において厚生労働省が策定した特定健康診査等基本指針に定められた市町村国保の目標値を、下妻市国民健康保険におけるアウトプット指標の目標値として下表のとおり設定する。

なお、対象者数については、過去3年間における特定健康診査・特定保健指導対象者の伸び率を参考に推計した。受診予定者数については、対象者数に対し受診率の目標値を乗じて算出した。

特定健康診査の目標値

項目	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
受診率	40%	45%	50%	55%	57.5%	60%
対象者数	8,001人	7,752人	7,510人	7,276人	7,049人	6,829人
受診予定者数	3,200人	3,488人	3,755人	4,001人	4,053人	4,097人

特定保健指導の目標値

項目	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
特定保健指導実施率	40%	45%	50%	55%	57.5%	60%
対象者数	440人	426人	413人	400人	388人	376人
受診予定者数	176人	191人	207人	220人	223人	225人

また第2期計画ではメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率を目標としていたが、第2期以降の分析の結果、メタボリックシンドローム該当者等には約50%の服薬者が含まれており、非服薬者を対象とする特定保健指導の効果をメタボリックシンドローム該当者等の減少率で計ることは十分とはいえないとされている。

第3期計画期間においては、国の基本指針が特定保健指導対象者の減少率を目標とすることとされたため、最終年度の平成35年度に平成20年度対比25%減少とし、下妻市国民健康保険におけるアウトカム指標の目標値として設定する。

	第2期計画 (平成29年度目標)		第3期計画 (平成35年度目標)
メタボリックシンドロームの該当者 及び予備群の減少率	25%減少	→	特定保健指導対象 者の減少率
			25%減少

4. 特定健康診査及び特定保健指導の実施方法

(1) 特定健康診査

① 対象者

40歳から74歳までの下妻市国民健康保険の被保険者。

※年度途中に加入・脱退など異動がない方。

② 周知、案内方法

個人ごとに受診券の送付と各戸配布で健診等の日程表を配布。

未受診者には勧奨ハガキを送付、また委託業者による電話勧奨を行う。

特定健康診査の機会を逃さぬよう広報やホームページ等の多様な方法による受診勧奨を進める。

③ 実施期間・場所

茨城県総合健診協会への委託により、保健センター及び千代川公民館で集団健診を実施する。また、市民の利便性に配慮し、身近な医療機関での個別健診が可能となるように、茨城県医師会に委託する。さらに茨城県医師会に委託した医療機関に通院して、特定健康診査実施項目と同等の検査をしている場合は、被保険者の同意のもと、医療機関から下妻市国民健康保険へ検査情報を提供することも出来るなど受診しやすい環境を整える。

④ 実施項目

これまでの検査項目による健診を継続していくこととする。

【検査項目】

区分	内容	
基本的な健診項目	既往歴の調査 (服薬歴及び喫煙習慣の状況に係る調査を含む)	
	自覚症状及び他覚症状の検査	
	身体計測	身長、体重、腹囲、BMI
	血圧	収縮期血圧、拡張期血圧
	血中脂質検査	中性脂肪、HDL コレステロール、 LDL コレステロール (または non-HDL コレステロール)
	肝機能検査	AST、ALT、 γ -GTP
	血糖検査 (いずれかの項目で実施)	空腹時血糖、または随時血糖 ヘモグロビン A1c
	尿検査	尿糖、尿蛋白
詳細な健診項目	貧血検査	赤血球数、血色素量、ヘマトクリット値
	心電図検査	
	眼底検査	
追加健診項目	血清クレアチニン検査	
	詳細な健診項目 非該当者	貧血検査
		心電図検査
		眼底検査
血清クレアチニン検査		

⑤実施時期

毎年4月から3月。なお、かかりつけ医からの診療情報提供については、毎年5月から翌年3月までとする。

⑥受診方法

実施期間内で受診券及び被保険者証(保険証)を持参する。

⑦特定健康診査の結果

健診結果については階層化の基準に基づき、ア. 情報提供 イ. 動機付け支援 ウ. 積極的支援に分類し、郵送での個別通知とする。

ただし、イ. ウ. に該当した方は、階層化の区分や特定保健指導の必要性により、文書での呼び出しあるいは電話での結果説明等、個別の方法での結果返却を行う。

健診結果返却の際には、特定健康診査項目の解説を提供しながら、健診結果により必要な情報のフィードバックを行う。

⑧特定健康診査データの保管および管理方法

特定健康診査データは、原則として特定健康診査を受任する財団法人茨城県総合健診協会及び医療機関等、国の定める電子的標準様式により、市及び茨城県国民健康保険団体連合会(以下「国保連」という。)へ提出する。

特定健康診査に関するデータは、原則5年間保存とし、国保連に管理及び保管を委託する。

(2) 特定保健指導

①対象者

特定保健指導の対象者は、特定健康診査の結果、腹囲・血糖等が所定の値を上回る方のうち、糖尿病、高血圧症又は高脂血症の治療に係る薬剤を服用している方を除いた方となる。

次の実施基準を基本とし、腹囲、血圧、脂質、血糖、喫煙歴のリスクの数に応じて、対象者には「動機付け支援」又は「積極的支援」を実施する(65～74歳の対象者の場合はすべて「動機付け支援」)。

なお、特定健康診査受診者全員に情報提供を実施する。

【特定保健指導の対象者（階層化）】

腹囲	追加リスク	④喫煙歴	対象	
	①血糖②脂質③血圧		40～64歳	65～74歳
≥85cm（男性） ≥90cm（女性）	2つ以上該当	/	積極的支援	動機付け支援
	1つ該当	あり なし		
上記以外で BMI ≥25	3つ該当	/	積極的支援	動機付け支援
	2つ該当	あり なし		
	1つ該当	/		

②実施期間・場所

基本市直営で行うが、一部民間事業者へ委託して行う。
場所は市保健センターで実施する。

③実施内容

個別・集団面接により、健診結果をもとに生活習慣を振り返り、メタボリックシンドロームや生活習慣病について自らが健康状態を自覚し、食事や運動等の生活習慣改善のための自主的な取り組みを継続的に行うことができるように個別支援計画を作成し、支援レベルに応じた指導を実施する。なお、第3期計画期間では、特定健康診査受診中に、体重やBMI、血圧等で特定保健指導該当者と判断できたときには、健診受診時に初回面接を同時に実施できるよう進める。

指導の方針としては、健診終了後行動変容のための動機付けを早期に行い、各種健康教室や計測会、健康増進事業への勧奨だけでなく、個別アプローチとして電話や手紙によるきめ細やかな指導に努める。

④実施時期

毎年4月～

⑤その他

特定保健指導対象者で健診結果が受診勧奨対象者には、早期に医療機関受診を促す。また、特定保健指導対象外である非肥満者に対しても同様に行う。

特定保健指導を利用した方々が自身の改善効果を実感できるよう指導内容の質的な向上を図る。

肥満者の多い当市の現状から、特定保健指導対象者に限らず、広く市民の健康増進を目的としたポピュレーションアプローチに今後も力を入れていく。

(3) 年間の実施スケジュール

特定健康診査・特定保健指導のスケジュールは下表のとおりである。

	特定健康診査	特定保健指導
4月	対象者の抽出・受診券の発送 健診の開始	前年度からの保健指導の継続 保健指導の開始
5月		
6月		
7月		
8月	未受診者への受診勧奨	
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

5. 計画の評価と見直し

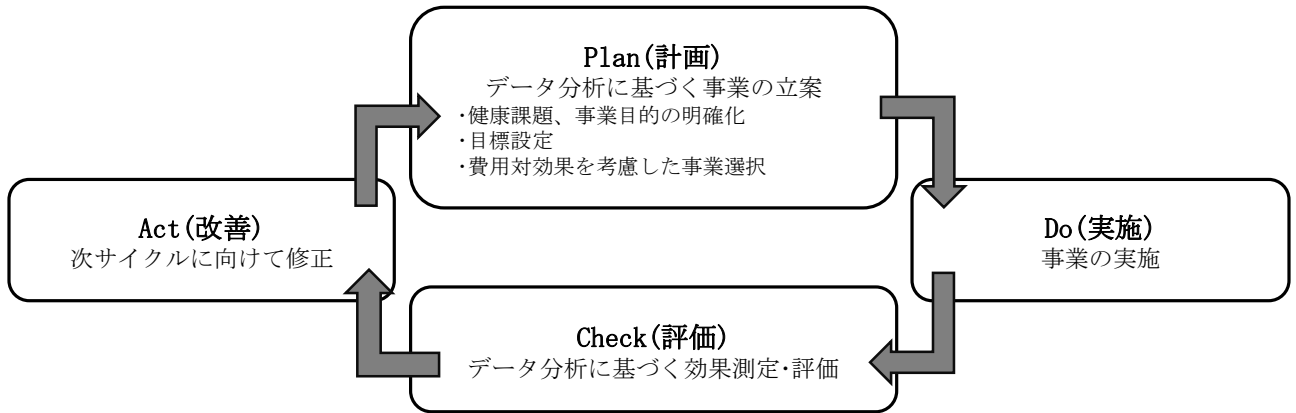
「第2期データヘルス計画」及び「第3期特定健康診査等実施計画」を一体的に策定したことから、統一的な見解を115ページに記載する。

第4章 そ の 他

1. データヘルス計画の評価

(1) 評価

本計画の目的及び目標の達成状況については、毎年度評価を行うこととし、達成状況により必要に応じて次年度の実施計画の見直しを行う。



厚生労働省 保険局「データヘルス計画 作成の手引き」(平成26年12月)より

(2) 評価時期

本計画の評価については、各事業のスケジュールに基づき実施する。

2. 特定健康診査等実施計画の評価

(1) 評価

特定健康診査の受診率、特定保健指導の実施率、特定保健指導対象者の減少率について、客観的に評価を行う。

(2) 評価時期

本計画の評価については、毎年度目標の達成状況を確認・評価し、必要に応じて見直しを行うものとする。

3. 計画の公表・周知

本計画は、広報、ホームページ等で公表するとともに、本実施計画をあらゆる機会を通じて周知・啓発を図る。また、目標の達成状況等の公表に努め、本計画の円滑な実施等について広く意見を求めるものとする。

4. データヘルス計画における事業運営上の留意事項

保健事業の推進に当たっては、保健センター等との連携が重要になる。地域全体の健康課題を底上げするためのポピュレーションアプローチの実施等は保健センターとの連携により事業を実施する。また、生活習慣病の合併症は、要介護状態の原因疾患になることも多いため、65歳以上の前期高齢者に関する事業は、介護部門と連携する。

5. 特定健康診査等実施計画における事業運営上の留意事項

(1) 各種検(健)診等との連携

特定健康診査の実施に当たっては、健康増進法及び介護保険法に基づき実施する検(健)診等についても可能な限り連携して実施するものとする。

(2) 健康づくり事業との連携

特定健康診査・特定保健指導の対象となる年代だけでなく、生活習慣病予防のためには、40歳より若い世代へ働きかけ、生活習慣病のリスクの周知や日々の生活スタイルを見直していくことが重要になる。そのためには、関係部署が実施する保健事業とも連携しながら、生活習慣病予防を推進していく必要がある。

6. 地域包括ケアに係る取り組み

地域包括ケアに係る取組として、高齢化の状況や地理的条件など、地域のおかれた現状に適切に対応するため、医療・介護・保健・福祉・住まいなど暮らし全般を支えるための直面する課題などについて、庁内や地域ケア会議などの議論する場に国保保険者として参加するとともに、KDB・レセプトデータを活用した地域の実態把握・課題分析を被保険者も含めた関係者間で共有し、連携する体制を検討する。

7. 個人情報の保護

個人情報の取り扱いについては、「個人情報の保護に関する法律」「国民健康保険組合における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」「個人情報保護条例」「情報セキュリティポリシー」に基づき管理する。また、業務を外部に委託する際も同様に取扱われるよう委託契約書に定めるものとする。

參考資料

地区分析

1. 大分類による疾病別医療費地区別統計

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトより、疾病項目毎に医療費統計を地区別に示す。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【下妻】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	39,994,445	4.7%	10	3,378	9	942	7	42,457	13
II. 新生物<腫瘍>	91,862,864	10.8%	2	2,445	13	637	10	144,212	4
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	4,435,950	0.5%	17	902	17	251	15	17,673	18
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	74,799,723	8.8%	5	11,443	2	1,181	3	63,336	10
V. 精神及び行動の障害	47,985,505	5.6%	8	3,232	10	279	14	171,991	3
VI. 神経系の疾患	34,652,776	4.1%	11	6,210	6	574	11	60,371	11
VII. 眼及び付属器の疾患	31,218,837	3.7%	12	3,720	8	923	8	33,823	15
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	4,392,975	0.5%	18	1,035	16	251	15	17,502	19
IX. 循環器系の疾患	142,943,596	16.8%	1	13,164	1	1,144	4	124,951	5
X. 呼吸器系の疾患	69,253,846	8.1%	6	9,426	4	1,692	1	40,930	14
X I. 消化器系の疾患 ※	78,296,610	9.2%	3	11,108	3	1,408	2	55,608	12
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	20,749,836	2.4%	13	4,416	7	964	6	21,525	17
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	75,556,507	8.9%	4	8,173	5	1,066	5	70,879	9
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	48,612,754	5.7%	7	2,761	12	554	13	87,749	7
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	3,888,442	0.5%	19	139	18	42	18	92,582	6
X VI. 周産期に発生した病態 ※	11,696,883	1.4%	15	35	21	11	21	1,063,353	1
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	6,888,989	0.8%	16	98	20	36	19	191,361	2
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	16,091,747	1.9%	14	2,942	11	725	9	22,196	16
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	47,698,987	5.6%	9	1,956	14	564	12	84,573	8
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	979,988	0.1%	20	1,144	15	168	17	5,833	21
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	299,670	0.0%	21	117	19	30	20	9,989	20
合計	852,300,930			38,642		2,893		294,608	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【大宝】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	9,955,168	2.5%	13	1,500	11	443	7	22,472	17
II. 新生物<腫瘍>	57,947,164	14.8%	2	1,388	12	316	10	183,377	3
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,440,709	0.6%	17	567	15	142	15	17,188	20
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	38,313,886	9.8%	3	6,456	2	599	4	63,963	6
V. 精神及び行動の障害	35,599,537	9.1%	4	1,751	9	148	14	240,537	2
VI. 神経系の疾患	15,860,745	4.0%	8	2,759	6	274	11	57,886	8
VII. 眼及び付属器の疾患	15,134,084	3.9%	9	1,770	8	456	6	33,189	14
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	2,755,909	0.7%	16	524	17	138	16	19,970	18
IX. 循環器系の疾患	76,887,853	19.6%	1	7,526	1	604	3	127,298	4
X. 呼吸器系の疾患	25,116,415	6.4%	7	4,095	4	738	1	34,033	13
X I. 消化器系の疾患 ※	32,800,974	8.4%	5	5,717	3	654	2	50,154	10
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	7,529,775	1.9%	14	2,088	7	427	8	17,634	19
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	27,238,743	7.0%	6	4,003	5	500	5	54,477	9
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	14,525,710	3.7%	10	1,213	13	237	13	61,290	7
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	1,606,159	0.4%	19	39	20	14	20	114,726	5
X VI. 周産期に発生した病態 ※	3,261,496	0.8%	15	7	21	5	21	652,299	1
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	800,985	0.2%	20	85	19	20	18	40,049	12
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10,476,210	2.7%	12	1,577	10	353	9	29,678	15
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	10,969,660	2.8%	11	814	14	267	12	41,085	11
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	2,328,570	0.6%	18	533	16	87	17	26,765	16
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	131,978	0.0%	21	92	18	18	19	7,332	21
合計	391,681,730			19,455		1,329		294,719	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【騰波ノ江】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	4,049,025	1.8%	13	853	11	243	7	16,663	18
II. 新生物<腫瘍>	33,589,661	14.7%	2	653	13	171	10	196,431	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1,188,797	0.5%	17	311	17	77	15	15,439	19
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	25,384,504	11.1%	4	4,052	2	331	3	76,690	6
V. 精神及び行動の障害	13,155,856	5.7%	7	951	10	77	15	170,855	3
VI. 神経系の疾患	11,922,508	5.2%	8	1,731	6	160	11	74,516	8
VII. 眼及び付属器の疾患	7,506,047	3.3%	10	1,051	9	229	8	32,777	12
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	1,404,196	0.6%	15	381	16	79	14	17,775	17
IX. 循環器系の疾患	35,207,341	15.4%	1	4,813	1	327	4	107,668	4
X. 呼吸器系の疾患	17,768,009	7.8%	6	2,252	5	429	1	41,417	11
X I. 消化器系の疾患 ※	28,395,322	12.4%	3	3,508	3	376	2	75,519	7
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	6,376,209	2.8%	11	1,123	8	266	6	23,971	15
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	20,702,928	9.0%	5	2,661	4	304	5	68,102	9
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	11,636,810	5.1%	9	681	12	136	13	85,565	5
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	1,055,686	0.5%	18	18	19	3	20	351,895	1
X VI. 周産期に発生した病態 ※	164,656	0.1%	19	7	21	3	20	54,885	10
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	16,204	0.0%	21	16	20	9	19	1,800	21
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	4,473,622	2.0%	12	1,127	7	209	9	21,405	16
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	3,604,431	1.6%	14	428	14	150	12	24,030	14
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1,209,769	0.5%	16	395	15	49	17	24,689	13
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	73,069	0.0%	20	32	18	11	18	6,643	20
合計	228,884,650			11,662		716		319,671	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【上妻】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	17,724,520	3.3%	12	2,106	12	590	8	30,042	15
II. 新生物<腫瘍>	69,494,487	12.8%	2	1,848	13	432	10	160,867	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,763,206	0.5%	17	717	15	173	16	15,972	18
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	58,168,955	10.7%	3	8,811	2	775	4	75,057	8
V. 精神及び行動の障害	32,758,051	6.0%	8	2,347	10	211	14	155,251	3
VI. 神経系の疾患	31,525,007	5.8%	9	4,283	6	410	11	76,890	7
VII. 眼及び付属器の疾患	21,479,266	3.9%	11	2,729	7	652	6	32,944	14
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	3,783,451	0.7%	16	695	16	190	15	19,913	17
IX. 循環器系の疾患	99,143,975	18.2%	1	10,502	1	821	3	120,760	4
X. 呼吸器系の疾患	38,131,881	7.0%	6	5,784	4	1,084	1	35,177	13
X I. 消化器系の疾患 ※	39,937,165	7.3%	5	7,606	3	915	2	43,647	12
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	14,012,688	2.6%	13	2,512	8	614	7	22,822	16
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	40,553,734	7.4%	4	5,655	5	712	5	56,957	10
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	37,232,313	6.8%	7	2,145	11	336	13	110,810	5
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	1,203,284	0.2%	19	38	20	20	19	60,164	9
X VI. 周産期に発生した病態 ※	4,250,344	0.8%	15	24	21	9	21	472,260	1
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	2,073,522	0.4%	18	63	18	22	18	94,251	6
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	7,351,929	1.3%	14	2,413	9	501	9	14,675	19
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	22,544,418	4.1%	10	1,270	14	409	12	55,121	11
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	807,478	0.1%	20	676	17	107	17	7,547	20
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	70,896	0.0%	21	54	19	17	20	4,170	21
合計	545,010,570			26,666		1,925		283,122	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【総上】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	9,358,731	3.2%	12	1,060	9	311	6	30,092	16
II. 新生物<腫瘍>	43,233,803	14.6%	2	729	13	190	11	227,546	1
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,034,410	0.7%	17	240	17	80	15	25,430	17
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	20,003,038	6.8%	6	3,328	2	353	4	56,666	10
V. 精神及び行動の障害	11,082,384	3.8%	10	791	12	70	16	158,320	3
VI. 神経系の疾患	33,646,030	11.4%	3	1,687	6	177	13	190,091	2
VII. 眼及び付属器の疾患	11,507,223	3.9%	9	1,106	8	289	7	39,817	14
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	1,580,177	0.5%	18	348	15	97	14	16,290	19
IX. 循環器系の疾患	50,335,305	17.1%	1	4,141	1	391	3	128,735	5
X. 呼吸器系の疾患	30,291,136	10.3%	4	2,830	3	532	1	56,938	9
X I. 消化器系の疾患 ※	16,079,087	5.4%	8	2,724	4	403	2	39,898	13
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	4,259,535	1.4%	14	1,245	7	288	8	14,790	20
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	18,467,275	6.3%	7	2,212	5	335	5	55,126	11
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	20,871,140	7.1%	5	913	11	178	12	117,254	6
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	372,858	0.1%	20	21	20	12	19	31,072	15
X VI. 周産期に発生した病態 ※	389,457	0.1%	19	9	21	6	21	64,910	8
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	2,928,781	1.0%	16	40	19	19	18	154,146	4
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	4,954,845	1.7%	13	978	10	237	9	20,907	18
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	10,357,129	3.5%	11	599	14	198	10	52,309	12
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	3,310,665	1.1%	15	260	16	44	17	75,242	7
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	72,891	0.0%	21	62	18	11	20	6,626	21
合計	295,135,900			11,383		935		315,653	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【豊加美】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	10,598,976	4.2%	10	844	10	249	7	42,566	10
II. 新生物<腫瘍>	50,686,581	20.3%	1	779	12	180	10	281,592	1
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,386,421	1.0%	16	343	16	74	16	32,249	14
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	23,074,124	9.3%	3	3,524	2	338	4	68,267	8
V. 精神及び行動の障害	14,736,401	5.9%	7	799	11	78	15	188,928	2
VI. 神経系の疾患	8,984,680	3.6%	11	1,777	6	174	11	51,636	9
VII. 眼及び付属器の疾患	8,041,174	3.2%	12	1,001	8	243	8	33,091	12
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	2,470,365	1.0%	15	496	15	92	14	26,852	15
IX. 循環器系の疾患	41,980,358	16.8%	2	4,328	1	344	3	122,036	3
X. 呼吸器系の疾患	15,132,647	6.1%	6	2,471	4	436	1	34,708	11
X I. 消化器系の疾患 ※	11,698,579	4.7%	8	2,812	3	361	2	32,406	13
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	5,644,674	2.3%	13	1,156	7	271	6	20,829	16
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	20,878,759	8.4%	4	2,430	5	303	5	68,907	7
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	18,063,826	7.2%	5	766	13	158	12	114,328	4
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	936,310	0.4%	17	31	18	9	19	104,034	5
X VI. 周産期に発生した病態 ※	10,054	0.0%	21	1	21	1	21	10,054	18
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	57,843	0.0%	19	28	19	11	18	5,258	19
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,046,308	1.2%	14	943	9	209	9	14,576	17
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	10,881,231	4.4%	9	505	14	155	13	70,201	6
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	122,866	0.0%	18	294	17	48	17	2,560	21
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	14,173	0.0%	20	8	20	5	20	2,835	20
合計	249,446,350			11,064		776		321,451	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【高道祖】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	8,622,246	3.0%	12	1,303	10	354	6	24,357	14
II. 新生物<腫瘍>	26,329,995	9.2%	5	928	13	219	11	120,228	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	733,889	0.3%	17	431	16	107	15	6,859	19
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	27,396,083	9.6%	3	4,301	2	435	3	62,980	8
V. 精神及び行動の障害	27,738,544	9.7%	2	1,292	11	110	14	252,169	1
VI. 神経系の疾患	18,890,468	6.6%	8	2,302	6	220	10	85,866	6
VII. 眼及び付属器の疾患	12,253,918	4.3%	11	1,580	7	346	7	35,416	12
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	1,931,560	0.7%	16	433	15	107	15	18,052	15
IX. 循環器系の疾患	41,776,490	14.7%	1	4,461	1	401	4	104,181	4
X. 呼吸器系の疾患	15,755,540	5.5%	10	2,979	5	569	1	27,690	13
X I. 消化器系の疾患 ※	24,243,081	8.5%	6	4,175	3	493	2	49,175	10
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	4,734,689	1.7%	13	1,418	8	311	8	15,224	16
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	27,381,913	9.6%	4	3,191	4	376	5	72,824	7
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	21,777,024	7.6%	7	1,028	12	204	12	106,750	3
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	493,680	0.2%	18	11	20	8	20	61,710	9
X VI. 周産期に発生した病態 ※	972	0.0%	21	2	21	1	21	972	21
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	100,173	0.0%	20	58	18	18	18	5,565	20
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	4,465,705	1.6%	14	1,307	9	311	8	14,359	17
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	17,556,267	6.2%	9	612	14	193	13	90,965	5
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	2,689,273	0.9%	15	403	17	59	17	45,581	11
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	134,840	0.0%	19	54	19	17	19	7,932	18
合計	285,006,350			13,385		968		294,428	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【宗道】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	17,581,901	4.3%	10	1,530	12	420	7	41,862	11
II. 新生物<腫瘍>	43,099,792	10.4%	3	1,317	13	325	10	132,615	3
III. 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	3,045,456	0.7%	15	512	16	162	14	18,799	16
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	38,190,558	9.2%	5	6,022	2	590	4	64,730	7
V. 精神及び行動の障害	45,294,049	11.0%	2	1,700	9	137	15	330,613	1
VI. 神経系の疾患	24,319,014	5.9%	8	2,826	6	274	13	88,756	6
VII. 眼及び付属器の疾患	11,986,232	2.9%	12	1,642	10	421	6	28,471	13
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	1,838,421	0.4%	17	443	17	128	16	14,363	18
IX. 循環器系の疾患	62,784,962	15.2%	1	7,494	1	614	3	102,256	5
X. 呼吸器系の疾患	22,915,732	5.5%	9	4,236	4	764	1	29,994	12
X I. 消化器系の疾患 ※	35,589,428	8.6%	6	5,704	3	669	2	53,198	9
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	11,590,782	2.8%	13	2,062	7	418	8	27,729	14
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	27,916,562	6.8%	7	4,186	5	533	5	52,376	10
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	40,848,232	9.9%	4	1,568	11	300	11	136,161	2
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	201,650	0.0%	19	21	20	9	20	22,406	15
X VI. 周産期に発生した病態 ※	109,508	0.0%	20	9	21	6	21	18,251	17
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	2,748,463	0.7%	16	94	18	21	18	130,879	4
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	5,707,301	1.4%	14	1,743	8	415	9	13,753	20
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	16,204,639	3.9%	11	981	14	289	12	56,071	8
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1,237,261	0.3%	18	534	15	87	17	14,221	19
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	69,107	0.0%	21	28	19	14	19	4,936	21
合計	413,279,050			19,005		1,351		305,906	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【大形】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	12,080,141	3.6%	11	1,171	11	312	8	38,718	12
II. 新生物<腫瘍>	55,887,039	16.8%	1	957	13	224	12	249,496	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,251,789	0.7%	16	392	16	89	15	25,301	15
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	29,105,168	8.7%	4	5,308	2	484	2	60,135	9
V. 精神及び行動の障害	18,963,235	5.7%	9	1,028	12	87	16	217,968	3
VI. 神経系の疾患	13,027,208	3.9%	10	2,331	6	230	11	56,640	10
VII. 眼及び付属器の疾患	10,964,483	3.3%	12	1,360	8	340	7	32,248	14
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	1,778,317	0.5%	17	371	17	99	14	17,963	17
IX. 循環器系の疾患	47,388,399	14.2%	2	6,174	1	474	4	99,976	7
X. 呼吸器系の疾患	20,496,902	6.1%	8	3,633	5	633	1	32,381	13
X I. 消化器系の疾患 ※	25,078,722	7.5%	6	4,319	3	482	3	52,031	11
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	6,862,114	2.1%	13	1,813	7	373	6	18,397	16
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	26,243,339	7.9%	5	3,770	4	415	5	63,237	8
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	21,402,830	6.4%	7	1,185	10	204	13	104,916	6
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	802,713	0.2%	18	12	20	6	20	133,786	4
X VI. 周産期に発生した病態 ※	6,434,727	1.9%	14	12	20	5	21	1,286,945	1
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	132,313	0.0%	20	40	18	13	18	10,178	19
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,921,027	1.2%	15	1,273	9	285	9	13,758	18
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	30,292,748	9.1%	3	836	14	252	10	120,209	5
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	212,407	0.1%	19	450	15	60	17	3,540	20
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	31,429	0.0%	21	37	19	9	19	3,492	21
合計	333,357,050			15,576		1,072		310,967	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【その他】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	49,620	0.5%	14	14	13	7	7	7,089	14
II. 新生物<腫瘍>	72,238	0.7%	12	11	14	6	9	12,040	13
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	0.0%		0		0		0	
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	368,405	3.4%	7	82	6	8	5	46,051	7
V. 精神及び行動の障害	946,719	8.7%	3	171	3	10	4	94,672	4
VI. 神経系の疾患	1,792,214	16.4%	2	224	2	12	3	149,351	2
VII. 眼及び付属器の疾患	444,572	4.1%	6	24	11	4	13	111,143	3
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	4,589	0.0%	16	3	17	2	15	2,295	16
IX. 循環器系の疾患	5,033,183	46.1%	1	101	4	6	9	838,864	1
X. 呼吸器系の疾患	576,482	5.3%	5	98	5	13	2	44,345	8
X I. 消化器系の疾患 ※	584,936	5.4%	4	233	1	16	1	36,559	9
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	116,562	1.1%	11	45	8	6	9	19,427	10
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	366,020	3.4%	8	38	9	7	7	52,289	6
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	66,641	0.6%	13	30	10	4	13	16,660	12
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	0	0.0%		0		0		0	
X VI. 周産期に発生した病態 ※	0	0.0%		0		0		0	
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	1,406	0.0%	17	4	16	1	17	1,406	17
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	147,183	1.3%	10	48	7	8	5	18,398	11
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	339,321	3.1%	9	20	12	6	9	56,554	5
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5,419	0.0%	15	10	15	2	15	2,710	15
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	0	0.0%		0		0		0	
合計	10,915,510			459		20		545,776	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

2. 中分類による疾病別医療費地区別統計

疾病分類表における中分類単位で地区毎に集計し、医療費が高額な上位10疾病を以下に示す。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【下妻】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	51,844,130	6.1%	228
2	1113	その他の消化器系の疾患	43,980,460	5.2%	831
3	0901	高血圧性疾患	40,399,738	4.7%	846
4	0402	糖尿病	39,942,887	4.7%	721
5	1402	腎不全	36,106,434	4.2%	37
6	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	27,400,778	3.2%	81
7	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	26,048,753	3.1%	452
8	0903	その他の心疾患	24,245,693	2.8%	331
9	0403	脂質異常症	24,160,663	2.8%	602
10	0902	虚血性心疾患	22,499,211	2.6%	266

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

【大宝】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0901	高血圧性疾患	24,318,225	6.2%	447
2	0402	糖尿病	21,161,583	5.4%	379
3	0903	その他の心疾患	20,729,445	5.3%	172
4	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	17,404,064	4.4%	43
5	0902	虚血性心疾患	15,332,433	3.9%	132
6	1113	その他の消化器系の疾患	15,247,102	3.9%	401
7	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	12,721,256	3.2%	120
8	0403	脂質異常症	12,533,622	3.2%	352
9	0202	結腸の悪性新生物<腫瘍>	11,264,837	2.9%	54
10	0606	その他の神経系の疾患	10,711,830	2.7%	243

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【騰波ノ江】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	20,779,800	9.1%	72
2	1113	その他の消化器系の疾患	17,202,859	7.5%	236
3	0901	高血圧性疾患	15,511,620	6.8%	258
4	0402	糖尿病	13,831,905	6.0%	188
5	0903	その他の心疾患	10,029,370	4.4%	96
6	1402	腎不全	9,017,707	3.9%	10
7	0403	脂質異常症	7,761,849	3.4%	186
8	0606	その他の神経系の疾患	7,211,542	3.2%	140
9	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	6,808,704	3.0%	17
10	1302	関節症	5,656,811	2.5%	58

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

【上妻】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0901	高血圧性疾患	34,067,246	6.3%	618
2	0402	糖尿病	33,227,434	6.1%	499
3	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	30,181,560	5.5%	152
4	1402	腎不全	26,734,665	4.9%	35
5	1113	その他の消化器系の疾患	23,475,840	4.3%	553
6	0903	その他の心疾患	22,374,886	4.1%	224
7	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	21,916,355	4.0%	53
8	0902	虚血性心疾患	17,165,702	3.1%	191
9	1901	骨折	14,552,029	2.7%	87
10	0403	脂質異常症	14,318,751	2.6%	386

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【総上】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0606	その他の神経系の疾患	27,276,835	9.2%	160
2	0903	その他の心疾患	20,779,543	7.0%	95
3	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	19,051,418	6.5%	62
4	1011	その他の呼吸器系の疾患	15,200,007	5.2%	176
5	0901	高血圧性疾患	13,898,083	4.7%	289
6	1402	腎不全	13,255,873	4.5%	14
7	0402	糖尿病	11,142,570	3.8%	215
8	1113	その他の消化器系の疾患	8,283,278	2.8%	220
9	0206	乳房の悪性新生物<腫瘍>	8,083,658	2.7%	12
10	0704	その他の眼及び付属器の疾患	7,418,914	2.5%	189

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

【豊加美】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	30,796,605	12.3%	65
2	0901	高血圧性疾患	15,464,736	6.2%	269
3	1402	腎不全	15,109,081	6.1%	20
4	0402	糖尿病	12,261,847	4.9%	218
5	0903	その他の心疾患	10,414,499	4.2%	108
6	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	9,183,622	3.7%	24
7	1302	関節症	7,768,078	3.1%	85
8	1113	その他の消化器系の疾患	6,671,109	2.7%	224
9	0606	その他の神経系の疾患	5,752,643	2.3%	152
10	0403	脂質異常症	5,388,980	2.2%	159

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【高道祖】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	1402	腎不全	17,731,513	6.2%	15
2	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	17,098,420	6.0%	26
3	0402	糖尿病	16,866,158	5.9%	260
4	0901	高血圧性疾患	14,118,358	5.0%	282
5	1303	脊椎障害(脊椎症を含む)	11,499,924	4.0%	130
6	0903	その他の心疾患	11,081,100	3.9%	118
7	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	11,068,519	3.9%	73
8	0606	その他の神経系の疾患	10,830,735	3.8%	209
9	1113	その他の消化器系の疾患	10,643,527	3.7%	279
10	0902	虚血性心疾患	8,312,113	2.9%	87

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

【宗道】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	1402	腎不全	33,213,977	8.0%	31
2	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	29,625,799	7.2%	43
3	0901	高血圧性疾患	27,098,888	6.6%	500
4	1113	その他の消化器系の疾患	24,319,308	5.9%	388
5	0402	糖尿病	18,003,623	4.4%	383
6	0606	その他の神経系の疾患	16,533,113	4.0%	246
7	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	14,414,154	3.5%	126
8	0105	ウイルス性肝炎	12,124,755	2.9%	50
9	0902	虚血性心疾患	10,810,448	2.6%	134
10	0403	脂質異常症	10,238,286	2.5%	288

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【大形】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	23,012,863	6.9%	84
2	0901	高血圧性疾患	20,115,566	6.0%	367
3	0402	糖尿病	17,043,449	5.1%	292
4	1402	腎不全	16,419,209	4.9%	15
5	1113	その他の消化器系の疾患	14,739,630	4.4%	295
6	1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	12,299,974	3.7%	6
7	1901	骨折	12,032,106	3.6%	49
8	0201	胃の悪性新生物<腫瘍>	9,970,081	3.0%	38
9	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	9,382,187	2.8%	28
10	0903	その他の心疾患	8,947,445	2.7%	125

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

【その他】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数 (人)
1	0906	脳梗塞	4,713,523	43.2%	2
2	0601	パーキンソン病	1,251,203	11.5%	3
3	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	469,979	4.3%	5
4	0603	てんかん	403,297	3.7%	5
5	0702	白内障	378,822	3.5%	1
6	1113	その他の消化器系の疾患	322,281	3.0%	12
7	0402	糖尿病	314,430	2.9%	6
8	1901	骨折	265,398	2.4%	2
9	1010	喘息	233,175	2.1%	3
10	0507	その他の精神及び行動の障害	217,874	2.0%	3

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

疾病分類表における中分類単位で地区毎に集計し、患者数が多い上位10疾病を以下に示す。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【下妻】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	40,399,738	846	29.2%
2	1113	その他の消化器系の疾患	43,980,460	831	28.7%
3	1006	アレルギー性鼻炎	8,818,785	749	25.9%
4	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	16,091,747	725	25.1%
5	0402	糖尿病	39,942,887	721	24.9%
6	1003	その他の急性上気道感染症	7,228,401	704	24.3%
7	1202	皮膚炎及び湿疹	8,851,885	697	24.1%
8	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	5,617,993	685	23.7%
9	1105	胃炎及び十二指腸炎	8,189,037	657	22.7%
10	0703	屈折及び調節の障害	2,240,200	626	21.6%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

【大宝】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	24,318,225	447	33.6%
2	1113	その他の消化器系の疾患	15,247,102	401	30.2%
3	0402	糖尿病	21,161,583	379	28.5%
4	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10,476,210	353	26.6%
5	0403	脂質異常症	12,533,622	352	26.5%
6	1105	胃炎及び十二指腸炎	4,214,338	333	25.1%
7	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	2,398,837	324	24.4%
8	1202	皮膚炎及び湿疹	4,136,142	321	24.2%
9	1006	アレルギー性鼻炎	3,957,993	314	23.6%
10	1003	その他の急性上気道感染症	2,693,658	306	23.0%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【騰波ノ江】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	15,511,620	258	36.0%
2	1113	その他の消化器系の疾患	17,202,859	236	33.0%
3	1003	その他の急性上気道感染症	1,740,636	213	29.7%
4	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	4,473,622	209	29.2%
5	1105	胃炎及び十二指腸炎	2,780,015	199	27.8%
6	1202	皮膚炎及び湿疹	2,209,650	198	27.7%
7	1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	992,770	191	26.7%
8	0402	糖尿病	13,831,905	188	26.3%
9	0403	脂質異常症	7,761,849	186	26.0%
10	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	1,499,557	177	24.7%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

【上妻】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	34,067,246	618	32.1%
2	1113	その他の消化器系の疾患	23,475,840	553	28.7%
3	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	7,351,929	501	26.0%
4	0402	糖尿病	33,227,434	499	25.9%
5	1006	アレルギー性鼻炎	6,173,312	470	24.4%
6	0703	屈折及び調節の障害	1,895,524	468	24.3%
7	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	3,563,331	445	23.1%
8	1202	皮膚炎及び湿疹	4,349,249	441	22.9%
9	1003	その他の急性上気道感染症	3,483,842	441	22.9%
10	0704	その他の眼及び付属器の疾患	10,353,913	421	21.9%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【総上】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	13,898,083	289	30.9%
2	1006	アレルギー性鼻炎	3,370,044	238	25.5%
3	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	4,954,845	237	25.3%
4	1113	その他の消化器系の疾患	8,283,278	220	23.5%
5	0402	糖尿病	11,142,570	215	23.0%
6	1003	その他の急性上気道感染症	1,911,424	209	22.4%
7	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	1,454,913	207	22.1%
8	1202	皮膚炎及び湿疹	2,079,562	193	20.6%
9	1105	胃炎及び十二指腸炎	2,072,837	193	20.6%
10	0703	屈折及び調節の障害	798,693	192	20.5%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

【豊加美】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	15,464,736	269	34.7%
2	1113	その他の消化器系の疾患	6,671,109	224	28.9%
3	0402	糖尿病	12,261,847	218	28.1%
4	1003	その他の急性上気道感染症	1,882,050	216	27.8%
5	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,046,308	209	26.9%
6	1006	アレルギー性鼻炎	2,383,109	188	24.2%
7	1202	皮膚炎及び湿疹	2,788,200	186	24.0%
8	1105	胃炎及び十二指腸炎	1,814,568	163	21.0%
9	0703	屈折及び調節の障害	508,553	161	20.7%
10	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	1,191,221	160	20.6%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【高道祖】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	4,465,705	311	32.1%
2	1003	その他の急性上気道感染症	1,670,940	289	29.9%
3	0901	高血圧性疾患	14,118,358	282	29.1%
4	1113	その他の消化器系の疾患	10,643,527	279	28.8%
5	1105	胃炎及び十二指腸炎	3,607,682	275	28.4%
6	0402	糖尿病	16,866,158	260	26.9%
7	1006	アレルギー性鼻炎	3,891,605	241	24.9%
8	0703	屈折及び調節の障害	866,856	237	24.5%
9	1202	皮膚炎及び湿疹	2,570,178	229	23.7%
10	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	1,759,358	229	23.7%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

【宗道】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	27,098,888	500	37.0%
2	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	5,707,301	415	30.7%
3	1003	その他の急性上気道感染症	3,360,201	406	30.1%
4	1113	その他の消化器系の疾患	24,319,308	388	28.7%
5	0402	糖尿病	18,003,623	383	28.3%
6	1006	アレルギー性鼻炎	4,476,884	333	24.6%
7	1105	胃炎及び十二指腸炎	3,930,215	323	23.9%
8	1202	皮膚炎及び湿疹	6,341,503	293	21.7%
9	0403	脂質異常症	10,238,286	288	21.3%
10	0703	屈折及び調節の障害	903,144	283	20.9%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

下妻	大宝	騰波ノ江	上妻	総上
豊加美	高道祖	宗道	大形	その他

【大形】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	1003	その他の急性上気道感染症	3,255,945	398	37.1%
2	0901	高血圧性疾患	20,115,566	367	34.2%
3	1113	その他の消化器系の疾患	14,739,630	295	27.5%
4	0402	糖尿病	17,043,449	292	27.2%
5	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,921,027	285	26.6%
6	1202	皮膚炎及び湿疹	2,876,265	265	24.7%
7	1006	アレルギー性鼻炎	3,736,974	258	24.1%
8	1105	胃炎及び十二指腸炎	3,231,151	257	24.0%
9	0403	脂質異常症	8,736,483	236	22.0%
10	1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	1,053,665	212	19.8%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

【その他】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	1113	その他の消化器系の疾患	322,281	12	60.0%
2	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	147,183	8	40.0%
3	1003	その他の急性上気道感染症	38,608	7	35.0%
4	0402	糖尿病	314,430	6	30.0%
5	1306	腰痛症及び坐骨神経痛	130,437	6	30.0%
6	0606	その他の神経系の疾患	128,003	6	30.0%
7	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	21,132	6	30.0%
8	0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	469,979	5	25.0%
9	0603	てんかん	403,297	5	25.0%
10	1202	皮膚炎及び湿疹	106,111	5	25.0%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

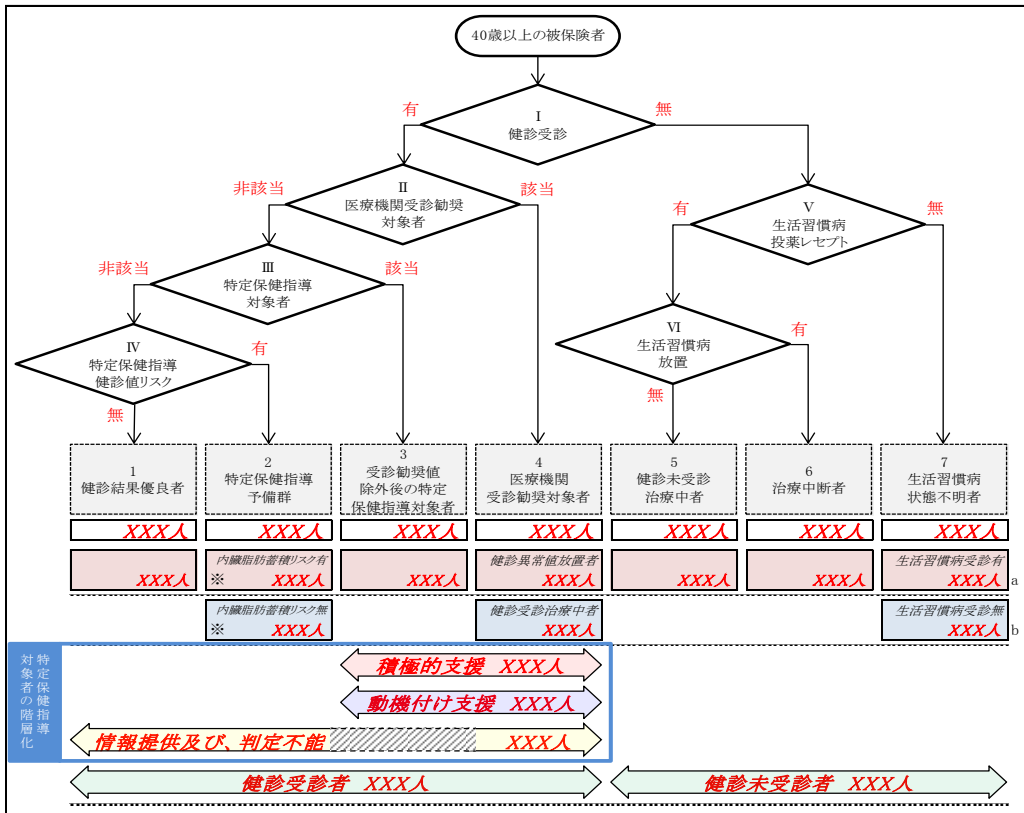
資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

1. 「指導対象者群分析」のグループ分けの見方

特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析



【フロー説明】

- I 健診受診 ……健診受診の有無を判定。
- II 医療機関受診勧奨対象者 ……健診値(血糖、血圧、脂質)のいずれかが、厚生労働省が定めた受診勧奨判定値を超えて受診勧奨対象者に該当するか判定。
- III 特定保健指導対象者 ……厚生労働省が定めた「標準的な健診・保健指導プログラム【改訂版】」に沿って、特定保健指導対象者に該当するか判定。
- IV 特定保健指導健診値リスク ……厚生労働省が定めた保健指導判定値により、健診値(血糖、血圧、脂質)のリスクの有無を判定。判定に喫煙は含めない。
- V 生活習慣病投薬レセプト ……生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)に関する、投薬の有無を判定。
- VI 生活習慣病放置 ……生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)を治療している患者で、一定期間の受診状況により生活習慣病放置の有無を判定。

【グループ別説明】

- 健診受診あり
- 1. 健診結果優良者 ……保健指導判定値(血糖、血圧、脂質)に該当しない者。
 - 2. 特定保健指導予備群 ……保健指導判定値(血糖、血圧、脂質)に該当しているが、その他の条件(服薬有り等)により保健指導対象者でない者。
 - 内臓脂肪蓄積リスク有 ……「2. 特定保健指導予備群」のうち、服薬が有るため特定保健指導対象者にならなかった者。
 - 内臓脂肪蓄積リスク無 ……「2. 特定保健指導予備群」のうち、内臓脂肪蓄積リスク(腹囲・BMI)がないため特定保健指導対象者にならなかった者。
 - 3. 受診勧奨値除外後の特定保健指導対象者 ……受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)に該当していない特定保健指導対象者。
 - 4. 医療機関受診勧奨対象者 健診異常値放置者 ……受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)に該当する者。
 - 健診受診治療中者 ……「4. 医療機関受診勧奨対象者」のうち、健診受診後に生活習慣病に関する医療機関受診がない者。
 - 健診受診治療中者 ……「4. 医療機関受診勧奨対象者」のうち、健診受診後に生活習慣病に関する医療機関受診がある者。または健診受診後生活習慣病に関する医療機関受診はないが、健診受診後間もないため病院受診の意志がない「健診異常値放置者」と判断できない者。
- 健診受診なし
- 5. 健診未受診治療中者 ……生活習慣病治療中の者。
 - 6. 治療中断者 ……過去に生活習慣病の治療をしていたが、生活習慣病に関する医療機関受診が一定期間ない者。
 - 7. 生活習慣病投薬レセプト ……生活習慣病の投薬治療をしていない者。
 - 生活習慣病受診有 ……「7. 生活習慣病状態不明者」のうち、生活習慣病に関する医療機関受診がある者。
 - 生活習慣病受診無 ……「7. 生活習慣病状態不明者」のうち、生活習慣病に関する医療機関受診がない者。

2. 用語解説集

用語		説明
ア 行	HDLコレステロール	余分なコレステロールを回収して肝臓に運び、動脈硬化を抑える。善玉コレステロール。
	LDLコレステロール	肝臓で作られたコレステロールを全身へ運ぶ役割を担っており、増えすぎると動脈硬化を起こして心筋梗塞や脳梗塞を発症させる。悪玉コレステロール。
カ 行	空腹時血糖	空腹時に血液中にあるブドウ糖の量を示している。検査値が高いと糖尿病の疑いがある。
	血圧(収縮期・拡張期)	血管にかかる圧力のこと。心臓が血液を送り出すときに示す最大血圧を収縮期血圧、全身から戻った血液が心臓にたまっているときに示す最小血圧を拡張期血圧という。
	高齢化率	65歳以上の高齢者が総人口に占める割合。
サ 行	ジェネリック医薬品	先発医薬品と治療学的に同等であるものとして製造販売が承認され、一般的に研究開発に要する費用が低く抑えられることから、先発医薬品に比べて薬価が安い医薬品。
	疾病分類	「疾病、傷害及び死因の統計分類」の「ICD-10(2013年版)準拠 疾病分類表」を使用。
	腎不全	腎臓の機能が低下し、老廃物を十分排泄できなくなったり、体内に不要なものや体にとって有害なものがたまっている状態。
	積極的支援	特定健康診査の結果により、生活習慣病の発症リスクがより高い者に対して行われる保健指導。「動機付け支援」の内容に加え、対象者が主体的に生活習慣の改善を継続できるよう、面接、電話等を用いて、3カ月以上の定期的・継続的な支援を行う。
タ 行	中性脂肪	体を動かすエネルギー源となる物質であるが、蓄積することにより、肥満の原因になる。
	動機付け支援	特定健康診査の結果により、生活習慣病の発症リスクが高い者に対して行われる保健指導。医師・保健師・管理栄養士等による個別、またはグループ面接により、対象者に合わせた行動計画の策定と保健指導が行われる。初回の保健指導終了後、対象者は行動計画を実践し、3カ月経過後に面接、電話等で結果の確認と評価を行う。
	特定健康診査	平成20年4月から開始された、生活習慣予防のためのメタボリックシンドロームに着目した健康診査のこと。特定健康診査。40歳～74歳の医療保険加入者を対象とする。
	特定保健指導	特定健康診査の結果により、生活習慣病の発症リスクが高く、生活改善により生活習慣病の予防効果が期待できる人に対して行う保健指導のこと。特定保健指導対象者の選定方法により「動機付け支援」「積極的支援」に該当した人に対し実施される。
ナ 行	日本再興戦略	日本産業再興プラン・戦略市場創造プラン・国際展開戦略の3つのアクションプランを軸とする。データヘルス計画に関する内容は、戦略市場創造プランの【テーマ1：国民の「健康寿命」の延伸】の中に「予防・健康管理の推進に関する新たな仕組みづくり」の一つとして示されている。
ハ 行	HbA1c	ブドウ糖と血液中のヘモグロビンが結びついたもので、過去1～2カ月の平均的な血糖の状態を示す検査に使用される。
マ 行	メタボリックシンドローム	内臓脂肪型肥満に高血圧、高血糖、脂質代謝異常が組み合わさり、心臓病や脳卒中などの動脈硬化性疾患を招きやすい状態。内臓脂肪型肥満(内臓肥満・腹部肥満)に加えて、血圧・血糖・脂質の基準のうち2つ以上に該当する状態を「メタボリックシンドローム」、1つのみ該当する状態を「メタボリックシンドローム予備群」という。
ヤ 行	有所見	検査の結果、何らかの異常(検査基準値を上回っている等)が認められたことをいう。
ラ 行	レセプト	診療報酬請求明細書の通称。

3. 疾病分類表(2013年版)

コード	疾病分類	主な疾病		
I. 感染症及び寄生虫症				
0101	腸管感染症	下痢症	急性胃腸炎	感染性胃腸炎
0102	結核	肺結核	結核性胸膜炎	潜在性結核感染症
0103	主として性的伝播様式をとる感染症	梅毒	クラミジア頸管炎	淋病
0104	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	尋常性疣贅	帯状疱疹	単純ヘルペス
0105	ウイルス性肝炎	B型肝炎	C型肝炎	C型慢性肝炎
0106	その他のウイルス性疾患	アデノウイルス感染症	流行性角結膜炎	RSウイルス感染症
0107	真菌症	足白癬	皮膚カンジダ症	爪白癬
0108	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	陳旧性肺結核	肺結核後遺症	小児麻疹後遺症
0109	その他の感染症及び寄生虫症	ヘリコバクター・ピロリ感染症	溶連菌感染症	敗血症
II. 新生物<腫瘍>				
0201	胃の悪性新生物<腫瘍>	胃癌	早期胃癌	胃体部癌
0202	結腸の悪性新生物<腫瘍>	大腸癌	S状結腸癌	上行結腸癌
0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	直腸癌	直腸S状部結腸癌	直腸癌術後再発
0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	肝癌	肝細胞癌	原発性肝癌
0205	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	肺癌	上葉肺癌	下葉肺癌
0206	乳房の悪性新生物<腫瘍>	乳癌	乳房上外側部乳癌	乳癌再発
0207	子宮の悪性新生物<腫瘍>	子宮体癌	子宮頸癌	子宮癌
0208	悪性リンパ腫	悪性リンパ腫	非ホジキンリンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
0209	白血病	成人T細胞白血病リンパ腫	白血病	慢性骨髄性白血病
0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌	睪癌	膀胱癌
0211	良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	子宮筋腫	脳腫瘍	肺腫瘍
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害				
0301	貧血	鉄欠乏性貧血	貧血	巨赤芽球性貧血
0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	播種性血管内凝固	血液凝固異常	血小板減少症
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患				
0401	甲状腺障害	甲状腺機能低下症	甲状腺機能亢進症	甲状腺腫
0402	糖尿病	糖尿病	2型糖尿病	糖尿病網膜症
0403	脂質異常症	高脂血症	高コレステロール血症	脂質異常症
0404	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	脱水症	高尿酸血症	卵巣機能不全
V. 精神及び行動の障害				
0501	血管性及び詳細不明の認知症	認知症	血管性認知症	老年精神病
0502	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	ニコチン依存症	アルコール依存症	急性アルコール中毒
0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	統合失調症	統合失調症様状態	幻覚妄想状態
0504	気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)	うつ病	うつ状態	躁うつ病
0505	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	不安神経症	神経症	心身症
0506	知的障害<精神遅滞>	知的障害	軽度知的障害	重度知的障害
0507	その他の精神及び行動の障害	摂食障害	器質性精神障害	せん妄

コード	疾病分類	主な疾病		
VI. 神経系の疾患				
0601	パーキンソン病	パーキンソン症候群	パーキンソン病	パーキンソン病Yahr 3
0602	アルツハイマー病	アルツハイマー型認知症	アルツハイマー病	アルツハイマー型老年認知症
0603	てんかん	てんかん	症候性てんかん	精神運動発作
0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	片麻痺	脳性麻痺	不全麻痺
0605	自律神経系の障害	自律神経失調症	神経調節性失神	自律神経障害
0606	その他の神経系の疾患	不眠症	片頭痛	睡眠時無呼吸症候群
VII. 眼及び付属器の疾患				
0701	結膜炎	アレルギー性結膜炎	結膜炎	慢性結膜炎
0702	白内障	白内障	加齢性白内障	後発白内障
0703	屈折及び調節の障害	近視性乱視	遠視性乱視	老視
0704	その他の眼及び付属器の疾患	ドライアイ	緑内障	眼精疲労
VIII. 耳及び乳様突起の疾患				
0801	外耳炎	外耳炎	外耳湿疹	急性外耳炎
0802	その他の外耳疾患	耳垢栓塞	耳介軟骨膜炎	耳瘻孔
0803	中耳炎	滲出性中耳炎	急性中耳炎	中耳炎
0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患	耳管狭窄症	耳管機能低下	真珠腫性中耳炎
0805	メニエール病	メニエール病	メニエール症候群	内耳性めまい
0806	その他の内耳疾患	良性発作性頭位めまい症	末梢性めまい症	耳性めまい
0807	その他の耳疾患	感音難聴	難聴	耳鳴症
IX. 循環器系の疾患				
0901	高血圧性疾患	高血圧症	本態性高血圧症	高血圧性心疾患
0902	虚血性心疾患	狭心症	急性心筋梗塞	心筋梗塞
0903	その他の心疾患	心不全	不整脈	慢性心不全
0904	くも膜下出血	くも膜下出血	くも膜下出血後遺症	脳動脈瘤破裂
0905	脳内出血	脳出血	脳出血後遺症	視床出血
0906	脳梗塞	脳梗塞	脳梗塞後遺症	多発性脳梗塞
0907	脳動脈硬化（症）	脳動脈硬化症	動脈硬化性脳症	
0908	その他の脳血管疾患	内頸動脈狭窄症	頸動脈硬化症	脳血管障害
0909	動脈硬化（症）	閉塞性動脈硬化症	動脈硬化症	動脈硬化性網膜症
0911	低血圧（症）	起立性低血圧症	低血圧症	起立性調節障害
0912	その他の循環器系の疾患	深部静脈血栓症	末梢循環障害	慢性動脈閉塞症
X. 呼吸器系の疾患				
1001	急性鼻咽頭炎 [かぜ] <感冒>	感冒	急性鼻炎	急性鼻咽頭炎
1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	咽頭炎	急性咽頭炎	扁桃炎
1003	その他の急性上気道感染症	急性上気道炎	急性咽頭喉頭炎	急性副鼻腔炎
1004	肺炎	肺炎	急性肺炎	マイコプラズマ肺炎
1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	急性気管支炎	マイコプラズマ気管支炎	クループ性気管支炎

コード	疾病分類	主な疾病		
1006	アレルギー性鼻炎	アレルギー性鼻炎	花粉症	季節性アレルギー性鼻炎
1007	慢性副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎	副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎急性増悪
1008	急性又は慢性と明示されない気管支炎	気管支炎	気管気管支炎	びまん性気管支炎
1009	慢性閉塞性肺疾患	慢性気管支炎	肺気腫	慢性閉塞性肺疾患
1010	喘息	気管支喘息	喘息性気管支炎	気管支喘息発作
1011	その他の呼吸器系の疾患	インフルエンザ	呼吸不全	誤嚥性肺炎
X I. 消化器系の疾患				
1101	う蝕	う蝕	二次う蝕	う蝕第2度
1102	歯肉炎及び歯周疾患	歯周炎	歯肉炎	歯冠周囲炎
1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	顎関節症	歯痛	顎関節炎
1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	胃潰瘍	十二指腸潰瘍	出血性胃潰瘍
1105	胃炎及び十二指腸炎	慢性胃炎	胃炎	急性胃炎
1106	痔核	内痔核	痔核	外痔核
1107	アルコール性肝疾患	アルコール性肝障害	アルコール性肝炎	アルコール性肝硬変
1108	慢性肝炎（アルコール性のものを除く）	慢性肝炎	活動性慢性肝炎	慢性肝炎増悪
1109	肝硬変（アルコール性のものを除く）	肝硬変症	原発性胆汁性肝硬変	非代償性肝硬変
1110	その他の肝疾患	肝機能障害	脂肪肝	肝障害
1111	胆石症及び胆のう炎	胆のう結石症	胆のう炎	総胆管結石
1112	膵疾患	膵炎	急性膵炎	慢性膵炎
1113	その他の消化器系の疾患	便秘症	逆流性食道炎	口内炎
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患				
1201	皮膚及び皮下組織の感染症	皮膚感染症	蜂窩織炎	膿疱疹性湿疹
1202	皮膚炎及び湿疹	湿疹	皮膚炎	アトピー性皮膚炎
1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮脂欠乏症	皮脂欠乏性湿疹	じんま疹
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患				
1301	炎症性多発性関節障害	関節リウマチ	痛風	関節炎
1302	関節症	変形性膝関節症	変形性関節症	変形性股関節症
1303	脊椎障害（脊椎症を含む）	腰部脊柱管狭窄症	変形性腰椎症	頸椎症
1304	椎間板障害	腰椎椎間板症	腰椎椎間板ヘルニア	頸椎椎間板ヘルニア
1305	頸腕症候群	頸肩腕症候群	頸肩腕障害	
1306	腰痛症及び坐骨神経痛	腰痛症	坐骨神経痛	筋筋膜性腰痛症
1307	その他の脊柱障害	腰椎すべり症	背部痛	頸部痛
1308	肩の傷害<損傷>	肩関節周囲炎	肩関節腱板炎	肩石灰性腱炎
1309	骨の密度及び構造の障害	骨粗鬆症	閉経後骨粗鬆症	脊椎骨粗鬆症
1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	筋肉痛	神経痛	関節痛
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患				
1401	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	腎炎	腎盂腎炎	水腎症
1402	腎不全	慢性腎不全	腎性貧血	腎不全

コード	疾病分類	主な疾病		
1403	尿路結石症	腎結石症	尿管結石症	尿路結石症
1404	その他の腎尿路系の疾患	膀胱炎	腎機能低下	尿路感染症
1405	前立腺肥大（症）	前立腺肥大症	前立腺症	
1406	その他の男性生殖器の疾患	慢性前立腺炎	前立腺炎	亀頭包皮炎
1407	月経障害及び閉経周辺期障害	更年期症候群	月経困難症	萎縮性膣炎
1408	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	子宮腔部びらん	細菌性膣炎	膣炎
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく				
1501	流産	稽留流産	異所性妊娠	絨毛性疾患
1502	妊娠高血圧症候群	妊娠高血圧症候群	重症妊娠高血圧症候群	子癇
1503	単胎自然分娩	自然頭位分娩	自然分娩	単胎自然分娩
1504	その他の妊娠, 分娩及び産じょく	切迫流産	子宮内感染症	血液型不適合
X VI. 周産期に発生した病態				
1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	子宮内胎児発育遅延	低出生体重児	早産児
1602	その他の周産期に発生した病態	新生児黄疸	胎児ジストレス	A B O 因子不適合
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常				
1701	心臓の先天奇形	心房中隔欠損症	心室中隔欠損症	先天性心疾患
1702	その他の先天奇形, 変形及び染色体異常	足底角化症	角皮症	毛孔性苔癬
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの				
1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	頭痛	嘔吐症	めまい症
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響				
1901	骨折	腰椎圧迫骨折	肋骨骨折	大腿骨頸部骨折
1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	脳挫傷	外傷性脳出血	硬膜下血腫
1903	熱傷及び腐食	熱傷	第2度熱傷	手熱傷
1904	中毒	刺虫症	蜂刺症	食中毒
1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	打撲傷	結膜異物	捻挫
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用				
2101	検査及び診査のための保健サービスの利用者	検診	健康診断	胃癌検診
2102	予防接種	予防接種		
2103	正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	妊娠	正常妊娠	多産婦
2104	歯の補てつ			
2105	特定の処置（歯の補てつを除く）及び保健ケアのための保健サービスの利用者	抜釘	気管切開口に対する手当て	骨髄移植ドナー
2106	その他の理由による保健サービスの利用者	白内障術後	ペースメーカー植え込み後	人工股関節置換術後
X X II. 特殊目的用コード				
2210	重症急性呼吸器症候群 [SARS]	重症急性呼吸器症候群		
2220	その他の特殊目的用コード			
分類外				
9999	分類外	ICD-10及び疾病分類に該当のない疾病		